

日本映画大学 映画学部

# シラバス

(授業内容)

2019年度

「シラバス」は、受講科目を選択する上で必要となる各科目の授業内容を記載したものです。各科目の記載内容をよく読んで、十分に活用してください。

本書のほかに『学生便覧』（入学時のみ）、「授業時間割表」、「科目配分表」を配付します。これらには履修上必要な事柄が記載されていますので、大切に保管し履修に役立ててください。

履修に関する事項、授業に関する事項など、学生支援部からのお知らせは、各校舎の掲示板または日本映画大学メールで行いますので必ず確認してください。

# 目次

目次	2
学年暦・授業日程一覧	4
教育方針	5
シラバスの見方	6

## 【シラバス（授業内容）】

### 教養科目〈基幹〉

スタートアップ演習	8
人間総合研究	9

### 教養科目／専門科目（選択）

日本映画史Ⅰ（前期）	10
日本映画史Ⅰ（後期）	11
映画史概論（前期）	12
映画史概論（後期）	13
日本映画史Ⅱ	14
映画史基礎	15
ドキュメンタリー映画史	16
表象文化論Ⅰ	17
テーマ研究Ⅰ〈アジア映画入門〉	18
サブ・カルチャー論	19
日本文化論	20
表象文化論Ⅱ	21
テーマ研究Ⅱ〈日本映画と中国語圏映画〉	22
テーマ研究Ⅲ〈映画ジャンル論〉	23
物語論	24
写真論	25
映画と文学	26
文学	27
ファッション文化史	28
美術史Ⅰ〈日本美術史〉	29
映画と演劇	30
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉	31
英米文学	32
哲学	33
演劇史Ⅰ〈物語の原型を探る〉	34
演劇史Ⅱ〈原型の崩壊から現代まで〉	35
映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ〈戦後日本〉	36
心の健康	37
映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ〈国際情勢〉	38
映画流通論Ⅰ	39
社会学	40
映画流通論Ⅱ	41

デジタル映像技術概論	42
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ジェンダーとセクシュアリティ〉	43
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ〈ネイションとエスニシティ〉	44
日本語Ⅰ	45
英語Ⅰ	46
中国語	47
文章作法	48
国際合同制作〈日韓合同映画制作〉	49
日本語Ⅱ	50
英語Ⅱ	51
韓国語	52
キャリア・サポートⅡ	53
こども映画教育演習	54
インターンシップ	55
日本文化論Ⅱ	56
物語WS	57
批評論	58
日本伝統音楽概論	59
民俗学〈ビジュアル・フォークロア〉	60
現代思想	61
映画文化特殊講義〈環境・災害・技術〉	62
生涯学習概論Ⅰ	63
体育	64

### 専門基礎科目／専門科目（選択）

デジタル技術WS	65
ドキュメンタリーWS	66
映画プロデュースWS	67
映画美術演習Ⅰ	68
映画美術演習Ⅱ	69
演出論Ⅰ	70
録音WS	71
演劇WS	72
編集WS	73
特殊撮影・VFX基礎	74
演出論Ⅱ	75
特殊撮影・VFXWS	76

### 基礎科目

脚本基礎演習	77
映画制作基礎演習	78
長編シナリオ演習Ⅰ	79
長編シナリオ演習Ⅱ	80
長編シナリオ演習Ⅰ（編入生）	81
長編シナリオ演習Ⅱ（編入生）	82
長編シナリオ制作（再履修）	83
長編シナリオ演習Ⅱ（再履修）	84

<b>専門科目（2年）</b>	博物館経営論	125
演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉	博物館実習	126
撮影照明基礎演習	科目別索引	127
録音基礎演習	授業担当教員	129
編集基礎演習		
雑誌制作		
演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉		
撮影照明専門演習		
録音専門演習		
編集専門演習		
インプロビゼーション演習		
<b>専門科目（3年）</b>		
脚本専門演習Ⅱ〈短編映画制作〉		
脚本WSⅡ（脚本コース）		
演出専門演習Ⅱ〈3分エチュード〉		
身体表現専門演習		
撮影照明専門演習		
録音専門演習		
編集専門演習		
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ		
映画・映像文化専門演習Ⅱ		
脚本WSⅠ（演出、身体表現・俳優コース）		
脚本WSⅡ（演出、身体表現・俳優コース）		
合同制作〈ドラマ〉（演出コース）		
合同制作〈ドラマ〉（身体表現・俳優コース）		
合同制作〈ドラマ〉（撮影照明コース）		
合同制作〈ドラマ〉（録音コース）		
合同制作〈ドラマ〉（編集コース）		
ドキュメンタリー専門演習Ⅲ		
脚本専門演習Ⅲ〈脚色〉		
映画・映像文化専門演習Ⅲ		
<b>専門科目（4年）</b>		
卒業制作〈ドラマ〉（演出コース）		
卒業制作〈ドラマ〉（撮影照明コース）		
卒業制作〈ドラマ〉（録音コース）		
卒業制作〈ドラマ〉（編集コース）		
卒業制作〈ドキュメンタリー〉		
卒業制作〈公演〉（身体表現・俳優コース）		
卒業シナリオⅠ		
卒業シナリオⅡ		
卒業論文Ⅰ		
卒業論文Ⅱ		
<b>資格科目</b>		
博物館展示論		124

2019年度学年暦・授業日程一覧

  = 授業実施日   = 試験・授業調整日・ガイダンスなど

【前期】 4月1日～9月30日

4月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30					

5月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31		

6月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
30							

7月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31				

8月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

9月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

【後期】 10月1日～3月31日

10月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31			

11月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	

12月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					

1月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31		

2月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	

3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					

- 4月 3日(水) 入学式、総合ガイダンス
- 4日(木)～8日(月) 新入生ガイダンス
- 4日(木)～6日(土) 前期履修登録、後期学業成績通知書配付
- 8日(月) 授業開始
- 10日(水)～12日(金) 追加履修登録
- 19日(金)～20日(土) 学生定期健康診断
- 29日(月) 昭和の日(授業実施日)
- 30日(火) 国民の祝日(授業実施日)

---

- 5月 1日(水) 天皇の即位の日(授業実施日)
- 2日(木) 国民の休日(休日)
- 3日(金) 憲法記念日(休日)
- 4日(土) みどりの日(休日)
- 6日(月) こどもの日振替休日(授業実施日)

---

- 7月 15日(月) 海の日(授業実施日)
- 27日(土) 前期授業終了
- 29日(月)～8月3日(土) 授業調整日
- 29日(月)～8月7日(水) 前期追試験願提出期間

---

- 8月 5日(月)～6日(火) 前期定期試験期間
- 7日(水)～9月15日(日) 夏季休業
- 17日(土) 前期履修結果発表、追試験・再試験課題発表
- 17日(土)～20日(火) 前期追・再試験手続期間
- 28日(水)～29日(木) 前期追・再試験期間

---

- 9月 2日(月)～13日(金) 夏期集中科目授業期間
- 14日(土) 授業調整日
- 11日(水)～13日(金) 後期履修登録、前期学業成績通知書配付
- 16日(月) 後期授業開始、敬老の日(授業実施日)
- 17日(火)～19日(木) 追加履修登録
- 23日(月) 秋分の日(授業実施日)
- 27日(金) 前期末卒業式

- 10月 5日(土) 夏期集中科目履修結果発表
- 14日(月) 体育の日(授業実施日)
- 15日(火) 創立記念日(授業実施日)
- 22日(火) 即位礼正殿の儀(授業実施日)

---

- 11月 4日(月) 文化の日振替休日(授業実施日)
- 11日(月)～16日(土) 授業調整日
- 15日(金) 1年生系・コース説明会
- 23日(土) 勤労感謝の日(授業実施日)

---

- 12月 18日(水) 1年生系・コース選択ガイダンス
- 21日(土) 年内授業終了
- 23日(月)～25日(水) 授業調整日
- 26日(木)～1月5日(日) 冬季休業

---

- 1月 6日(月) 授業再開
- 13日(月) 成人の日(休日)
- 24日(金) 1年生系・コース発表
- 25日(土) 後期授業終了
- 27日(月) 1年生系・コース別ガイダンス
- 27日(月)～30日(木) 授業調整日
- 27日(月)～2月7日(金) 後期追試験願提出期間
- 31日(金)～2月1日(土) 後期定期試験期間

---

- 2月 3日(月)～10日(月) 春期集中科目授業期間
- 12日(水)～3月31日(火) 学年末休業
- 17日(月) 後期履修結果発表、追試験・再試験課題発表
- 17日(月)～19日(水) 後期追・再試験手続期間
- 24日(月)～25日(火) 後期追・再試験期間

---

- 3月 7日(土) 卒業生発表、後期学業成績通知書配付(4年)
- 9日(月) 学内奨学金選考結果発表
- 19日(木) 卒業式

# 教育方針

## 建学の精神

1975年（昭和50）年、今村昌平監督は、失われつつある映画撮影所に代わり、映画製作を志す若者を養成するために2年制の専門学院を開設しました。

今村監督はさらに「知は武器である」の理念のもとに、大学設立を視野に入れた構想を1990（平成2）年に発表。残念ながら、その夢の実現を見ることなく今村監督は逝去されましたが、いま、私たちは監督の「思い」を引き継ぎ、学院創設以来ここから巣立ち、輝かしい業績を示しつつある卒業生たちに支えられながら、2011（平成23）年春、日本映画大学を開学しました。

私たちは、あらゆる映像の原理であり世界の共通語である映画を中心に、「映画人の養成と学術コミュニティの構築」「人間として生きる力となる映画力」「映画を媒体とした地域社会との連携」を目的として、新しい感性と専門的な技術を持って映画を創り出していき、高度な知識の獲得へ向かって研究する者、さまざまな分野で映画を媒体として地域を発展させる者、を養成していきたいと考えています。

映画は1秒24コマのフィルムで表現してきました。しかし、映画はいま大きな転換期を迎えています。未来の映画がフィルムという形式で存続するのか、日々進展し続けるデジタルへと変化していくのか。

いずれにせよ、約120年前に人間が手にした「動く映像」の次の世界を創り出し、その将来を見届けるのは映画への新しい参入者であり、そのような人間たちを育成することが日本映画大学の使命であると考えます。

## アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

日本映画大学は以下のような学生を求めています。

- 1) 美醜や善悪および人間の欲望全般に強い関心を持っている。
- 2) 映画や小説をはじめ芸術・芸能が好きである。
- 3) 他人と協力することができる。

## カリキュラム・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

日本映画大学は、以下の科目構成によって、映画制作の技術を実践的に体得し、映像文化の歴史を理論的に理解し、社会に貢献する教養と人格を身に付けた学生を育成します。

【2018年度以降入学生】

- 1) 教養科目 ……映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身につける。同時に、映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。
- 2) 基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。
- 3) 専門基礎科目 ……各コースの基礎を学ぶとともに、専門科目で修得する知識や技術をさらに発展させるための力を身につける。
- 4) 専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究めるとともに、他のコースと合同で課題に取り組むことでチームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 4年間の学びの集大成として、卒業制作に取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。

【2017年度以前入学生】

- 1) 教養科目 ……映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。（4年間通年）
- 2) 基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。同時に、映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身に付ける。（2年次前期まで）
- 3) 専門基礎科目 ……各コース（演出、脚本、撮影照明、録音、編集、ドキュメンタリー、映画・映像文化、身体表現・俳優）の基礎を学び、適性や進路にふさわしいコースを選ぶ。（2年次前期）
- 4) 専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究める。（2年次後期より）
- 5) 4年間の学びの集大成として、卒業制作、卒業シナリオ、卒業論文のいずれかに取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。（4年次）

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本映画大学は、以下の要件を満たした学生に、映画学士の学位を授与します。

- 1) 映画制作の技術の実践的な体得。
- 2) 映像文化の歴史の理論的な理解。
- 3) 社会に貢献するための教養と人格。
- 4) 他者とともに問題解決に臨む姿勢。
- 5) 所定の卒業必要単位の修得。

## 欠席時の対応

授業に出席しない場合はどのような理由であれ欠席となります。事前に欠席することが明らかな場合は、まず授業担当教員に相談してください。欠席をどのように扱うかは、授業担当教員にゆだねられています。事務室に欠席する旨を申し出ても授業担当教員への伝達は行いませんので、シラバスに記載されている「教員への連絡方法」により直接連絡し、指示を仰いでください。

長期にわたって欠席をする場合は、授業担当教員等と緊密な連絡をとり、その科目の履修と単位修得に遺漏のないようにしてください。

### 学校感染症に感染した場合

学校保健安全法により定められた学校感染症と診断された場合は、感染拡大を防ぐため、主治医から就学可能の判断があるまでは大学に登校（出席停止）することができません。出席停止となる感染症の種類は、学校保健安全法施行規則第18条により次のとおり定められており、感染症の種類に応じて出席停止の期間が決められています。感染症に罹患した場合は病院または自宅で療養するとともに、すみやかに学生支援部に連絡し、必要な手続きを行ってください。

	感染症の種類
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る）、特定鳥インフルエンザ
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

- ・登校可能となった日を含む7日以内に、「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）と「罹患証明書」を学生支援部に提出してください。
- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・罹患期間内の授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことには変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

### 裁判員制度に伴う欠席

裁判員選任手続き期間または裁判員に選任された公判のため、裁判所へ出頭する必要があり、授業を欠席しなければならない場合は、裁判所から送付された書類をよく読み、自身の授業スケジュールを確認したうえで、手続きを行ってください。

#### 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内に、裁判所が発行する、裁判員の職務従事期間についての「証明書」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

#### 裁判員に選任されなかった場合

選任手続き期日の翌日から7日以内に、裁判所出頭日の証明を受けた「選任手続き期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

#### その他

- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことには変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

## シラバスの見方

科目名	授業科目名のほか、〈 〉内には副題が、( )内にはコースまたはクラスの指定がそれぞれ記載されています。
担当者名	当該科目を担当する教員（創作系科目については専任教員のみ）が記載されています。なお、複数の担当者が記載されている場合は、先頭の教員が主担当者となります。
入学年度	入学年度によって履修できる科目が異なります。入学年度と学年の関係は次のとおりです。なお、編入学生や復学した学生の場合は、在籍する学年の入学年度に準じます。 [2019] 1年生 [2018] 2年生 [2017] 3年生 [2016] 4年生 [2015] 4年生
科目区分	専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」「資格科目」の区分があります。
科目分類	履修する上での条件に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」「自由科目」に分類されます。必修科目は必ず全員が履修する科目です。また、自由科目は卒業要件には含まれない科目です。
授業形態・単位数	すべての授業科目は、「講義」「演習」「実習」のいずれかに属します。これら授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。
配当年次	当該科目が履修できる学年を表しています。記載のない学年での履修はできません。
学期	授業が行われる時期を表しています。なお、「通年」は前期および後期にまたがって授業が行われます。
講義型	各授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。 A1 (1×15) 毎週1コマの授業が15週にわたって行われます。 A2 (2×15) 毎週2コマ連続の授業が15週にわたって行われます。 B1 (3×5) 毎週3コマ連続の授業が5週にわたって行われます。 C1 (1+2×7) 初回1週目は1コマの授業、翌週から2コマ連続の授業が7週行われます。 C2 (2×7+1) 1週目から2コマ連続の授業が7週行われ、最終8週目は1コマの授業となります。 C3 (2×6+3) 1週目から2コマ連続の授業が6週行われ、最終7週目は3コマの授業となります。 C4 (2×8) 毎週2コマ連続の授業が8週にわたって行われます。 E (集中) 夏期や春期などの休業期間に集中的に行われます。 F (その他) 上記のいずれにもあてはまらない科目です。
校舎	授業が白山校舎〔白山〕、新百合ヶ丘校舎〔新百合〕のどちらで行われるかを表しています。
履修条件	当該科目を受講する上で履修しておかなければならない科目（先修条件）、あるいは履修しておくことが望ましい科目が記載されています。また、【読替科目】に指定されている科目が履修済の場合は、当該科目の履修はできません。
授業概要	授業の全体像が把握できるよう、科目全体の内容、ねらい、授業で扱う学問的テーマ、授業の進め方といった、授業内容の概略が記載されています。
到達目標	当該科目を履修した結果、どのような知識や能力が修得できるようになるのかといった到達目標が記載されています。
授業計画	毎回の授業計画が記載されています。その回においてどのようなことを学ぶか、どのような授業が行われるのかをあらかじめ知ることができます。
授業外学習	授業外での事前・事後の準備学習（予習・復習に必要な時間や学修内容等）についての指示が記載されています。
教科書・主要参考書	使用する教科書、参考書が記載されています。なお、教科書の入手方法は掲示によって行います。
評価方法	当該科目の単位を修得するにあたり、どのような評価方法に基づいて行われるのかが記載されています。
教員への連絡方法	授業開講日以外の日に、授業内容についての質問を受け付ける場合の連絡方法が記載されています。なお、専任教員についてはオフィスアワー制度も設けられていますので、そちらも活用してください。

科目名					担当者名			
スタートアップ演習					ハン・トンヒョン、天願 大介、石坂 健治、大友 りお、田辺 秋守、安岡 卓治、伊津野 知多、大澤 信亮、関川 夏央 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(基幹/映画領域)	必修	演習	4	1	前期	F(その他)	新百合 白山
履修条件	1年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。							
授業概要	<p>大学での学びへの導入となる科目である。本学で映画を学んでいくうえで必要な心構えと基礎的な力を、複数の教員による講義とグループで行うワークショップを通して身につける。</p> <p>具体的には、映画の見方やネットと調査、プレゼンテーション、さらにこの後スタートする「人間総合研究」に備えて企画立案や取材の方法・倫理、現代社会に関する基礎的な教養などについて学ぶ。</p>							
到達目標	<p>①大学での学習に向けた心構えと、映画を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。</p> <p>②グループで行うワークショップを通して、積極的にスムーズなコミュニケーションに慣れる。</p>							
授業計画	週数	内容						
	1	ガイダンス ネットと調査ワークショップ①②						
	2	プロに学ぶ映画の見方① ネットと調査ワークショップ③						
	3	プロに学ぶ映画の見方②③						
	4	映画・映像で学ぶ日本社会①						
	5	映画・映像で学ぶ日本社会② プレゼンテーション・ワークショップ①						
	6	映画・映像で学ぶ日本社会③ プレゼンテーション・ワークショップ②						
	7	映画・映像で学ぶ日本社会④ 「人間総合研究」に向けて①						
	8	「人間総合研究」に向けて②③						
	9	「人間総合研究」に向けて④						
授業外学習	各授業を担当する教員の指示に従うこと。							
教科書	教科書は使用しない。							
主要参考書	必要な資料は配布する。							
評価方法	出席と授業内課題で100%							
教員への連絡方法	メール							



科目名		担当者名						
人間総合研究		細野 辰興、ハン・トンヒョン ほか						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(基幹/映画領域)	必修	演習	8	1	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。							
授業概要	<p>「個々の人間に相対し、人間とはかくも汚濁にまみれているものか、人間とはかくもピュアなるものか、何とうさんくさいものか、何と助平なものか、何と優しいものか、何と弱々しいものか、人間とは何と滑稽なものなのかを、真剣に問い、総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。個々の人間観察をなし遂げる為にこの学校はある」という本学の理念を象徴する看板授業。</p> <p>魅力的な「人」を探し、その人について掘り下げていくいわば「ドキュメンタリー」を、動画を使わず、写真や音声素材をまとめて30分の作品として構成し、合評会で発表する。1クラスに担任教員を含む2人の担当教員がつき指導とアドバイスをを行うが、企画の立案から取材(撮影、録音)、発表まで、すべて学生たち自身がグループごとに協力しながら行うことになる。</p> <p>人間総合研究は、自分ではない誰かについて調べ、向き合っ、迫り、それを表現する実習だが、その人を表現するためにはその人の内面のみならずそれを支える外面、つまりその人がよって立つ個人的、社会的背景についても掘り下げ、立体的に把握していかなくてはならない。またグループ内でのチームワークも重要で、まさに映画を学ぶうえでの第一歩となる総合的な実習だ。</p>							
到達目標	挑戦と失敗、つまり試行錯誤を繰り返すなかで、対象者と世の中、そして自分と他人について知り(何を知らないのか、何ができないのかも知り)、今後4年間の糧とする。							
授業計画	週数	内容						
	1	1. 企画立案・プレゼンテーション クラス全員が企画を考え、企画書を作成してプレゼンテーションをする。企画の発表では、ひとことという「どのような人物を取り上げたいのか。それはどうしてなのか。そのようにして発表したい作品のテーマと面白さとは何なのか」をアピールする。学生どうして企画に関するディスカッションを行い、調査やブレ取材も行う。						
	2	2. 企画決定・班編成 投票や議論を通じて企画を絞り、最終的に1クラスあたり2つの企画に決定する。企画決定後は、企画別にクラスを2班にわけ、班ごとにプロデューサー、副プロデューサー、インタビュアー、撮影班、録音班、調査班などの分担を決め、決まった企画に丸となって取り組んでいく(写真撮影と録音に関しては、プロの写真家、録音技師から、機材の基本的な使い方を学ぶ特講が開かれる)						
	3	3. 調査・取材① 文献(書籍、新聞、雑誌その他)などを通じて対象者とその背景にあるものについての調査を深めながら、対象者と周辺人物、関連する現場などを直接訪ね、取材を行う。インタビューをはじめとする取材のための交渉、手配など、あらゆる準備は学生自身が行う。インタビュー音声は全員で手分けして文字起こす。ミーティングを重ねながら、さまざまなハードルをクリアして調査、取材を進めるなかで、対象者とその背景に対する理解を深め、テーマに迫っていく。						
	4	3. 調査・取材②						
	5	4. 制作・構成① 取材、調査して集めた写真、音声などの多くの素材のなかから何を使い、どう伝えるかを考え、まとめていく。改めて構成台本・演出担当を決め、班のメンバーで議論を重ねながら発表用の構成台本を練り、スライドを選び、音声を編集していく。スライドにテロップを入れるパワーポイントも作成する。この過程で、合評会での発表時のナレーター、スライド、音声、照明、パワーポイントなどの分担も決める。						
	6	4. 制作・構成②						
	7	5. リハーサル 完成した構成台本にもとづき、発表に向けたリハーサルを繰り返す。取材し、集めた写真と音声のほか、音楽、効果音、場合によってはパフォーマンスなどを取り入れながら演出する。各班の取材と議論の成果、見つけてきたテーマとオリジナリティが30分の発表のかたちになっていく。						
8	6. 合評会 構成台本を手元にナレーション、写真スライド、編集した音声を使って、教員、学生の前で発表します。教員からは厳しい講評が飛ぶこともあるが、その経験は映画づくりへの第一歩を踏み出すための貴重な財産となるだろう。							
授業外学習	授業の進捗状況に応じて、各担当教員から指示する。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	実習への参加態度と姿勢、共同作業でのコミュニケーションや貢献度などから総合的に評価する。							
教員への連絡方法	授業内で各担当教員が伝える。							

科目名					担当者名			
日本映画史 I (前期)					佐藤 忠男			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画領域)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
2018	教養(映画史科目群/映画領域)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	—	—	—	—	—	—	—	—
履修条件	1年生は前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。この科目が不合格となっても「日本映画史 I (後期)」を履修することは不可。2年生は前期のみ開講。2020年度からは1年次のみ配当科目となる。 「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。2年生も履修することが望ましい。 【読替科目】 日本映画史(～2018年度)							
授業概要	毎回2コマ連続の授業とし、はじめに古典的な映画を1本上映し、続く時間にその作品の解説と分析と批評を行う。歴史的背景や技術的発展を講義し、あわせて製作、配給、上映などの産業的発展についても述べる。 ※上映作品は変更する場合がある。							
到達目標	それぞれの時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知って、それに感動と誇りをもてるようになってもらいたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	【第1日】						
	2	映画「生まれてはみたけれど」 1932年松竹蒲田作品を鑑賞する。 サイレント映画の技法について。小津安二郎監督の主題と技法について。						
	3	【第2日】						
	4	映画「残菊物語」 1939年松竹作品を鑑賞する。 溝口健二監督の主題と技法について。前回の「生まれてはみたけれど」の小津安二郎監督との比較。						
	5	【第3日】						
	6	映画「生きる」 1952年東宝作品を鑑賞する。 黒澤監督の主題と技法について。						
	7	【第4日】						
	8	映画「有りがたうさん」 1952年大映作品を鑑賞する。 清水宏監督の主題と技法を分析する。						
	9	【第5日】						
	10	映画「復讐するは我にあり」 1979年松竹-今村プロ作品を鑑賞する。 今村昌平監督の主題と技法について論じる。						
	11	【第6日】						
	12	映画「けんかえれじい」を鑑賞する。 鈴木清順監督の主題と技法を論じる。						
	13	【第7日】						
	14	映画「絞死刑」を鑑賞する。 日本映画の伝統と将来を考える。 大島渚監督の主題と技法を論じる。						
15	まとめ							
授業外学習	授業で論じた監督の他の作品を図書館のDVDなどで、極力多く見て比較研究すること。							
教科書	「日本映画史」の授業に教科書は使用しない。強いて言えば図書室に多数置いてある佐藤忠男著「日本映画史」(全四巻、岩波書店)が教科書である。ただ大部で高価な本だから買わなくても図書室で読んでくれるだけでいい。							
主要参考書	小津安二郎、溝口健二、今村昌平、大島渚などについては多くの研究書がある。極力、多様な観点をそれらの研究書で学ぶことをすすめる。							
評価方法	受講態度(20%)とレポート等の課題(80%)を総合して判定・評価する。							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡を取ってください。							

科目名					担当者名				
日本映画史 I (後期)					佐藤 忠男				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2019～ ～2018	教養(映画史科目群/映画領域)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	1年生は前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。「日本映画史 I (前期)」を履修した者は履修不可。「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。								
授業概要	毎回2コマ連続の授業とし、はじめに古典的な映画を1本上映し、続く時間にその作品の解説と分析と批評を行う。歴史的背景や技術的發展を講義し、あわせて製作、配給、上映などの産業的發展についても述べる。 ※上映作品は変更される場合がある。								
到達目標	それぞれの時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知って、それに感動と誇りをもてるようになってもらいたい。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	【第1日】 映画「生まれてはみたけれど」1932年松竹蒲田作品を鑑賞する。 サイレント映画の技法について。小津安二郎監督の主題と技法について。							
	3 4	【第2日】 映画「残菊物語」1939年松竹作品を鑑賞する。 溝口健二監督の主題と技法について。前回の「生まれてはみたけれど」の小津安二郎監督との比較。							
	5 6	【第3日】 映画「生きる」1952年東宝作品を鑑賞する。 黒澤監督の主題と技法について。							
	7 8	【第4日】 映画「有りがたうさん」1952年大映作品を鑑賞する。 清水宏監督の主題と技法を分析する。							
	9 10	【第5日】 映画「復讐するは我にあり」1979年松竹-今村プロ作品を鑑賞する。 今村昌平監督の主題と技法について論じる。							
	11 12	【第6日】 映画「けんかえれじい」を鑑賞する。 鈴木清順監督の主題と技法を論じる。							
	13 14	【第7日】 映画「絞死刑」を鑑賞する。 日本映画の伝統と将来を考える。 大島渚監督の主題と技法を論じる。							
	15	まとめ							
	授業外学習	授業で論じた監督の他の作品を図書館のDVDなどで、極力多く見て比較研究すること。							
	教科書	「日本映画史」の授業に教科書は使用しない。強いて言えば図書室に多数置いてある佐藤忠男著「日本映画史」(全四巻、岩波書店)が教科書である。ただ大部で高価な本だから買わなくても図書室で読んでくれるだけでいい。							
	主要参考書	小津安二郎、溝口健二、今村昌平、大島渚などについては多くの研究書がある。極力、多様な観点をそれらの研究書で学ぶことをすすめる。							
	評価方法	受講態度(20%)とレポート等の課題(80%)を総合して判定・評価する。							
	教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡を取ってください。							

科目名					担当者名			
映画史概論(前期)					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
2018	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	—	—	—	—	—	—	—	—
履修条件	1年生は前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。この科目が不合格となっても「映画史概論(後期)」を履修することは不可。2年生は前期のみ開講。2020年度からは1年次のみ配当科目となる。「日本映画史Ⅰ」とともに1年生は必ず履修すること。2年生も履修することが望ましい。また、知識を補強するために「日本映画史Ⅱ」、「ドキュメンタリー映画史」もあわせて履修することを勧める。							
授業概要	若い芸術である映画にも既に120年を超える歴史がある。社会の変化と技術の革新に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。この授業では、過去から現在まで、時代ごとに重要な出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。120年分を8週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。							
到達目標	①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	<b>1895～1910年代：映画の誕生、映画産業の始動</b> 動く映像のもたらした驚き／映像で語る物語——映画的技法の発見						
	2	映画産業の成立——ハリウッドの誕生／第一次世界大戦の影響						
	3	<b>1920年代：無声(サイレント)映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛</b> アメリカのスラップスティック・コメディ／ドイツ表現主義						
	4	フランスのシュルレアリスム／ソヴィエトのモンタージュ派／実験的ドキュメンタリー／日本映画のサイレント時代						
	5	<b>1930年代：トーキー映画の時代へ、戦争の影</b>						
	6	トーキー映画の始まりと映画表現の変化——「古典的ハリウッド映画」の型／ジャンルの確立／「映画法」とプロパガンダ映画						
	7	<b>1940年代：戦争と映画、リアリズムへの流れと映画スタイルの変化</b> 第二次世界大戦下の映画、戦争の終結と冷戦の始まり						
	8	「レッドパージ」とスタジオ・システムの変化／イタリアのネオリアリズム／古典的ハリウッド映画の変容／日本の戦後民主主義啓蒙映画						
	9	<b>1950年代：ハリウッド・システムの弱体化と映画の多様化、日本映画の黄金期</b> TVの脅威への抵抗						
	10	映画の多様化／国際映画祭——作家の映画の発見／日本映画の黄金期／フランスのヌーヴェル・ヴァーグ						
	11	<b>1960～1970年代：新しい波と自由な映画、スタジオ・システムの終焉</b> 社会と価値観の変革／各国からの新しい波						
	12	映画表現の変化／スタジオ・システムの終焉(映画産業の構造変化)／香港アクション映画の隆盛						
	13	<b>1980～2000年代：多様なメディア環境のなかの映画</b> コングロマリットとグローバル化／製作・配給・興行、映画受容のあり方の変化／シリーズ化とリメイクの増大／スペクタクル性、アトラクション性への傾斜／「作家」の映画						
	14	ドキュメンタリー映画の活況、フェイク・ドキュメンタリーの流行／政治的公正さへの意識／世界映画地図の拡大——中国語圏、イラン、韓国、インド、東南アジア…						
15	<b>現代の映画：環境化した映像の洪水のなかで 最終テスト(60分)</b>							
授業外学習	・授業内で名前を挙げた作品をできるだけ多く見ること(「映画史基礎」の準備にもなります)。 ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。							
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。							
主要参考書	初回の授業で参考文献表を配布する。							
評価方法	①受講態度(小テスト):40% 小テストは毎回3問の質問に解答する形式。 ②最終テスト:60% 最終テストは最後の授業内に実施、授業終了時に提出。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画史概論(後期)					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～ ～2018	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	1年生は前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。「映画史概論(前期)」を履修した者は履修不可。「日本映画史Ⅰ」とともに1年生は必ず履修すること。また、知識を補強するために「日本映画史Ⅱ」、「ドキュメンタリー映画史」もあわせて履修することを勧める。							
授業概要	若い芸術である映画にも既に120年を超える歴史がある。社会の変化と技術の革新に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。この授業では、過去から現在まで、時代ごとに重要な出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。120年分を8週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。							
到達目標	①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。							
授業計画	回数	内容						
	1	<b>1895～1910年代: 映画の誕生、映画産業の始動</b> 動く映像のもたらした驚き/映像で語る物語——映画の技法の発見						
	2	映画産業の成立——ハリウッドの誕生/第一次世界大戦の影響						
	3	<b>1920年代: 無声(サイレント)映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛</b> アメリカのスラップスティック・コメディ/ドイツ表現主義						
	4	フランスのシュルレアリスム/ソヴェートのモンタージュ派/実験的ドキュメンタリー/日本映画のサイレント時代						
	5	<b>1930年代: トーキー映画の時代へ、戦争の影</b>						
	6	トーキー映画の始まりと映画表現の変化——「古典的ハリウッド映画」の型/ジャンルの確立/「映画法」とプロパガンダ映画						
	7	<b>1940年代: 戦争と映画、リアリズムへの流れと映画スタイルの変化</b> 第二次世界大戦下の映画、戦争の終結と冷戦の始まり						
	8	「レッドパージ」とスタジオ・システムの変化/イタリアのネオリアリズム/古典的ハリウッド映画の変容/日本の戦後民主主義啓蒙映画						
	9	<b>1950年代: ハリウッド・システムの弱体化と映画の多様化、日本映画の黄金期</b> TVの脅威への抵抗						
	10	映画の多様化/国際映画祭——作家の映画の発見/日本映画の黄金期/フランスのヌーヴェル・ヴァーグ						
	11	<b>1960～1970年代: 新しい波と自由な映画、スタジオ・システムの終焉</b> 社会と価値観の変革/各国からの新しい波						
	12	映画表現の変化/スタジオ・システムの終焉(映画産業の構造変化)/香港アクション映画の隆盛						
	13	<b>1980～2000年代: 多様なメディア環境のなかの映画</b> コングロマリットとグローバル化/製作・配給・興行、映画受容のあり方の変化/シリーズ化とリメイクの増大/スペクタクル性、アトラクション性への傾斜/「作家」の映画						
	14	ドキュメンタリー映画の活況、フェイク・ドキュメンタリーの流行/政治的公正さへの意識/世界映画地図の拡大——中国語圏、イラン、韓国、インド、東南アジア…						
15	<b>現代の映画: 環境化した映像の洪水のなかで</b> 最終テスト(60分)							
授業外学習	・授業内で名前を挙げた作品をできるだけ多く見ること(「映画史基礎」の準備にもなります)。 ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。							
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。							
主要参考書	初回の授業で参考文献表を配布する。							
評価方法	①受講態度(小テスト):40% 小テストは毎回3問の質問に解答する形式。 ②最終テスト:60% 最終テストは最後の授業内に実施、授業終了時に提出。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本映画史Ⅱ					中原 俊、細野 辰興			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～ ～2017	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義(コラボ)	2	1	後期	C4(2×8)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	映画の発達の中で出現した新しいヒーロー「スター」を軸に、凋落期までの日本映画の変容を大衆文化との関係を考察する。「日本映画史Ⅰ」を引き継ぎながら次年度からの創作のヒントを与える。							
到達目標	日本映画を近現代史の流れの中で理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画会社の成立						
	2	技術発達の影響(中原)						
	3	新しい演技の出現						
	4	戦後映画の変化(中原)						
	5	戦前のスター						
	6	マキノの戦略(中原)						
	7	戦後の新スター——裕次郎と錦之助(細野)						
	8							
	9	三十郎と座頭市(細野)						
	10							
	11	若大将と無責任男(細野)						
	12							
	13	任侠映画と寅さん(細野)						
	14							
	15	スターは何処へ行く(70年代以降の日本映画)(中原・細野)						
	16							
番外	基礎演習をふり返り、演出と配役との関係を考える(中原・細野)							
授業外学習	関連映画を見て、関連書籍を読む。							
教科書	特になし。							
主要参考書	四方田大彦『日本映画110年』集英社新書							
評価方法	熱意・受講態度(70%)および課題レポート(30%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
映画史基礎					石坂 健治、伊津野 知多 ほか				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2019～ ～2018	教養(映画史科目群/映画)	選択	実習	2	1-2	通年	F(その他)	白山・外部	
履修条件	原則として1年生は全員履修すること。1年次は仮登録(エントリー)となります。1年次に条件を満たした学生のみ2年次に履修登録が許可されます。								
授業概要	日本映画大学に入ったからには最低限見ておかなければならない映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞レポートを作成する。今後の学習の基盤となる知識を身につけ、映画についてことばで表現できるようになるための訓練である。定期的実施する授業では、映画の見方や映画についての文章の書き方を指導し、映画史的知識を補足する。映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。 8月5日(月)にガイダンスを行うので必ず出席すること。								
到達目標	①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。								
授 業 計 画	内 容								
	以下のような流れで数回の授業をはさみつつ、各自で映画を鑑賞し、鑑賞レポートを書いて期日に提出する。詳しい手続きや提出書類、スケジュールについては、8/5(月)のガイダンスで配布する資料を参照すること。								
	2019年度	授業①	8月5日(月)2限	ガイダンス/授業の説明 ⇒ 仮登録(エントリー) 出席必須					
		夏休み期間	各自映画を見る。						
			9月上旬	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で5作品鑑賞していることが必須。					
		授業②	11月中旬	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で10作品鑑賞していることが必須。					
			12月下旬	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で15作品鑑賞していることが必須。					
		授業③	1月下旬	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で20作品鑑賞していることが必須。 20作品に満たない人は2年次に履修登録できない。					
		春休み期間	各自映画を見る。						
	2020年度	授業④	4月第1週	履修登録 鑑賞レポート提出(8作品以上)。この時点で28作品鑑賞していることが必須。					
		授業⑤	6月第1週	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で33作品鑑賞していることが必須。					
		夏休み期間	各自映画を見る。						
		9月第3週	鑑賞レポート提出(7作品以上) この時点で40作品鑑賞していることが必須。						
	授業⑥	11月第2週	鑑賞レポート提出(5作品以上) この時点で45作品鑑賞していることが必須。						
	授業⑦	1月第1週	最終授業。50本分の鑑賞レポート提出						
授業外学習	指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞レポートを書く。								
教科書	使用しない。								
主要参考書	使用しない。								
評価方法	授業への参加態度と鑑賞レポートの内容をあわせて総合的に評価する。 期日までに指定の本数の鑑賞レポートを提出しなければ不合格になるので注意すること。								
教員への連絡方法	メール								

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー映画史					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	ドキュメンタリー映画からTVニュースまで、広い意味のノンフィクション映像に関心のある者に開かれた講座である。事前の心がけとしては、新聞に載るニュースをその後も自分なりにフォローしてスクラップするなど、身の回りの社会的な事件に意識的になることが肝要である。							
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？文学と映画の分野で使われるこのコトバの本来の意味は？劇映画と別のカテゴリーに分類される理由は？だが本当に劇映画と異なるものなのか？……こうした基本的な疑問を抱きながら、ドキュメンタリー映画史の大海原へ飛び込もう。映画史初期(リュミエール、メリエス、フラハティ)、戦意昂揚映画、社会主義プロパガンダ、ダイレクトシネマ、戦後日本と社会派ドキュメンタリー(土本、小川、大島、今村)、アジア・ドキュメンタリーの興隆、デジタル作法とセルフドキュメンタリー論争、などについて概説する。授業は、映画研究者のマーク・ノーネス(ミシガン大学教授)が提唱するドキュメンタリー映画史の6つの区分(初期、戦争、啓蒙、運動、セルフ、漂流)に沿って進めていくこととする。							
到達目標	ドキュメンタリーの歴史を理解すると同時に、ドキュメンタリーの未来形を各自が自覚的に追究することができるようになること。							
授業計画	回数	内容						
	1	ドキュメンタリーとは何か——文学と映画の分野で使われるコトバの起源						
	2	初期映画——リュミエールとメリエスの「ドキュメンタリー性」の違い						
	3	フラハティ——『ナヌーク(極北の怪異)』における「自然」と「演出」について						
	4	戦争とドキュメンタリー——ナチス・ドイツのプロパガンダ映画を分析する						
	5	リーフェンシュタール——『民族の祭典』とファシズムの美学について						
	6	社会主義とドキュメンタリー——エイゼンシュテインのモンタージュ理論を解説						
	7	ダイレクトシネマ——戦後の米仏にあらわれた「観察の映画」の思想とその成果						
	8	戦後日本のドキュメンタリー——左翼運動とドキュメンタリー映画の軌跡						
	9	土本典昭と小川紳介——高度成長期の暗黒面である「水俣」と「三里塚」						
	10	大島渚と今村昌平——大島の「朝鮮」と今村の「東南アジア」						
	11	アジア・ドキュメンタリーの興隆1——文革後の中国、民主化後の韓国						
	12	アジア・ドキュメンタリーの興隆2——東南アジアや中東でタブーに挑む作家たち						
	13	デジタル時代の表現——21世紀の新しいドキュメンタリー作法について考える						
	14	セルフ・ドキュメンタリー論争——近年の日本で巻き起こったドキュメンタリー論争						
15	まとめ							
授業外学習	公開中のドキュメンタリーを映画館で鑑賞するなどの課題を出すことがある。							
教科書	特になし。							
主要参考書	石坂健治・土本典昭共著『ドキュメンタリーの海へ』現代書館、2008年(購入又は図書館) 原一男著・石坂健治＋井土紀州編『踏み越えるカメラ』フィルムアート社、1994年(購入又は図書館) 佐藤忠男ほか編『シリーズ 日本のドキュメンタリー(全5巻)』岩波書店、2010年(購入又は図書館)							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							



科目名					担当者名			
表象文化論Ⅰ					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>「表象」(representation)とは、人間が自分や周囲の世界を、感覚や媒体を通じてイメージ化すること、およびその行為を通じて生み出されたものを指す。絵画や写真、映画、彫刻、絵本や地図、建築など、さまざまなメディアが人間の表象行為に関わっているといえる。</p> <p>この授業は「表象」をていねいに読み解くための基礎的な講義であり、「表象」という概念によって映画・映像を考察しながら、人間の創造行為を捉え直すことを目的とする。毎回参考上映を行うほか、受講者が参加する「エクササイズ」を随時設ける。できるだけ受講者と対話しながら進めたい。</p>							
到達目標	「印象」や「感想」で終わらせずに、映画や映像を読み解くことができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	「表象」とは何か／写真(映画)という表象の特殊性について						
	2	映画を「読む」ために一見たものを他人に伝えること						
	3	【イメージの空間を読む】						
	4	フレーム／画面と画面外／イメージ内部の構成／映画の場合：静止画と動画で何が違うか						
	5	【映画における視点と視線】						
	6	映画の視点の多様性／登場人物たちの視線						
	7	【イメージの時間を読む】						
	8	静止したイメージ(写真)に捉えられた運動と時間／写真と映画の時間性の違い／映画の時間						
	9	【映画における音】						
	10	視覚と聴覚の共感性／映画における音と映像(画面)との関係／映画の音の3つの区分						
	11	【イメージに触ること—映画の触覚性】						
	12	五感を駆使して映像を「目と耳で触る」／映画の触覚性の4つの次元 ※期末レポート事前課題発表・解答用紙配布						
	13	表象不可能性と倫理						
	14							
15	まとめ／期末レポート当日課題発表とレポート作成 ※授業終了時にレポート提出							
授業外学習	作品を全編にわたって上映することが難しいので、授業で取り上げた作品については、映画館やDVDなどで各自見ておくこと。							
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	ジャン＝クロード・フォザ他著・犬伏雅一他訳『イメージ・リテラシー工場』(フィルムアート社、2006) 吉田眸『ドアの映画史—細部からの見方、技法のリテラシー』(春風社、2011)							
評価方法	①毎回提出するリアクションペーパーの内容：40% ②期末レポート：60% (期末レポートは事前発表課題と最終日に発表する当日課題からなる。)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅰ〈アジア映画入門〉					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～ ～2018	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	アジアの映画に関心のある者の履修を望む。							
授業概要	20世紀前半、映画は娯楽として世界中に普及していったが、そのころアジアの大半は植民地だった。第二次世界大戦後、多くの国が独立を果たし、やっと独自の文化芸術を創作することが可能になったとき、作家たちは映画というメディアを使ってユニークな表現を作り上げ、今日のアジア映画の興隆を導き出した。本講では、①欧米や日本と異なる歴史を歩んだアジア諸国の映画史を概観し、②上海、ボンベイ、マニラ、ソウルなど、アジア映画史の焦点となった国や都市、つまり「映画の都」を時代ごとに概説し、③そうしたなかで生まれた巨匠や傑作の数々を見ていくこととする。							
到達目標	映画を通じてアジア諸国とのご近所付き合いを深めるきっかけを作る。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	アジアの映画に親しむ①						
	2	アジアの映画に親しむ②						
	3	アジア映画史の焦点1——1970年代・香港など						
	4	アジア映画史の焦点2——1980年代・台湾、イランなど						
	5	アジア映画史の焦点3——1990年代・韓国など						
	6	アジア映画史の焦点4——2000年代・マレーシアなど						
	7	アジア映画史の焦点5——2010年代・フィリピンなど						
	8	アジア映画史の焦点6——未来の新しい波を探す						
	9	アジア映画の巨匠たち1——フィリピン・インディーズの鬼才(タヒミック、メンドーサ、ディアス)						
	10	同上						
	11	アジア映画の巨匠たち2——タイ映画ルネッサンス(仏教とホラー)						
	12	同上						
	13	アジア映画の巨匠たち3——マレーシア新潮(日本とつながる作家たち)						
	14	同上						
15	まとめ							
授業外学習	なし							
教科書	なし							
主要参考書	石坂健治ほか監修『アジア映画の森—新世紀の映画地図』森話社、2012 石坂健治ほか編著『アジア映画で〈世界〉を見る—越境する映画、グローバルな文化』森話社、2013							
評価方法	期末レポート80%+リアクションペーパーの内容など受講時の熱意20%							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
サブ・カルチャー論					藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	サブ・カルチャーとは、その社会で支配的な「主流文化」に対して、「傍流」であったり「少数派」であったり「対抗的」であったり「下位」であると見做される文化である。日本においては、アニメ・マンガ・ゲーム・特撮などが、サブ・カルチャーとされてきた。しかし、現在ではそれらは「クールジャパン」を担う「メディア芸術」と見做され国立新美術館で展示されたり、日本を代表する主流文化のように扱われるようになった。本講義は、一般的に「オタクカルチャー」とも呼ばれる日本において特殊に花開いた文化について、それが一体どのようなもので、どのような魅力と意義があるのかを、映画との関係において探っていくものである。							
到達目標	日本におけるサブ・カルチャーの歴史と意義についての理解が深まる。現在の自分たちが当たり前のように接している文化が、実は世界的にも歴史的にも当たり前なものではないものとして考えられるようになる。自分たちが作品を送り出す世界についての知見が得られる。							
授業計画	回数	内容						
	1	イントロダクション——リオオリンピック閉会式						
	2	アニメーションの思想Ⅰ——大友克洋『AKIRA』						
	3	アニメーションの思想Ⅱ——石黒昇『メガゾーン23』						
	4	アニメーションの思想Ⅲ——庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』						
	5	「オタク」とは何か——中森明夫、大塚英志、岡田斗司夫、東浩紀らの論を読む						
	6	世代とサブ・カルチャーⅠ——五〇年代、六〇年代、七〇年代						
	7	世代とサブ・カルチャーⅡ、——八〇年代、九〇年代、ゼロ年代、一〇年代						
	8	特撮映画の情念——本多猪四郎『ゴジラ』						
	9	キャラクター文化の発展Ⅰ——ゴジラからポケモン、サンリオへ						
	10	キャラクター文化の発展Ⅱ——「萌え」の主流化(四方田犬彦『「かわいい」論』)						
	11	キャラクター文化の発展Ⅲ——『なぜ日本はメディアミックスする国なのか』						
	12	ゲームの誕生Ⅰ——ファミコン前後						
	13	ゲームの誕生Ⅱ——ゲームと映画はどのように相互作用してきたか						
	14	サブ・カルチャーとしてのネット・カルチャー						
15	まとめ——戦後日本のサブカルチャーはどのように変遷してきたか							
授業外学習	授業内で観ることのできない作品も多いので、紹介した作品は図書館やインターネットなどで見ていくように。気になったり興味が惹かれた作品には積極的に触れていくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	積極性(20%)、各回のリアクションペーパー(40%)、レポート(40%)で評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本文化論〈ゴミと御宝の境界学〉					高橋 世織			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～ ～2017	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	<p>3.11直後に本学は開学した。日本は世界的に見ても自然災害に頻繁に見舞われる国土、何千もの島嶼からなる弧状列島だ。だが、東日本大震災の震源地であった金華山沖は、世界3大漁場の一つであったように、海岸線の長く入り組んだ風土には、海の幸、山の幸、鉱物資源(石見の銀山、佐渡の金山、足尾銅山、各地の炭田)などの自然の恵みには、稀に見る豊かな多様性(万葉)が潜在していた。火砕流(噴火、火山弾、火山灰、噴石、石ころは46億歳(目下、中年壮年の齢)になる地球という生命体の分泌物、排泄物なのである)と、洪水(津波、高潮、豪雨、河川氾濫、土砂災害、山津波)と、地震(古典文献では「なみ」と訓む)と、大風(台風=野分、竜巻=つむじ風)さらには、落雷、豪雪等々に絶えず見舞われてきたために、それを逆手に取って反転し、賢く利活用してきた。災いを転じる文化力だ。したたかできずといふ智慧が生まれ、稀有な文化を長い年月をかけて醸成し洗練させ継承してきた事跡を改めて認識せざるを得ません。こうしたたたかき、柔軟性、きめ細かきでしなやかさを伴った独自の気候文化(災害文化)を形成してきたプラスの側面を、言葉の芸能(和歌、連歌・俳諧、軍記もの語り芸、説教節、能・狂言、落語・漫才、活弁、声帯模写、言霊信仰、諺歌留多)や工芸(漆器、日本画、書道)、祝文化(食・祭り、寿ぎ)などに尋ねていく授業となる。</p> <p>災害や災禍の「災」も現代ではマイナス面だけが表象されがちですが、さにあらず(詳しくは講義で)。ゴミもちょっと前までは護美箱というように、単なる塵・芥ではなかった。1200年も続く正倉院御物の宝物がアーカイブされてきた、その揺ぎ無い蒐集の哲学(コレクション・ポリシー)は今日、傾聴に値する。つまりゴミと御宝は紙一重なのだ。ゴミと御宝の境界学。ここから授業に入ります。日本再発見となろう。</p>							
到達目標	<p>①言語文化に対し関心を高めセンシティブになる。 ②日本映画の底流を貫通する土俗的なエトスを探れるようになる。黒澤明、今村昌平の映画には顕著。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1	「ガレキ」でよいのか?!——①「瓦礫」の持つ歴史的な豊かさが消されてしまう。《失敗の博物館》構想の必要性。② 諸君の家々にあった「一升枘」「一升瓶」はいま何処に? ③ 正倉院 / MoMA (NY近美) / 東博のコレクション・ポリシーの比較。						
	2	日本の国語辞書は質量ともに世界中類例のない凄さ。——① 9世紀の学問の神様・菅原道真編纂『類聚国史』全200巻(現存61巻)の凄さは此処だ! ② 宮内庁書陵部での冷泉家古文書整理したバイト体験談 ③ 映画『舟を編む』の不満点。						
	3	宝物のアーカイブ哲学——① 鎌倉・円覚寺(漱石が籠って小説書いた場所)の《宝物風入れ》② 伝世品と出土品の扱い方の違い。						
	4	『広辞苑』は捨てるな! —— 言葉をアーカイブしている『広辞苑』は何処が凄いか? 不満は何処か。完璧な辞書は存在しない。言葉の鑑なのか鏡なのか。岩波『古語辞典』は語源辞典でもあり、必携。						
	5	皮剥ぎ文化を検証する(1) 凄いぞ! 和紙 —— ①「鳥獣戯画」にみる相剥(あいへぎ)の行為と技量。②ドキュメンタリー映像『細川紙』を見ながら考える。						
	6	皮剥ぎ文化を検証する(2) 凄いぞ! 漆・膠 —— ①金閣寺は何の建造物か? 日本人だけが知らない。② ゴミから誕生した膠と工芸の修復技術 ③ 日本画は廃材を基盤に成り立っている。						
	7	渡り鳥の齎した東北アジア日本海文化圏の食文化と植生 —— ①今井友樹監督『鳥の道を越えて』が指さすもの② シルクロードを行き来した「鳥の声」文化を考える ③ 宮澤賢治『鳥をとるやなぎ』再読。						
	8	外国で気づいた凄いぞ! 《和食》 —— ① コメと麦の決定的相違(菜食主義が可能な仏教文化圏の理由。必須アミノ酸)② コッホ研究所時代に発見した衛生医学者・森鷗外の米食擁護論。						
	9	凄いぞ! 鯉節 —— ① オランダ・シーボルト記念館で考えたこと ② 旨味発見と日本味文化(谷崎と賢治)						
	10	凄いぞ! 和食 —— ① なぜ農水産省が世界文化遺産登録に関わったのか? 料理人は評価されない? 文化勲章。② 和食の定義は誰もしてこなかった。和食関連の言葉は1万余語もある・ひと煮立ち、銀杏切り・・・③ 世界一の魚市場=築地の文化人類学に関する大著を著したのは外国人。チェリスト・ロストロポーヴィッチと映像記号論学者ロラン・バルト『表徴の帝国』の美しき異文化誤解。						
	11	寺田寅彦が面白い① —— 地球音響物理学者・地震学者の御説を聞こう。「音」と「響き」とは天地の差。						
	12	寺田寅彦が面白い② —— 小屋掛け物理学と揶揄された寅彦、再評価の機運。						
	13	祭り・祀り・政り・奉り —— ① 祭りはなぜ毎年繰り返されるのか、応仁の乱と京都・祇園祭② 《山川草木悉皆成仏》と天台宗 ③ 伝統郷土芸能の千年に一度の効能。						
	14	日記文学に通底する素晴らしさ —— 『土佐日記』『更級日記』『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『紫式部日記』・・・、セルフドキュメンタリー、私小説、私ガタリ、の源流である。自照性の濃厚な日記文学と云う器。						
15	(おわりに)『裏日本』(岩波新書)に対する私の所感こもごも・・・							
授業外学習	予備知識として、ボロ(襦袢)ミュージアムについて知っておいて欲しい。							
教科書	特に指定はしない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	『日本歴史災害事典』、笹本正治『中世の災害予兆』、峰岸純夫『中世 災害・戦乱の社会史』(以上、吉川弘文館)、中尾正義『地球環境学と歴史学』(山川出版社)、寄本勝美『リサイクル社会への道』(岩波新書)							
評価方法	リアクションペーパーの充実度(感想、意見、質問)で評価する。課題レポート(2000字程度)は、出席の芳しくない学生にのみ課す。							
教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
表象文化論Ⅱ		伊津野 知多						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「表象文化論Ⅰ」を履修していることが望ましい。グループワークを行うので受講者の積極性を求める。							
授業概要	この授業では、表象と密接な関係を持つ「記号」という概念について考える。まず、映像や映画を含むあらゆる文化的現象を何らかの意味を伝える記号と捉え、その意味伝達のしくみを考察する「記号論」という方法を理解しよう。次いで、言語媒体で発展した記号論を映像や映画に適用する際に生じる問題について考える。映像が観客に意味を伝えるしかたは言語の場合とどう違うのか、映像で物語を語るとはどういうことか、映画固有の意味作用とは何か、などのテーマで、「記号」としての映像・映画について考えてみよう。随時参考上映、グループワークとディスカッションを行う。							
到達目標	①記号論の基礎的な概念や考え方が理解できるようになる。 ②映像や映画を記号論的に分析することができるようになる。 ③グループワークやディスカッションを通して、思考をことばにして他者に伝える技術が修得できる。							
授業計画	回数	内容						
	1	記号論(記号学)という考え方						
	2	映画の3つの意味の層(記録性・表現性・物語性)						
	3	ことばと映像の意味作用は何かちがうのか/グループワーク①【絵で概念を伝える】						
	4	映画言語とはなにか						
	5	記号論(記号学)の基本的な概念:フェルディナン・ド・ソシュールを中心に						
	6	グループワーク②【寸劇でコノテーションを明確に含んだメッセージを伝える】						
	7	映像の記号論①: 言語記号と視覚的記号のちがいがい						
	8	グループワーク③【写真のみを使ってメッセージをできるだけノイズを含まずに伝える】						
	9	映像の記号論②: ロラン・バルトの記号論/広告写真の記号論的読解						
	10	グループワーク④【広告写真を読む】						
	11	映画の記号論①: クリスチャン・メッツの映画記号学 <b>※期末レポートの事前課題発表・解答用紙配布</b>						
	12	一画面の意味とモンタージュによって生まれる意味						
	13	映画の記号論②: さまざまなモンタージュの型						
	14	グループワーク⑤【モンタージュによる意味生成のちがいを読み取る】						
15	復習/期末レポート作成【事前課題+当日課題】 <b>※授業終了時にレポート提出</b>							
授業外学習	身近にある事象(ファッション、標識、ポスターやCMなど)を観察し、記号という観点から意味を考える練習をしてみてください。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書、2013)/シヨン・ホール著、前田茂訳『イメージと意味の本:記号を読み解くトレーニングブック』(フィルムアート社、2013)/ロラン・バルト著、諸田和治編訳『ロラン・バルト映画論集』(ちくま学芸文庫、1998)/ロラン・バルト著、蓮實重彦他訳『映像の修辞学』(ちくま学芸文庫、2005)。							
評価方法	①平常点(各回のリアクションペーパーの内容、ディスカッションやグループワークへの参加態度): 50% ②期末レポート: 50% (期末レポートは事前発表課題と最終日に発表する当日課題からなる。)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅱ〈日本映画と中国語圏映画〉					晏妮(アンニ)			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	—	—	—	—	—	—	—	—
履修条件	—							
授業概要	映画はその生成期から越境的な性質を持つメディアである。したがって、一か国映画史はその越境的性質を語るには限界がある。大衆を対象とする映画が芸術であると同時に、商品としても世界範囲において流通している今、映画を多角的に語るには、ますます不可欠な視点となってきている。本授業は上述の多角的視座から日本映画(界)と中国、香港、台湾映画との交流を通して生まれた作品と作品をめぐる言説を取り上げながら、一本の作品を歴史的、社会的、あるいは文化的文脈において日本と中国語圏の双方に跨って重層的に解読する方法を学んでもらう。							
到達目標	本講義では、作家論やテキスト分析の方法を取り入れつつ、映画をより多角的に解読する歴史、文化の知識と感性を学生たちに身につけさせることを到達目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション(概説)						
	2	西本正(賀蘭山)一戦後の香港映画を支えるカメラマン(ブルース・リー(李小龍)の『ドラゴンへの道』)						
	3	香港ラブ・ロマンス(宝田明・尤敏)の三部作—戦前大陸三部作(長谷川一夫・李香蘭)との比較						
	4	『香港の夜』と『支那の夜』を鑑賞、分析						
	5	中国映画の第五世代を支える日本映画の技術						
	6	チャン・イーモウ(張芸謀)の『紅夢』を鑑賞、分析						
	7	ウォン・カーウァイ(王家衛)と森田芳光の相互影響						
	8	『花様年華』と『それから』を鑑賞、分析						
	9	映画『ラスト、コーション』に描かれた歴史、実話、原作と日本						
	10	『ラスト、コーション』を鑑賞、分析						
	11	日本映画業界とジャ・ジャンクー(賈樟柯)						
	12	『山河ノスタルジア』を鑑賞、分析						
	13	ホウ・シャオシェン(侯孝賢)の映像世界における日本(人)表象						
	14	『珈琲時光』を鑑賞、分析						
15	総括							
授業外学習	授業以外の時間を利用して取り上げる映像作家のその他の作品を一、二本見てほしい。							
教科書	必要時に資料を配布する。							
主要参考書	西本正・山田宏一・山根貞男『香港への道 中川信夫からブルース・リーへ』(筑摩書房、2004)、石坂健治等監修『アジア映画の森 新世の映画地図』(作品社、2012)、谷川健司編『戦後映画の産業空間 資本・娯楽・興行』(森話社、2016)、『映画は文学をあきらめない』(水曜社、2017)など。							
評価方法	勉強に取り組む姿勢、熱意、積極性は60%、レポートは40%の割合で総合的に評価する。無断出席が多くなると単位が取れないことがある。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅲ〈映画ジャンル論〉					田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	【読替科目】映画ジャンル論(2016年度)							
授業概要	<p>コメディ映画研究:本年度はコメディ映画(comedy film)を取り上げる。人はなぜ映画を見て笑うのか、映画を見て喜ぶのか。コメディ/喜劇は人間のユーモラスな側面を描く劇である。この講義ではまずハリウッド映画のコメディ・ジャンルを歴史的に振り返り、そのうえでコメディの本質とは何かに迫りたい。さらに、ハリウッドを離れて、非英語圏のコメディ/喜劇を取り上げ、そのうえでコメディの現代的な条件を考えたい。</p>							
到達目標	<p>コメディ映画というジャンルを理解すること、そのサブジャンル化が確認できること。そのうえで、受講後には別のジャンル映画のケーススタディを各自が実践できるようにする。</p>							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	コメディとは何か/コメディ映画とは何か						
	2	サイレント映画期のコメディ(バスター・キートン、ハロルド・ロイド)						
	3	スラプスティック・コメディ(ローレル&ハーディ)						
	4	チャップリンのコメディ/マルクス兄弟のコメディ						
	5	スクリーンボールコメディ1						
	6	スクリーンボールコメディ2						
	7	ロマンティック・コメディの隆盛						
	8	ラディカル・ロマンティック・コメディ						
	9	シチュエーション・コメディ(sitcom)						
	10	モンティパイソンによる革命						
	11	風刺コメディ/ブラック・コメディ						
	12	ヨーロッパ映画のコメディ						
	13	特殊なコメディ:今村昌平の重喜劇						
	14	特殊なコメディ: ホン・サンスの場合						
15	現代的なコメディの条件							
授業外学習	可能な限り多くのコメディ作品を見ること。そしてどこが面白いのかをメモを取ること。ギャグを採取すること。自分でギャグを考えてみる							
教科書	特になし							
主要参考書	<p>ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房          加藤幹郎『映画ジャンル論 ハリウッド的快樂のスタイル』平凡社 Rick Altoman, Film/Genre, BFI, 1999.</p>							
評価方法	レポート60% リアクションペーパー30% 受講態度10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
物語論					田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～ ～2017	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	自分なりに物語を構想したいと思っている人、シナリオ書きの準備を考えている人に向いている。							
授業概要	物語(ストーリー)とは何か、物語の核心には、どのような論理が働いているのか。まず前半では、古典的な物語から近代の物語の最も重要な作品を知ってもらおう。昨年、ロバート・マッキーの『ストーリー:ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則』(フィルムアート社)が刊行された。これはシナリオ書きのためのハウツー本ではない。豊富な映画のデータに基づく物語の分析から、実際にどのように物語を創作するかを考えさせるものだ。後半はこの本をもとに、実際に自分でシナリオのもとになるプロットを構想し、ストーリーを書く練習をする。							
到達目標	物語の型を習得し、自分でストーリーやプロットを考えられるようにする。長編シナリオ書きのための助けにしたい。							
授業計画	回数	内容						
	1	物語とは何か						
	2	原型的な物語1:『旧約聖書』;「アダムとイブ」「カインとアベル」「ノアの箱舟」「出エジプト」「モーゼの十戒」など						
	3	原型的な物語2:ギリシア悲劇;『オイディプス王』『アンティゴネ』『王女メディア』など						
	4	原型的な物語3:世界の神話(北欧神話、『古事記』など)から						
	5	物語の近代1:シェイクスピアの悲劇;原型と翻案						
	6	物語の近代2:シェイクスピアの喜劇						
	7	物語の構造:ストーリー設計に関わる用語						
	8	プロットの種類;アークプロット、ミニプロット、アンチプロット						
	9	ストーリーの設定;時代、期間、舞台、葛藤のレベル						
	10	ストーリーとジャンルの関係						
	11	ストーリーと登場人物						
	12	ストーリーの意味						
	13	契機事件/幕の設計/編成						
	14	重大局面/クライマックス/解決						
15	まとめ/実作							
授業外学習	重要な物語作品(ギリシア悲劇、シェイクスピアなど)を実際に読むこと。							
教科書	特になし。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	クリストファー・ボグラー&デイビッド・マッケナ『物語の法則』(KADOKAWA) ロバート・マッキーの『ストーリー:ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則』(フィルムアート社)							
評価方法	期末試験60% リアクションペーパー30% 受講態度10%							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
写真論					高橋 世織			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。撮影照明コース以外の諸君も受講を勧めます。							
授業概要	映画をかつては「活動写真」、「シャシン」と云っていたほどで、撮影行為抜きには映画も写真も存在しえない。19世紀前半に誕生した写真術は、美術界はもとより文学世界にも多大なインパクトをもたらした。19世紀の後半から澎湃と沸き起こった自然主義(リアリズム)は、写真メディアが齎した最たる思想・芸術の時代思潮となった。20世紀にはモダニズム前衛芸術や広告ファッション、雑誌や新聞の報道(戦争)でフォト・ジャーナリズムなど多様な表現の場の拡大を写真メディアが担った。ここ30年で、使い捨てカメラ、デジカメ、写メール、スマホ、インスタと技術史のイノベーションによって大きく写真を取り巻く風景や状況は急激に変化している。こうした表現史と技術史の双方を講義しながら、来るべき写真表現の可能性、映画撮影のカメラとの撮影行為の本質的な違いや通底する事象を探っていく。写真家で思想家のゲストも招聘する予定。							
到達目標	《フィルムカメラ》を見たことも触ったこともない学生が殆どの時代になってしまった。写真から映画への移行期の19世紀後半の社会と歴史とをメディア的想像力で捉え直したい。ひいては新しい映画表現の模索を、この授業科目が果たすことを目標に掲げる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	写真(フォト・グラフィー)は、なぜ光で描く=「光画」と訳されなかったのか？ 世界最初の写真集=タルボット『自然の鉛筆』から東松照明『太陽の鉛筆』へ						
	2	銀塩写真からデジタル写真——カメラとバッテリーの進化から見た表情の変遷						
	3	19世紀学からみた写真と映画①——《東の間の幻影》、「鉄と硝子」の時代、時は金なり、労働価値説						
	4	19世紀学からみた写真と映画②——闇と光のドラマツルギー、ワーグナー楽劇の誕生と装置						
	5	19世紀学からみた写真と映画③——ラファエロ前派絵画の写真援用、死貌の表象、心霊写真、遺影						
	6	19世紀学からみた写真と映画④——家族観の変容とファミリーアルバム、子供の発見						
	7	映画の中の写真①——『麦秋』51、『生きる』52、『東京物語』53、『二十四の瞳』54						
	8	映画の中の写真②—— クリス・マイケル、W. ヴェンダース、アントニオニー『欲望(BLOW-UP)』						
	9	写真と都市思想——W. ベンヤミンの『写真小史』を読む						
	10	写真と都市のモード——A. ザンダー『20世紀の人間』、『都市とモードのビデオノート』						
	11	プリントと版の時代(新聞・雑誌・写真集)——土門拳『筑豊の子供たち』とアラキー『さっちゃん』の比較						
	12	写真家としての岡本太郎——平凡社・月刊『太陽』と東北・縄文再発見、民俗学系列の写真家たち						
	13	写真家ゲストによる基調レクチャー(これからの映像の受容と発信・拡散と保存をどう考えるか)						
	14	写真家ゲストと高橋のトークセッション——風景と記憶をめぐる旅と移動、「風景とみんなと一緒に激しく明滅する・・・」(宮沢賢治)						
15	おわりに——盲者によって撮影された写真、或は《写真と声》に就いて ユーリヤン・パフチャルの写真行為から我々は何を受け取るべきなのか。21世紀後半の映像を夢想しつつ・・・							
授業外学習	平成の30年間はカメラ機能と技術が次々と激変していく時代であった。日本カメラ博物館(半蔵門)で、変遷史の展示をしているので、会期中に一度訪れてみましょう(6月末まで。月曜休館)。 東京都写真美術館(恵比寿)や、写真美術館としての構想もあった横浜美術館や川崎市市民ミュージアム、近場では川崎市岡本太郎美術館(生田)などで写真の展示のされ方などに関心を持つよう日頃から心掛けたい。							
教科書	高橋世織編著『映画と写真は都市をどう描いたか』(ウエッジ選書)を一応あげましたが、受講終了後に読まれた方がよいでしょう。							
主要参考書	ベンヤミン『パサーージュ論』第4巻(岩波現代文庫)、東松照明『11時02分長崎』(フォミュゼ・新潮社)、カラー版『世界写真史』(美術出版社)、毎回講義の中で適宜、参考文献は示していく。							
評価方法	出席状況と授業の終了直後に毎回提出してもらう「リアクションペーパー」の充実度(感想・意見・質問等がしっかり記述されているか)を最優先して成績評価をします。平常点で評価するという意味です。毎時間ごとにリアクションペーパーを配布し提出してもらう。代筆は認められない。都合15枚となる。5枚以下の場合原則として、「不可」扱いとなります。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
映画と文学					関川 夏央				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2019～ ～2018	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	特になし。								
授業概要	おもに文学の映画化作品を見て、文字表現と映像表現の関係をさぐる。映画と文学、それぞれの作品を生み出した時代相、および時代を表象した俳優たちについて考察する。ひとりの映画監督について原則4コマ(3コマ)を使って研究し、映画上映の途中、および上映後にレクチャー、討論を行う。								
到達目標	文学表現と映画表現の関係を考察しながら、1960年前後の映画作品を中心にみて日本現代史像を形成する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	市川崑監督「おとうと」(1960)を見、幸田文のテキスト「おとうと」を読んで、市川崑、シナリオの水木洋子および作家幸田文自身とその家族像を分析する。大正時代を表現するために市川崑が発明した現像方法「銀残し」を学ぶ。							
	3 4	1と2のつづき。市川崑監督、和田夏十脚本、山崎豊子原作『ぼんち』(1960)の部分を見て、文学作品の映画化作業について考える。							
	5 6	川島雄三監督に時代劇『幕末太陽伝』(1957)を見て、五本の古典落語をあわせて脚本化した今村昌平の力量を評価する。作品の時制である1860年代と、作品がつけられた1950年代の日本社会について学ぶ。							
	7 8	5と6のつづき。『幕末太陽伝』におけるフランキー堺の演技を評価する。川島雄三監督の後期作品、水上勉原作『雁の寺』(1962)の部分を見て、川島雄三の表現手法を研究する。							
	9 10	新藤兼人『裸の島』(1960)を見て、そのオリジナル・シナリオを分析する。さらに困難な映画製作をつづけた独立プロの映画界でのあり方についての知識を得る。							
	11 12	9と10のつづき。新藤兼人の後期作品『午後の遺言状』(1995)の部分を見て、新藤兼人自身の軌跡と、彼の作品を支えた女優たちについて学ぶ。							
	13 14	成瀬己喜男「流れる」(1956)を見、幸田文のテキスト「流れる」を読んで、成瀬己喜男の映画表現と幸田文の言語表現を比較・分析する。1950年代後半の時代相を表現した出演女優たちについての知識を得る。							
	15	13と14のつづき。1950年代から1960年代初めまで全盛期を迎えた撮影所映画に具象化された日本社会の姿を検討する。							
	授業外学習	授業でとりあげるテキスト、『おとうと』『流れる』『ぼんち』『雁の寺』などは通読しておくのが望ましい。							
	教科書	特になし。							
	主要参考書	特になし。							
	評価方法	平常点80%、レポート20%							
	教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
文学					関川 夏央			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくになし。【読替科目】文学Ⅰ(～2018年度)							
授業概要	近代文学の、おもに短編を、または中長編の一部を「常識」にのっかって読む。その過程で、19世紀末から20世紀初め(明治末年)までの日本近代史の流れを追い、「常識的」歴史観を形成する。							
到達目標	近代文学テキストの読解を通じて、当時の日本人の外国文化との接触のあり方を学び、日本近・現代史像を把握する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	序論——1906年3月、作家・漱石夏目金之助の出発。 『坊っちゃん』を読む①						
	2							
	3	漱石留学——1900年秋～1903年初。その倫敦までの経路、その倫敦での経験。 20世紀的世界の現実。正岡子規宛書簡「倫敦通信」。						
	4							
	5	漱石の英国体験の結実——「クレイグ先生」および「下宿」「過去の匂い」の分析。						
	6							
	7	魯迅(周樹人)の日本留学——1902年清国留学生として来日(洋科挙)。漱石の読者となる。後年、漱石「クレイグ先生」の影響下に、仙台医専時代を回想して書いた「藤野先生」を読む。						
	8							
	9	『坊っちゃん』精読②——1895年の松山赴任と1906年の『坊っちゃん』執筆の相関を考察する。。						
	10							
	11	鷗外森林太郎の1888年——1884年から1888年まで独逸留学した鷗外は、当地で恋愛する。その顛末を記した『舞姫』(部分)を読む。						
	12							
	13	鷗外の短編「普請中」を読む——1909年、すでに陸軍軍医として最高位に達した鷗外が、21年前を回想して書いた「普請中」を批評的に読む。						
	14							
15	漱石と鷗外に見る「移動」の描写について考える——提出されたレポートを批評・評価する。							
授業外学習	授業でとりあげる作品、夏目漱石『坊っちゃん』は通読しておく。							
教科書	夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫)。他のテキストはコピーで配布する。							
主要参考書	とくになし							
評価方法	平常点80%、レポート20%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ファッション文化史					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	—	—	—	—	—	—	—	—
履修条件	とくになし。							
授業概要	<p>あなたは今日何を着ている？それ着ているのはなぜ？——哲学者の鷺田清一は、「人が衣服をまとうのは身体に意味づけをするため」と指摘した。そのような意味づけを行うのは、それをまとっているその人でありまたその人が属している社会である。だとしたら衣服を読み解くことで、その人とその人が属している社会を知ることができるのではないか。だからこそ、映画において衣装や小道具が重要になってくる。</p> <p>そのため前半では近代化の産物としてのファッションの歴史について学ぶ。後半では現代社会における装うことの意味について考える。ファッションについて考えることは、身体と物と社会の関係を考えることだ。</p> <p>映画を中心にした資料や事例を参照しつつ講義し、毎回何らかの課題を出すので、意欲を持って参加してほしい。</p>							
到達目標	現代社会における服飾・ファッションの重要性を認識し、歴史的な知識を踏まえたうえで、身体と物と社会の関係を考えられるようになること。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス・イントロダクション						
	2	ファッションについて学ぶ意味						
	3	歴史(上)身分からの解放とパリモードの誕生①						
	4	歴史(上)身分からの解放とパリモードの誕生②						
	5	歴史(中)世界の洋装化、ニューヨークと既製服①						
	6	歴史(中)世界の洋装化、ニューヨークと既製服②						
	7	歴史(下)パリコレシステムとストリートファッション、ファストファッション①						
	8	歴史(下)パリコレシステムとストリートファッション、ファストファッション②						
	9	中間まとめ						
	10	映画とファッション						
	11	装うことの意味(上)①						
	12	装うことの意味(上)②						
	13	装うことの意味(下)①						
	14	装うことの意味(下)②						
15	最終まとめ							
授業外学習	課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる(評価にかかわる)。欠席した回の課題についても同様。映画を見る際には学んだことを参考にして衣装・小道具に注目すること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	藤田結子・成実弘至・辻泉編, 2017『ファッションで社会学する』有斐閣。 成実弘至, 2016『20世紀ファッションの文化史』河出書房新社。 成実弘至編, 2009『コスプレする社会——サブカルチャーの身体文化』せりか書房。 ジョアン・フィルケンシュタイン, 2007『ファッションの文化社会学』せりか書房。 韓東賢, 2006『チマ・チョゴリ制服の民族誌(エスノグラフィ)——その誕生と朝鮮学校の女性たち』双風舎。 鷺田清一, 2005『ちぐはぐな身体——ファッションって何?』ちくま文庫。 井上雅人, 2001『洋服と日本人』廣済堂出版。 北山晴一, 1999『衣服は肉体になにを与えたか 現代モードの社会学』朝日選書。 ディック・ヘブディジ, 1986『サブカルチャー』未来社。 北村道子, 2018『衣裳術』衣裳術2』トルモア。							
評価方法	毎回の課題70%+出席や意欲などの平常点30%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
美術史 I (日本美術史)					小川 稔			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に定めない。							
授業概要	全15回の連続講義で日本美術史の「よみなおし」をする。古代～近世、千年以上にわたる一応の通史ではあるが、常に現在の私たちの地平から日本の歴史的美術の重要性は何かという視点を持ち続けたい。世界美術の中で日本美術にどのような特質があるのか、はたしてそれは今も有効であるかといった問題提起をわすれず、民俗、社会、政治経済などさまざまな視点から見直していく予定である。ジャンルとしては仏教美術・世俗美術の幅広い領域で生まれた絵画・彫刻・建築・工芸・版画・書、あるいはそれらから逸脱するものなどを拾い上げながら出来るだけ多くのスライドを使って講義する。							
到達目標	わが国の美術史概説をとおり学生諸君が「何か」に出会うことを期待したい。基本、常識としての日本美術史の「学び」ということだけでなく、「見る」ことを通して「考える」技術も身につけたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	古代Ⅰ— どこから始まる？日本美術史						
	2	古代Ⅱ— 飛鳥～白鳳時代の仏教美術						
	3	古代Ⅲ— 天平時代の仏像と大仏建立の前後						
	4	古代Ⅳ— 密教と平安初期の美術						
	5	古代Ⅴ— 平安時代の絵巻物について						
	6	中世Ⅰ— 王朝末期の人間模様						
	7	中世Ⅱ— 鎌倉彫刻と仏師運慶の登場						
	8	中世Ⅲ— 室町時代の禅宗美術						
	9	中世Ⅳ— 雪舟と水墨画						
	10	中世Ⅴ— 茶道の美術をめぐる						
	11	近世Ⅰ— 安土桃山時代の絵画						
	12	近世Ⅱ— 俵屋宗達と本阿弥光悦について						
	13	近世Ⅲ— 江戸時代の個性的な画家たち						
	14	近世Ⅳ— 浮世絵と民衆の美術						
15	近世Ⅴ— 幕末から明治へ							
授業外学習	近隣の美術館、博物館などに普段から足を運び日本美術に関心をもってほしい。							
教科書	資料をその都度配布する。							
主要参考書	授業内で紹介する。							
評価方法	レポート(50%)出席状況(50%)等を総合的に評価する。							
教員への連絡方法	授業内で紹介する。							

科目名					担当者名			
映画と演劇					天願 大介			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	演劇は映画の母である。演劇を知らぬ者に映画を作る資格はない。映画と演劇の歴史を学びその深い関係を知り、異質なものがぶつかり合うことで生まれるパッションこそが映画の原点であり、未来の映画の豊かな可能性がそこにあることを実感する。							
到達目標	演劇に興味を持ち、演劇の知識が映画制作に必要不可欠だと実感する。							
授業計画	回数	内容						
	1	映画の始まりと各国の演劇との関係。						
	2	黒澤明とシェイクスピア。能について。						
	3	西洋文化と東洋文化との激突。						
	4	スタニスラフスキーとエイゼンシュテインが求めたもの。歌舞伎との関係。						
	5	ウディ・アレンとギリシャ悲劇。						
	6	映画リアリズムと演劇的表現との激突。						
	7	歌舞伎・能以外の日本の伝統演劇 話芸(講談・落語・浪曲)の違い。						
	8	川島雄三 旧体制と新時代の激突。						
	9	立川談志 伝統と現代との激突。						
	10	アングラとは何だったのか。						
	11	寺山修司と唐十郎 旧劇と新劇の対立、アングラとの関係。						
	12	芸術と通俗との激突。						
	13	映画と演劇の現在。						
	14	各国作家たちの様々な模索。						
15	激突が未来の扉を開く。							
授業外学習	観劇を体験しておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	出席とレポートで判断する。(出席65%、レポート35%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉					佐川 美智子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	<p>古代ギリシア・ローマ時代から近代まで、西欧の様々な美術作品は人類共通の遺産であり、現代でもなお視覚芸術の重要な源泉です。この講義では毎回スライドを使って西洋美術史上の多様な作品(建築、絵画、彫刻等)を通史に沿いつつ紹介していきながら、作者や時代背景、作品の主題、解釈、造形の特色など、理解を深めるために不可欠な事柄も含め、各時代や地域の重要なトピックを取り上げていきます。また美術作品の実物に触れることを重要視しているため、優れた作品の所在地情報や、鑑賞するに値する展覧会の情報等も随時伝えます。美術史の知識を持っているとより深く理解できる映画・ドラマ等も紹介します。さらに、校外学習として、近隣美術館の見学を予定しています。</p> <p>この講義を通じ、長きにわたり西欧の視覚芸術の根源を形成してきた伝統とその革新というダイナミックな動きに触れるとともに、現代社会で生み出されている映画やアニメーション、ゲームといった一見古いものとは無縁に思える創作物の中でも、西洋の古典的な世界が様々な参照され、引用されている事実気づくことができ、また同時にその源泉を理解することを目標とします。</p>							
到達目標	<p>この講義では西欧の視覚芸術の歴史に対する知識と理解を深めることを第一目標とする。また多様な美術作品に触れることで視野が広がり、異文化に対する理解が促進される。同時に、現代の映像表現に西洋美術がどのような形で生きているかを認識することができるようになる。</p>							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	導入編：なぜ西洋美術を学ぶのか、その意義や面白さについて／受講生へのアンケート実施(西洋美術の知識、興味のあり方、本講義に期待するもの等)。						
	2	西欧世界の美の規範、そのルーツ① 古代ギリシアの建築と美術(古典古代)						
	3	西欧世界の美の規範、そのルーツ② 古代ローマの建築と美術						
	4	中世ヨーロッパ：キリスト教世界の成立と隆盛 教会、為政者、民衆→ロマネスクからゴシックへ						
	5	ルネサンスの始まり イタリアの都市国家の発達と美術						
	6	盛期ルネサンス 天才の時代 レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど						
	7	北方ルネサンス／宗教改革期の美術—神、人間、自然 アルブレヒト・デューラー、ルーカス・クラナハ(父)ほか						
	8	フランドルの魔術的空間—ヤン・ファン・エイクからボス、ブリューゲル、フェルメール、レンブラントへ						
	9	バロック期 レンブラントの光と影、ルーベンスの豊穡、カラヴァッジオの演劇性						
	10	近代の幕開け：戦慄の絵画—ゴヤ、ブレイクなど						
	11	19世紀 変革の時代、視覚の革命—リアリズムから印象派へ						
	12	20世紀—世界大戦の時代 変貌を遂げてゆく美術表現						
	13	美術館見学						
	14	美術館見学						
15	現代の美術 多様化する表現領域							
授業外学習	美術館見学の機会を設けます。また講義中に足を運ぶ意義のある展覧会を紹介します。個人でもできるだけ実物に触れる機会を作ると良いでしょう。							
教科書	特になし。							
主要参考書	講義中に紹介。							
評価方法	リアクションペーパー 20%、期末レポート 80%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
英米文学					大友 りお			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	テキストの購入							
授業概要	米国の作家レイモンド・カーヴァーの短編小説は村上春樹の翻訳により日本でも広く読まれている。本講では短編集『大聖堂』(Cathedral, 1983)に含まれる12編を読み、そこに描かれる「普通の人の日常」について考え、現代日本社会に生きる自分の日常を見つめ直す。ミニマリズムの巨匠と言われるカーヴァーの文体は、短い文と「普通の言葉」を使って、感情の揺れや人間関係のキビを効果的に描いており、一遍がそれぞれ独立した映像のドラマとして読者に受け取られつつ、全体としてはカーヴァー独自の世界を醸し出している。カーヴァーの作品をオムニバス方式にした映画『ショート・カット』(ロバート・アルトマン、1993)と依存症の困難とそこから脱出を描いた『28デイズ』(ベティ・トーマス、2000)の二作を鑑賞し、カーヴァー作品の読みを深める。							
到達目標	物語を読む力をつけ、自分の創作に役立つ手法を学ぶ。とくに、物語の構成が見えるようになることと、「ふつう」の日常の中にテーマを発見することができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講義:作家と作品の背景						
	2	講義:視点の問題						
	3	講義:カーヴァーとミニマリズム						
	4	講義:語り手の問題						
	5	講義:趣向と依存症の差異:映画鑑賞『28デイズ』(ベティ・トーマス、2000)						
	6	講義:アメリカ社会						
	7	講義:作品の中の女性たち						
	8	講義:村上春樹の文学						
	9	講義:アルトマンの映画作品・レビューを読む						
	10	映画鑑賞:『ショートカット』(ロバート・アルトマン、1993)						
	11	「ショートカット」に使用された原作短編を読む						
	12	講義:オーストラリアの表象						
	13	映画鑑賞:『ジндаバイン』(レイ・ローレンス、2006)						
	14	二作品の比較・ディスカッション						
15	講義:課題短編「大聖堂」ディスカッション							
授業外学習	読書(2-3時間)・レポート作成(3時間)							
教科書	レイモンド・カーヴァー著、村上春樹訳『大聖堂』中央公論新社、2007年 (ISBN-13: 978-4124035025)							
主要参考書	—							
評価方法	毎週の課題(60%)、レポート(40%)							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
哲学					田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	特に履修条件はない。							
授業概要	哲学は、「問い」を立て、議論し、反論を思い描き、その概念が有効なのかを考えてみるという仕方で行なわれる。哲学が主に関心を寄せているのは、「観念」や「概念」を問い直し、理解することである。一方、映画はあたかも「具体の科学」のようであり、映画の中では、あらゆるものが視覚化(聴覚化)されている。この授業では、できるだけ映画を使って哲学を具体的に解説したい。本年度のテーマは「感情」や「情動」である。よく「喜怒哀楽」と呼ばれる感情は、非常に具体的で自分のこととして感じている分には、わかりやすいが、いざそれを言語化して理解しようとするとなかなか難しい。その「感情」や「情動」の様々な様態を対象にする。							
到達目標	受講後には、人間の感情をより深い観点から考えられるような地点に立っているようにしたい。							
授業計画	回数	内容						
	1	感情の哲学:感情・情動とは何か						
	2	プラトンの「驚き」:哲学は驚きから始まる						
	3	アリストテレスと「憐れみ」の感情						
	4	デカルトの情念論						
	5	スピノザの意志論						
	6	ヒューム/アダム・スミスの共感						
	7	自己欺瞞の問題						
	8	意志の弱さ(アクラシア)の問題;アリストテレス、デイヴィドソン						
	9	恐怖という情動:ホラーを考える;ノエル・キャロル						
	10	笑いのメカニズム;ヘーゲル、ベルクソン						
	11	悪という感情1:根源悪;カント						
	12	悪という感情2:凡庸な悪;ハンナ・アーレント						
	13	ルサンチマン/不機嫌という現代的な感情:ニーチェ						
	14	愛情について;プラトン、デリダ						
15	まとめ/時間内レポート							
授業外学習	授業では断片的にしか触れられない著作(オリジナルな著作)を、一編くらいは全部を読むこと。							
教科書	特になし。毎回授業時にプリントを配布する。							
主要参考書	廣松渉他編『岩波哲学・思想事典』岩波書店、木田元編『コンサイス20世紀思想事典』三省堂、アンドリュー・エドガー他『現代思想芸術事典』青土社							
評価方法	期末試験60% リアクションペーパー30% 受講態度10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演劇史 I 〈物語の原型を探る〉					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	脚本・戯曲など創作の原理に関心のある者、演技者を志す者、映画や演劇の演出に興味を持つ者の参加を望む。							
授業概要	映画の大学で演劇史を学ぶことの意味は何か。ずばり、「物語の原型」に数多く接することに尽きる。古くから演じられ、語り継がれてきた物語の数々は、なぜ現代まで色褪せることがないのか。物語の普遍性とは何なのか。それを問うことは、今村昌平の言う「人間とは何と滑稽なものなのか」「総じて人間とは何と面白いものか」を検証することでもある。したがって本講は平坦な通史ではなく、現代の創作にとって重要な「物語の原型」を演劇史の中に見出すことを目標とする。本年度はギリシャ悲劇とシェイクスピアを中心に据え、日本の古典芸能とも比較しながら進めることとする。戯曲を朗読する面白さに目覚めてほしい。							
到達目標	受講生が自ら創作や演技などの表現をおこなう際の「引き出し」が増えて豊かになることをめざす。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス——映画の大学で演劇の歴史を学ぶことの意味を考える						
	2	ギリシャ悲劇(1)——「オイディプス王」「メディア」「エレクトラ」「アンティゴネー」「オレステス」などを取り上げる。主なキーワードは、神、予言、国家、王、民衆、血縁、陰謀、欲望、殺戮、不条理、など。						
	3	ギリシャ悲劇(2)——同						
	4	ギリシャ悲劇(3)——同						
	5	ギリシャ悲劇(4)——同						
	6	ギリシャ悲劇(5)——同						
	7	シェイクスピア(1)——「ハムレット」「リア王」「リチャード三世」「ヘンリー四世」「冬物語」などを取り上げる。キーワードはギリシャ悲劇の項とほぼ重なる。						
	8	シェイクスピア(2)——同						
	9	シェイクスピア(3)——同						
	10	シェイクスピア(4)——同						
	11	シェイクスピア(5)——同						
	12	日本の古典(1)——能、狂言、文楽・歌舞伎(近松、南北、黙阿弥)を取り上げ、ギリシャ悲劇やシェイクスピアと並べてみる。						
	13	日本の古典(2)——同						
	14	日本の古典(3)——同						
15	まとめ							
授業外学習	特になし							
教科書	授業時に指示する							
主要参考書	授業時に指示する							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%(ただし出席不良の者がレポートだけ提出してもダメ)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
演劇史Ⅱ〈原型の崩壊から現代まで〉					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養〈文学・芸術科目群/映画隣接〉	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	演劇史Ⅰを受講した者							
授業概要	演劇史Ⅰで論じた「物語の原型」が近代以降、創作の現場でいかに崩壊し変容していったのかを検証する。具体的には、チェホフ、イブセン、プレヒトから現代にいたる劇作を取り上げ、日本の現代演劇を併置して論じていく。授業の進め方としては、演劇史Ⅰと同様に、戯曲の朗読、実際の舞台の映像記録の鑑賞、この両者を並行させていく。							
到達目標	受講生が自ら創作や演技などの表現をおこなう際の「引き出し」が増えて豊かになることをめざす。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス1						
	2	ガイダンス2						
	3	チェホフ1－戯曲の朗読						
	4	チェホフ2－舞台映像の視聴						
	5	チェホフ3－戯曲の朗読						
	6	チェホフ4－舞台映像の視聴						
	7	イブセン1－戯曲の朗読						
	8	イブセン2－舞台映像の視聴						
	9	イブセン3－戯曲の朗読						
	10	イブセン4－舞台映像の視聴						
	11	20世紀演劇の潮流1－戯曲の朗読						
	12	20世紀演劇の潮流2－舞台映像の視聴						
	13	日本の現代演劇1－戯曲の朗読						
	14	日本の現代演劇2－舞台映像の視聴						
15	まとめ							
授業外学習	特になし							
教科書	授業時に指示する							
主要参考書	授業時に指示する							
評価方法	期末レポート80%＋受講時の熱意など平常点20% (ただし出席不良の者がレポートだけ提出してもダメ)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー (別途告知) を活用せよ。							

科目名					担当者名				
映画で学ぶ歴史と社会 I (戦後日本)					関川 夏央				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2019～ ～2018	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	とくになし。								
授業概要	日本映画はどのようにして時代と社会を映し出してきたかを、1950年代を中心に作品から考察する。								
到達目標	映画に映し出されたのは遠い過去であっても、自分が歴史とは無関係に存在できないことを確認し、2020年代を映画で表現することを遠望する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	1と2では、野村芳太郎監督、橋本忍脚本、松本清張原作の『張込み』(1959)を見て、当時の世相、当時の長距離移動について知る。野村芳太郎の映画と松本清張の原作小説との相違点を検証する。							
	3 4	1と2のつづき。『拝啓天皇陛下様』(部分)を見て、野村芳太郎の仕事を追う。							
	5 6	5と6。今村昌平監督、今村昌平・池田一朗脚本『にあんちゃん』(1959)に、石炭産業が凋落する時代相、在日コリアンの少年少女の描き方を見る。							
	7 8	5と6のつづき。今村昌平監督『赤い殺意』(部分)を見て、今村昌平と「土着」ということについて考える。							
	9 10	9と10。木下恵介監督、壺井栄原作『二十四の瞳』(1954)を見て、戦前戦後日本の「貧乏」と「戦争」、および当時の「辺地での初等教育」の実情を知る。木下恵介の手法と主演・高峰秀子の存在について学ぶ。							
	11 12	9と10のつづき。木下恵介監督『喜びも悲しみも幾年月』(1957)の部分を見て、木下的ドラマツルギーを学ぶ。							
	13 14	13と14。小津安二郎監督の最晩年の作品『秋刀魚の味』(1962)に、小津が見た高度成長期の日本と東京を検討する。							
	15	13と14のつづき。小津安二郎『東京物語』(1953)の部分を見ながら、『秋刀魚の味』までの9年間の変化を知り、なぜ小津がヨーロッパを中心に世界的影響力を保つかについて考える							
	授業外学習	とくになし。							
	教科書	なし。							
	主要参考書	とくになし。							
	評価方法	出席80パーセント。レポート20パーセント。							
	教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
心の健康					磯谷 悠子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(E群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	条件は特にないが、配布資料はかなり多いので復習と管理を頑張ること。 【読替科目】精神医学入門(～2018年度)							
授業概要	心の健康とはなんだろうか。心の健康を扱う学問は多岐にわたり、心理学や精神医学、精神保健学などと呼ばれている。心は身体と対比して語られることが多いが、実際は全人間的に見ても心と身体は相互に影響しあい、ミクロに見れば脳活動のどこから心として現れてくるのかというのは難しい。本講義では心の健康に関する基礎知識を学んで人間理解をより深め、異常と正常、個性とは何かを考えていく。様々な情報発信や人間描写、表現に対して心のありようという観点から考察する力を養うことは、表現者として人間を描く助けとなるばかりでなく、自身が社会及び他者との繋がりの中でより良く生きるための糧ともなる。							
到達目標	①心の健康全般について正しい知識を持ち、偏見をもたないようにすること ②自分の抱えやすいストレスについて自覚できるようになること ③脳と心のつながりについて理解できるようになること							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス						
	2	心の病 - 精神医学の分類						
	3	気分障害 - うつ病や双極性障害ってどんな病気？						
	4	気分障害 - うつ病や双極性障害の治療や回復						
	5	統合失調症1 - 統合失調症ってどんな病気？						
	6	統合失調症2 - 統合失調症の治療や回復						
	7	発達障害1 - 発達障害ってどんなもの？						
	8	発達障害2 - 発達障害のある暮らし						
	9	アルコール・薬物関連障害						
	10	神経症 - 不安や恐怖、パニックなど						
	11	性格と遺伝と個性1 - 性格ってどんなもの？						
	12	性格と遺伝と個性2 - ワークショップ						
	13	自己と他者と脳1 - 脳の仕組み						
	14	自己と他者と脳2 - 脳から見える私とあなた						
15	まとめ							
授業外学習	・講義中に紹介する参考図書を読み、紹介された映画を観て講義内の指示に応じて時にはレポートを書くこと ・配布資料をよく読み返しておくこと							
教科書	講義ごとにスライド資料を配布							
主要参考書	講義内で適宜紹介							
評価方法	基準点は講義内で指示する課題(30%)と試験(70%)にて採点する。加えて受講態度により±10点の範囲で加点・減点を行う。							
教員への連絡方法	質問がある場合は大学の事務を通して連絡するか、講義前後に連絡手段を尋ねに来てください。							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ (国際情勢—国際紛争、環境問題を読み解く)					熊岡路矢			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	テーマ【映画で学ぶ歴史と社会(国際情勢) 紛争と環境問題を読み解く】に関わる教科書、参考書、新聞記事、ネットニュースなどの一部でも読んでおくこと。受講学生は、今後のキャリア形成、国際理解分野での問題意識や自身の獲得目標を整理しておくこと。							
授業概要	<p>概要 1)何を教えるのか。：①地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境の4大重要課題)についての基本理解。②とくに、現代の国際政治の歪みから生ずる、各紛争および難民問題の構造、原因、現状、解決策について。また「食(農・牧畜業)」の安全、気候変動、原発事故を中心に地球環境問題の基礎理解に関して教える。③紛争解決、環境問題解決における、国連、政府、市民、NGOの役割について教える。</p> <p>2)方法：①書籍、新聞記事のほか、問題解明に役立つ映画・映像(主にドキュメンタリー。一部、ドラマ)を活用する。②現在進行形の紛争とその構造分析も扱う。新聞(国際面)、報道系週刊誌・月刊誌、TV国際報道ニュース・解説を活用する。③自由に質問を受け、学生の意見表明や議論、ディベートが活発になる環境を醸成する。</p>							
到達目標	一般社会やメディアで扱われる、現代国際社会、国際問題(特に政治と紛争、その他、経済問題、貧困、人権、環境問題など)に対して、関心と批判的理解(リテラシー)をもって、読み取ることが出来るようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	<b>オリエンテーション(はじめに)：</b> 国連用語、地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境)とは何か。現代のイラク戦争(2003年～)からシリア戦争【2011年～】への流れ。原因、経緯、現状、想定される解決への道。						
	2	<b>1)国際政治と戦争の歴史：</b> ①紛争と難民流出構造について。紛争解決における国連-政府-市民社会-NGO/CSOの役割						
	3	<b>1)国際政治と戦争の歴史：</b> ②20世紀という <b>「戦争と映画の世紀」</b> について学ぶ。(二つの世界大戦、冷戦・後、現在の世界へ)						
	4	*一般市民を巻き込む大量殺りく型戦争の原点としての第一次/第二次世界大戦。中東紛争の基となった「サイクス・ピコ条約」。						
	5	<b>1)国際政治と戦争の歴史：</b> ③第二次世界大戦後、冷戦構造下における紛争。冷戦構造の終了と、「911」事件。						
	6	*中東紛争の根源であるパレスチナ紛争。911事件を利用したイラク戦争。 <b>イラク・シリアの破綻国家化と「イスラム国=IS」台頭。</b>						
	7	<b>1)国際政治と戦争の歴史：</b> ④紛争の基となる、資源(エネルギー、水・土地、希少金属など)を巡る争いと「貪欲資本主義」						
	8	* 富の極端な格差、資源争い、戦時下の性暴力等の問題。紛争をめぐる情報と諜報。						
	9	<b>2)地球環境問題：</b> ①農・牧畜業の化学化・工業化の問題。脅かされる私たちの「食」の安全。化学的大量生産と大量消費の問題。健康への危険。						
	10	* 世界の農牧畜業と、食の安全 遺伝子組み換えと食料メジャーの台頭の問題。「水」の危機(汚染、旱魃/砂漠化、管理民営化)						
	11	<b>2)地球環境問題：</b> ②地球温暖化と気候変動の問題 「不都合な真実」とアル・ゴア、そしてIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)。						
	12	* 北極、南極の溶ける氷山と、水面上昇。世界の島国・島嶼部の運命。温暖化と、極端な異常気象現象(メガ・クライシス)。政府、企業、人々が出る、温暖化対策とは。						
	13	<b>2)地球環境問題</b> ③原子力発電/発電所の基本問題と日本・世界 原発事故と、放射性廃棄物の影響と処理の課題。放射性廃棄物の処理は可能か。						
	14	* 原爆や原子力・放射能へのアレルギーと、原発は如何にして日本/世界に導入されたか。 スリーマイル(1979)、チェルノブイリ(1986)そして福島原発事故(2011)。事故後のデブリ(炉心溶融物)対策と、廃炉の問題。						
15	<b>3)今日の国際情勢、まとめ(過去—現在—未来)。UNHCR【国連難民高等弁務官事務所】と難民映画祭について。</b>							
授業外学習	本テーマに関する本、新聞記事、映画、TVプログラム、ネットニュースを通して学ぶこと。必要資料は講義の中で紹介していく。							
教科書	『戦争の現場で考えた 空爆、占領、難民—カンボジア、ベトナム、イラクまで』(熊岡路矢著)/彩流社/2014年)、 『原発・正力・CIA—機密文書で読む昭和裏面史』(有馬哲夫著/新潮新書/2008年)							
主要参考書	『サイクス=ピコ条約 百年の呪縛—中東大混迷を解く』(池内惠著/新潮選書/2016年)、その他、授業内で参考文献表・資料を配布する。							
評価方法	毎回リアクション・ペーパーを記入・提出し、各自の理解の度合いを評価し、翌週の講義で補足補正する。 期末授業内試験結果(60%) リアクション・ペーパーの内容と受講態度(40%)。【原則、出席率70%以上を評価の対象とする。】							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画流通論Ⅰ					石坂 健治、富山省吾			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	—	—	—	—	—	—	—	—
履修条件	映画業界の多様な仕事に関心のある者の履修をのぞむ。							
授業概要	メインの担当講師2人と、映画業界の第一線で活躍するゲスト3人が登壇する。それぞれが映画界の中でおこなっている仕事を具体的に解説する。たとえば石坂は「東京国際映画祭ディレクター」と「映画批評家」としての仕事、富山は「日本アカデミー賞事務局長」と「映画プロデューサー」の仕事について語る。多彩なゲストもまた、製作、配給、宣伝、興行の各分野で自身がやっている仕事のことを語る。それらを通して受講生は、映画界には多種多様な仕事があり、それぞれが重要な役割を果たしていることを知るだろう。新設された「映画ソムリエ・プログラム」の第一歩である。							
到達目標	映画の世界には、映画を「つくる」ことだけでなく、映画を「届ける」ことに関する多種多様な仕事があり、それぞれが連携し合って産業を形づくっていることを理解する。							
授業計画	回数	内容						
	1	映画プロデューサーとしてやってきたことを語る①(富山、「平成ゴジラ・シリーズ」など)						
	2	映画プロデューサーとしてやってきたことを語る②(富山、「平成ゴジラ・シリーズ」など)						
	3	国際映画祭ディレクターとしてやってきたことを語る①(石坂)						
	4	国際映画祭ディレクターとしてやってきたことを語る②(石坂)						
	5	若手監督たちと映画を作る①【ゲスト講師】小野光輔(映画プロデューサー、『歓待』『21世紀の女の子』など)						
	6	若手監督たちと映画を作る②【ゲスト講師】小野光輔(映画プロデューサー、『歓待』『21世紀の女の子』など)						
	7	映画館を経営する①【ゲスト講師】大矢敏(川崎市アートセンター映像館ディレクター)						
	8	映画館を経営する②【ゲスト講師】大矢敏(川崎市アートセンター映像館ディレクター)						
	9	映画を宣伝する①【ゲスト講師】梶谷有里(パブリシスト)						
	10	映画を宣伝する②【ゲスト講師】梶谷有里(パブリシスト)						
	11	日本アカデミー賞を運営する①(富山)						
	12	日本アカデミー賞を運営する②(富山)						
	13	映画について批評を書くということ①(石坂)						
	14	映画について批評を書くということ②(石坂)						
15	まとめ							
授業外学習	なし							
教科書	なし							
主要参考書	中野理恵『すきな映画を仕事にして』現代書館、2018 附田斉子『映画の仕事はやめられない』岩波ジュニア新書、2005							
評価方法	期末レポート70%+リアクションペーパーなど受講時の熱意30%							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名		担当者名						
社会学		ハン・トンヒョン						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	【読替科目】社会学入門(～2018年度)							
授業概要	社会学は、自分自身がかかわる社会事象を正面から扱う学であり、その考え方の基本は「常識をうまく手放す」ことである(佐藤俊樹『社会学の方法』)。自分自身、つまり自己は絶対的なものではなく、他者との関係の中に、自己と他者を含む社会との関係の中に存在する。このように、人は生物学的な存在であることを超えて「社会的な存在」なのであり、社会学が扱うのは、そのようなものとしての人間の連なりからなる「社会」だ。すべての社会事象、社会問題はそこに起因しており、あらゆる芸術やエンタテインメント作品はそのようなものとしての社会学の射程から逃れられない。社会学的な視点は、芸術やエンタテインメントにかかわる者にとっておそらく有効な道具となるだろう。本講義は、社会学説の基本を踏まえたうえで有用な概念を身につけ、自らが拠って立つ日本社会の成り立ちに触れることで、それまで見てきた世界(と自分自身)をとらえ直し、よりよく見通せるようになるきっかけを作ることを目指す。							
到達目標	社会学的な視座を獲得するためのきっかけをつかむ。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス・イントロダクション～社会学とは？						
	2	社会とは？～実在するのか、しないのか：デュルケムとウェーバー						
	3	個人と集団：ジンメルほか						
	4	自己と他者：ミードとゴフマン						
	5	ここまでのまとめとディスカッション						
	6	プレゼンテーションと課題						
	7	ネイションとエスニシティ：「〇〇人」であることを決めているもの？①						
	8	ネイションとエスニシティ：「〇〇人」であることを決めているもの？②						
	9	セクシュアリティとジェンダー：「性別」や「性差」を決めているもの？①						
	10	セクシュアリティとジェンダー：「性別」や「性差」を決めているもの？②						
	11	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化①						
	12	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化②						
	13	差別はつくられる①						
	14	差別はつくられる②						
15	最終まとめと課題							
授業外学習	未読の配布資料は授業後に必ず読むこと。普段から社会の一員として社会問題に関心を持ち、自分の問題とすることは違う立場から、他人事に思えることは自分の問題として、考えてみる練習をすること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	『自殺論』デュルケム(中公文庫) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー(岩波文庫) 『ブリッジブック社会学』玉野和志編(信山社、2008) 『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』現代位相研究所編(日本実業出版社、2010) 『在日外国人 第三版～法の壁、心の溝』田中宏(岩波新書、2012) 『平成史【完全版】』小熊英二編著(河出書房新社、2019) 『ふたつの日本——「移民国家」の建前と現実』望月優大(講談社現代新書、2019) 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー-3)』塩原良和(弘文堂、2012) 『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』森山至貴(ちくま新書、2017) 『はじめてのジェンダー論』加藤秀一(有斐閣スタジオ、2017)							
評価方法	課題60%(必須)＋出席やリアクションペーパーなどの平常点40%							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
映画流通論Ⅱ					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～ ～2017	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	専門を問わず、映画産業の全体像を知りたい者に向けて開かれる講義である。事前の心がけとしては、新聞や雑誌の映画広告をこまめにチェックする習慣を身に付け、レンタルビデオ店の商品の配置を気に留めるなど、映画にまつわる身の回りの全ての現象に意識的になることが肝要。							
授業概要	映画の流通とは、一本の映画の製作が始まってから観客に届くまでの「作る」「見せる」「見る」という旅のことであり、つまり生産者から卸問屋を経て消費者へと至る道すじのことで、本講では、①映画を作ること(=製作)、②映画を見せること(=配給、上映、複製ソフト、著作権、輸出入、検閲)、③映画を見ること(=鑑賞、批評、研究、ジャーナリズム)、のそれぞれの基本を概説し、映画流通の全体像を把握することをめざします。映画とは「商品」なのか、それとも「作品」なのか。それを考えるための基本レッスンです。							
到達目標	映画業界をひとつの産業としてとらえる視点を持ち、映画流通の全体像を把握することができるようになること。							
授業計画	回数	内容						
	1	映画の流通とは何か——いま町の映画館でかかっている特定の映画を例にあげ、その映画が企画立案されてから完成するまでの「旅」を具体的にたどる。						
	2	映画の製作——1本の映画が誕生するプロセス(企画立案、脚本執筆、資金調達、ロケハン、撮影、ポストプロダクション)の流れを把握する。						
	3	映画の輸出——日本映画がはるばる海を越えて外国で上映されるプロセスを学ぶ。						
	4	映画の輸入——外国映画がはるばる海を渡って日本で上映されるプロセスを学ぶ。						
	5	映画の配給——第4回を受け、外国映画を日本に紹介する配給会社の仕事を理解する。						
	6	映画の上映——映画館がいかに経営されているかを学ぶ。自主上映との違いにもふれる。						
	7	映画と複製ソフト——フィルムとビデオの差異をメディア史的な視点から理解する。						
	8	映画とテレビ——20世紀を主導した2つのメディア＝先行した映画と後発のテレビの関係を考える。						
	9	映画と著作権——「ノーモア映画泥棒」のCMをもとに、映像の著作権の理念と現状を理解する。						
	10	映画と保険——映画製作につきまとうリスクとそれを回避するための「保険」の理念を学ぶ。						
	11	映画と観客——最新設備の巨大シネコンからアートフィルム専門のミニシアターまで、さまざまな映画館像を総覧する。						
	12	映画と批評——新聞の映画評や雑誌のコラムから学術論文までの幅を理解し、映画を文章化することの意味を考える。						
	13	映画とジャーナリズム——スターのゴシップから国際映画祭の華やかな報道まで、映画ジャーナリズムの歴史と現状を理解する。						
	14	映画と地域コミュニティ——日本各地で興隆する、映画を用いた地域活性化の試みについて考える。						
15	まとめ							
授業外学習	課外授業(配給会社または映画館見学)を行うことがある。							
教科書	なし							
主要参考書	佐々木 彦彦監修『芸術経営学講座第4巻 映像篇』東海大学出版会、1994年(アマゾンまたは図書館)							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
デジタル映像技術概論					高橋 登			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2・4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(D群)	選択	講義	2	2・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に無し							
授業概要	「映像」という視点から、映画やテレビの技術発展と連動した「静止画(写真)」「動画」に関するデジタル処理の進化の過程に触れ、ITネットワーク環境を含む、現在のデジタル映像環境の基礎知識と基礎用語を解説する。また、デジタルシネマの今後を含み、進行中の最新のデジタル環境の概要についても紹介する。							
到達目標	映像技術の基本用語を理解し、近年の映像技術の変遷について概観がイメージできるようにする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	テレビ技術発展史(アナログ放送の初期からデジタル放送への変遷)						
	2	ビデオ技術発展史(磁気録音の開始からVTR開発への経緯、業務用VTRと家庭用VTRの開発逸話)						
	3	テレビ放送のしくみ(SDTVとHDTVの概要、地上波、BS、CS、ケーブルテレビのしくみ)						
	4	ビデオカメラのしくみ(ビデオカメラの撮像素子やデジタル処理の概要)						
	5	ビデオの種類としくみ(ビデオフォーマットの種類と伝送方式、テープ記録からファイルベースによる記録方式への移行)						
	6	ディスプレイの種類としくみ(ブラウン管の時代から有機ELテレビまでのディスプレイ技術の変遷、映画用DLPプロジェクターのしくみ)						
	7	デジタルスチルカメラの種類としくみ(コンパクトカメラと一眼カメラの違い、レンズの種類、動画撮影の画質)						
	8	多様化する記録媒体としてのCD(音楽CDの開発と多用途の記録メディアとしてのCDの種類としくみ)						
	9	映像記録媒体であるDVD、Blu-rayディスクについて(DVDとBDの種類と技術概要)						
	10	PCとのインターフェース(PCの機能を拡張する外部インターフェースの利用と映像制作ソフトウェアの種類)						
	11	映像作品におけるデジタル音声について(音声のポストプロダクションの概要、劇場映画のサラウンドサウンドの種類と変遷)						
	12	ノンリニア編集システムの種類と概要(ノンリニア編集の開発経緯と進化過程、映像制作のワークフローにおける編集の位置づけ)						
	13	劇場用映画におけるフィルムからデジタルシネマへの変遷と概要(デジタル化による制作フローの変化について)						
	14	これからのデジタルシネマについて(デジタル上映の今後、色域の拡張、解像度とフレームレート、3D映像等)						
15	インターネット映像のしくみ(ダウンロードとストリーミング、オンデマンドとライブ配信等)							
授業外学習	授業で紹介する映像技術の概要は広範囲に及ぶため、事前学習は必要ないが、授業で配布するテキストを復習し、各回のキーワードを元にインターネットや専門書を深掘りして、各自の興味や知識を満たして欲しい							
教科書	無し							
主要参考書	教員による独自テキストを用いる							
評価方法	授業への参加90%、レポート提出10%							
教員への連絡方法	初回授業で連絡先を伝える							

科目名		担当者名						
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ジェンダーとセクシュアリティ〉		大友 りお						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	指定のテキストを購入し(中古可)・指定された物語を毎週読み、ディスカッションに積極的に参加できる人							
授業概要	イギリス現代作家アンジェラ・カーターの短編集『血染めの部屋』をキーテキストに、ジェンダーの問題を考える。カーターは、おとぎ話を読み替え、語り直し、女性の性と欲望を肯定した新しい物語を生み出し、映画作家にも大きな影響を与えている。彼女と同世代の日本の作家による同様の短編集、倉橋由美子の『大人のための残酷童話』、佐野洋子の『嘘ばっか』を読み比べて、彼女たちのメッセージがさらに明らかになる。本講では『赤ずきん』『白雪姫』『美女と野獣』『青ひげ』のヴァリエーションをたどり、物語の構成についても検証する。							
到達目標	受講後、学生は文学テキストと映像メディアを通して表現されるすべての物語を、性差の局面から分析することができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講義:性差とは何か テキスト:「赤ずきん」のテーマ(グリム・ペロー)						
	2	テキスト:「赤ずきん」のテーマ(佐野洋子) 精読と問題提起						
	3	講義:フェミニズムの文学の手法 テキスト:「赤ずきん」のテーマ(カーター)「狼人間」「狼たちの仲間」						
	4	テキスト:「赤ずきん」のテーマ(カーター)「狼アリス」「ピーターと狼」 精読と問題提起						
	5	講義:ポーモン夫人とディズニー映画が表象する女性の幸福 映画鑑賞:『美女と野獣』(ジャン・コクトー、1946)						
	6	テキスト:「美女と野獣」のテーマ(カーター)「野獣の求愛」「虎の花嫁」 精読と問題提起						
	7	講義:近代小説とファンタジー(幻想小説):ペロー『青ひげ』の意図						
	8	講義:近代小説とファンタジー(幻想小説):「青ひげ」のテーマ(カーター)「血染めの部屋」						
	9	映画鑑賞:『スノーホワイト』(ルパート・サンダース、2012)・ディスカッション						
	10	課題制作「おとぎ話のバリエーションを書く」背景は現代日本・文字サイズ、行間、文字数規定						
	11	映画鑑賞『人魚姫』(チャウ・シンチー、2017)・ディスカッション						
	12	講義:倉橋由美子の残酷童話・「人魚の涙」						
	13	映画鑑賞:『五日物語』(マッテオ・ガローネ、2015)・ディスカッション						
	14	互いの作品を読みあう						
15	講義:マスキュリティ研究に向けて							
授業外学習	関連する物語を読む(2時間)・自分の創作の準備をする(1時間)□							
教科書	アンジェラ・カーター著『血染めの部屋』(プリント配布) 倉橋由美子著『大人のための残酷童話』新潮文庫 (ISBN-13: 978-4101113166) 佐野洋子著『嘘ばっか』講談社文庫 (ISBN-13: 978-4062637572)							
主要参考書	シヤルル・ペロー著『完訳ペロー童話集』岩波文庫・ポーモン夫人著『美女と野獣』角川文庫・グリム兄弟著『グリム童話集・全5巻』岩波文庫 アンデルセン著『アンデルセン童話集・全7巻』岩波文庫							
評価方法	授業内ディスカッションと発表(50%)・創作物語(50%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ〈ネイションとエスニシティ〉					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学群/映画)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	「誰々が〇〇人だ」という場合、それはどのようにして決まるのか。国籍か？血筋か？生まれ育った場所か？身につけている文化か？「〇〇人であること」はこれらの組み合わせや取捨選択によってできており、それは時代や場所によって変わる。思われているほど自明でも強固でもないのに、自明で強固だと思われがちな「〇〇人であるということ」——エスニシティやネイション(日本語だと民族(性)や国民に当たる)——について、映画作品を題材に、主にそのボーダー上にいる人びとに焦点を当てつつ考える。							
到達目標	「(自他ともに)人々の拠り所」としての国や民族を相対化する視座を持つためのきっかけをつかむこと。							
授業計画	回数	内容						
	1	イントロダクション:「〇〇人である」ということ～多文化主義なき多文化社会						
	2	総論:日本のエスニック・マイノリティ						
	3	近代国民国家の成立と植民地支配						
	4	『愛と誓ひ』(今井正・崔寅奎監督、1945年)						
	5	在日コリアンの歴史と現在①						
	6	『忘れられた行軍』(大島渚監督、1963年)『あんにょんキムチ』(松江哲明監督、1999年)						
	7	在日コリアンの歴史と現在②						
	8	『GO』(行定勲監督、2001年)						
	9	排外主義とレイシズム						
	10	『This is England』(2006年)						
	11	移民・難民とどう向き合うか①						
	12	『歓待』(深田晃司監督、2010年)						
	13	移民・難民とどう向き合うか②						
	14	『希望のかなた』(アキ・カウリスマキ監督、2017年)						
15	最終発表							
授業外学習	配布資料には必ず目を通すこと。課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる(評価にかかわる)。欠席した回の課題についても同様。授業内容と関連する社会問題に関心を持ち、学んだことを応用して考えてみる。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	<p>松江哲明, 2000『あんにょんキムチ』汐文社</p> <p>徐京植, 2012『在日朝鮮人ってどんなひと?』平凡社。</p> <p>水野直樹・文京洙, 2015『在日朝鮮人——歴史と現在』岩波新書。</p> <p>田中宏, 2013『在日外国人 第三版～法の壁、心の溝』岩波新書。</p> <p>小熊英二編著, 2019『平成史【完全版】』河出書房新社。</p> <p>與那覇潤, 2013『日本人はなぜ存在するか』集英社インターナショナル。</p> <p>糟谷憲一・並木真人・林雄介, 2016『朝鮮現代史』山川出版社。</p> <p>加藤陽子, 2009『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社。</p> <p>崔盛旭, 2013『今井正—戦時と戦後のあいだ』クレイン。</p> <p>北田暁大・神野真吾・竹田恵子(社会の芸術フォーラム運営委員会)編, 2016『社会の芸術/芸術という社会——社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社。</p> <p>塩原良和, 2012『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』弘文堂。</p> <p>安田浩一, 2012『ネットと愛国——「在特会」の闇を追いかけて』講談社。</p> <p>師岡康子, 2013『ヘイトスピーチとは何か』岩波新書。</p> <p>野間易通, 2013『「在日特権」の虚構——ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』河出書房新社。</p> <p>望月優大, 2019『ふたつの日本——「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書。</p>							
評価方法	ワークシートと課題(必須)60%+出席とリアクションペーパーなど平常点40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本語 I					大友りお、晏 妮(アンニ)、守内 映子、山口 紀子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～ ～2017	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	演習	2	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	100%の出席率をすること。欠席の場合は事前に教員に連絡し、後日サポートデスクで授業内容の説明を受けること。日本語を母語としない者。履修を指定された学生は必ず履修すること。							
授業概要	この授業は、週2日(水曜3・4限、土曜1・2限)、計4時限である。少人数、ワークショップ型の授業。4名の教員が4技能に分かれて指導し、学生は1時限1技能を習得するかたちで、週に4時限の授業を受け、それを7週くり返す。これによって、学生は自分の弱点を知り、それを克服するためには、これからの大学生活で何をしなければならないかを自分で発見することができる。また、自分ひとりで日本語を学ぶのではなく、他の人と助け合いながら学ぶことを体験する。教員は、そのために必要な行動と言葉を学生が獲得できるよう指導する。							
到達目標	協働で作品を制作するために必要なコミュニケーションの技術を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業オリエンテーション (受講ルールとマナー、4教室移動の順番と曜日、欠席後の指導、サポートデスクの説明)						
	2	各回の内容  【読む】 担当:守内映子 ショートストーリーを読み、漢字の読みかた、物語の内容についてディスカッションし、それについてグループ発表をする。また、個別面談を行い、今後の日本語学習計画を立てる。使用教材は、星新一作品など。						
	3							
	4	読む、話す、聞く、書く	【話す】 担当:大友りお 相手が話せる環境を作る会話技術、言葉づかい、視線、うなづきなどについて練習する。短い会話文を暗記して、3人ひと組で一場面を演じるパフォーマンスをし、他のグループの演技についても意見を言う。発音の問題点を見つけて直す。カタカナ語の語彙を広げる。					
	5	6						
	6	7	〈第2回〉	【聞く】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	7	8						
	8	9	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	9	10						
	10	11	〈第3回〉	【読む】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	11	12						
	12	13	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	13	14						
	14	15	〈第4回〉	【聞く】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	15	16						
	16	17	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	17	18						
	18	19	〈第5回〉	【聞く】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	19	20						
	20	21	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	21	22						
	22	23	〈第6回〉	【聞く】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	23	24						
	24	25	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	25	26						
	26	27	〈第7回〉	【聞く】 担当:晏 妮(アンニ) 毎週異なる聴解CDを聞いて、そこで語られた話題について考える。ワークシートをもとに質問に答え、グループで話し合い、発表をする。文化、歴史などの背景について、教員が解説する。				
	27	28						
	28	29	読む、話す、聞く、書く	【書く】 担当:山口紀子 Eメールの形式や、書き言葉を用いた授業レポートの作成、論説文の構成などを学ぶ。大学生活に必要な様々な形式の文が書けるようになることを目標とし、コンピュータで文を書く練習をする。				
	29	30						
30	授業内試験とふりかえり							
授業外学習	書く(2時間)・読む(2時間)							
教科書	教室内配布プリント							
主要参考書	平野共余子 著 『日本の映画史:10のテーマ』 2014年くろしお出版 1,400円+税							
評価方法	授業内評価(課題70%+授業参加30%)+筆記試験(100%)+出席点(100%)の平均点							
教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
英語 I		学谷 亮						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	英検2級程度の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト(10分)を受けて合格点以上であること。							
授業概要	この授業では英文法の基本を理解し、平易な英文が抵抗なく読めるようになることを目標とする。映画に登場する食べ物や食文化を扱ったテキストを使用し、英文の読解と英文法の復習を毎回行っていく。それによって単語と文法の知識を増強し、高校までに身につけた英語力のさらなる強化を目指す。毎週の小テストと授業内で行う最終テストで成績を評価する。							
到達目標	学生は英語を「教えてもらう」のではなく、「自分で学ぶ」視点と態度を獲得し、今後の自己学習を可能にする方法を探る。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価方法の説明、基礎力の確認)						
	2	Chapter 1(『クレイマー・クレイマー』の読解と時制の演習)						
	3	Chapter 2(『ブラダを着た悪魔』の読解と比較の演習)						
	4	Chapter 3(『スーパーサイズ・ミー』の読解と動名詞の演習)						
	5	Chapter 4(『かもめ食堂』の読解と分詞の演習)						
	6	Chapter 5(『初恋のきた道』の読解と代名詞の演習)						
	7	Chapter 6(『ノッティングヒルの恋人』の読解と仮定法の演習)						
	8	Chapter 7(『幸せのレシピ』の読解と接続詞の演習)						
	9	Chapter 8(『Dearフランク』の読解と不定詞の演習)						
	10	Chapter 9(『シービスケット』の読解と受動態の演習)						
	11	Chapter 10(『チャーリーとチョコレート工場』の読解と疑問詞の演習)						
	12	Chapter 11(『みんな元気』の読解と前置詞の演習)						
	13	Chapter 12(『西の魔女が死んだ』の読解と使役動詞・知覚動詞の演習)						
	14	Chapter 13(『桃さんのしあわせ』の読解と助動詞の演習)						
15	まとめ、授業内最終テスト							
授業外学習	次週に読解する英文を読み、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を解いておく(予習は2時間以上必要)。授業で学んだ単語と文法を復習し、小テストに備える。なお、授業には英和辞典もしくは英英辞典を必ず持参のこと。							
教科書	『映画で味わう食文化』朝日出版社、2015年 (ISBN978-4-255-15559-3)							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(30%) 授業内最終テスト(70%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
中国語					劉 書明			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
2018	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	中国語学習初心者(中国人留学生は履修不可)。							
授業概要	本講座は、初めて中国語に接する初心者を対象に、中国語の基礎知識を教えると同時に、今後、中国人と交流をはかる際に参考にできることを目的とする。発音、文法、文型、文字(略字)を始め、基本会話を中心に行う。							
到達目標	受講者が本講座を通して、中国語の基本知識、中国語とは、中国語の発音とは、中国語の文法とはについて勉強し、今後独学が出来る技術を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業内容、進行方法等の概説						
	2	第1回 発音①						
	3	第2回 第1課 御名前は？						
	4	第3回 練習、復習						
	5	第4回 第2課 これは何ですか？						
	6	第5回 練習、復習						
	7	第6回 第3課 どこへ行きますか？						
	8	第7回 練習、復習						
	9	第8回 第4課 これはいくらですか？						
	10	第9回 練習、復習						
	11	第10回 第5課 ご飯食べましたか？						
	12	第11回 練習、復習						
	13	第12回 第6課 夕方に時間がありますか？						
	14	第13回 総合復習						
15	小テスト							
授業外学習	—							
教科書	「中国語はじめの一步」白水社(2200円)							
主要参考書	日中辞典、中日辞典 小学館							
評価方法	出席30%、平常点30%、定期試験30%、その他10%							
教員への連絡方法	授業内で知らせる。							

科目名					担当者名			
文章作法					大友りお、熊岡 路矢			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	3	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	大学レポートの基礎力を身につけたい人、またはスキルアップしたい人。留学生の場合はN1取得者のみ履修可。							
授業概要	<p>大学で書くレポートの文体は高校までの作文とは大きく異なるため、初めは違和感も持つ人が多い。自分自身の言葉だと思えないからだろう。しかし、その特殊で非日常的に見える文章の作法を学び、いったんそれを自在に使えるようになった学生は、そこですでに、甘えを捨てて、独立した思想の持ち主として社会に出て行く準備ができています。この授業は、表現力を競うのではなく、冷静な思考と判断で、読む人に親切的なメッセージを作成するスキル・トレーニングの道場である。全員がレポート・ライティングの黒帯になることを目指して授業を進める。</p>							
到達目標	客観的で明確な文体の作法を体得し、その技法を基礎に、さらに広いジャンルの文章へ向かっていく力がつくことを目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講義:感想文とレポートの違いを見つける						
	2	400字レポートチャレンジ課題「監視社会に生きる」→要点をまとめる						
	3	講義:「わかりやすい文」は「知的な文」である						
	4	400字レポートチャレンジ課題「プラスチックとどうつき合うか」→要点をまとめる						
	5	講義:アウトラインを作る						
	6	800字レポートチャレンジ課題「人間化するロボット、ロボット化する人間」→要点をまとめる→自分の質問を発見する						
	7	講義:パラグラフで考える						
	8	800字レポートチャレンジ課題「AI時代に生き残る職業と消える職業」→要点をまとめる→自分の質問を発見する						
	9	講義:序論と結論の書き方						
	10	1200字レポートチャレンジ課題「多様化する社会とシングルペアレント」→要点をまとめる→自分の質問を発見する→答えを提示する						
	11	講義:引用と剽窃の微妙な分かれ目						
	12	1200字レポートチャレンジ課題「日本社会における“勝ち組”と“負け組”」→要点をまとめる→自分の質問を発見する→答えを提示する						
	13	講義:テーマを選んで自分の主張を決める						
	14	2000字期末レポートの自分の課題を選ぶためのディスカッション						
15	講義:就職で役立つ論文調の作法							
授業外学習	毎週3時間							
教科書	配付テキストを使用する。							
主要参考書	『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』渡邊淳子 著 研究社 2015年 (ISBN-13: 978-4327384708) 『12歳からの現代思想』岡本裕一朗 著 ちくま新書 2009年 (ISBN978-4-480-06508-7)							
評価方法	授業内提出課題(60%) 期末レポート(40%) 出席が2/3に満たない者は期末レポートの提出不可。							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
国際合同制作<日韓合同映画制作>					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養<コミュニケーション科目群/映画>	選択	演習	4	1・2	通年	F(その他)	新百合
～2017	教養<B群>	選択	演習	4	3・4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	日本映画大学の学生と韓国国立芸術総合学校の学生が交互に監督を出し、共同で短編作品を制作する。撮影は日本と韓国で交互に行われる。日本で撮影する脚本は韓国側が選んだものから日本側が決定する。監督は韓国、撮影技師、録音技師、主要スタッフは日本、仕上げは韓国で行う。主演俳優は韓国。翌年はそれが逆になる。この授業は日本で撮影する場合のもので、準備と現場のみ、隔年開講となる。							
到達目標	学生時代に合作を経験する。異文化に触れ、映画制作がドメスティックなものでないことを体験する。							
授業計画	内 容							
	(1) 決定した脚本をもとにスタッフを編成し、ロケハン、キャスティング、諸準備を行う。 (2) 韓国チーム来日。顔合わせ。脚本打ち合わせ。オーディション等。 (3) 韓国チームが帰国している間、諸準備を進める。 (4) 韓国チーム再来日(クランクアップまで)。ロケハン、キャスティング等最終決定。 (5) クランクイン～クランクアップ。							
授業外学習	韓国文化に触れておくこと。韓国映画を見ておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
日本語Ⅱ					守内 映子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	日本語を母語としない者。							
授業概要	本授業は、大学でレポートや論文を書くために必要な基礎力をつけるために、日本語力を段階的にスキルアップすることが目的である。すでに何度もレポートを提出したことがあるだろうが、今一度、何をどのように書けば良いのか、どのように考え、どのような表現を使えば良いのかの説明を聞き、実践的な練習を行うことで学び直していく。そして、書くために必要な発想力・読解力・要約力・批判的思考力・表現力を鍛えるというものである。							
到達目標	1)レポートや論文における日本語表現の特徴を理解し、大学レポートを書く上での基礎力と実践力が身につく。 2)さまざまな文章を読み取って、簡潔にまとめることができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	レポートや論文の基本ルールを知る						
	2	文章例の間違い探し①						
	3	レポートの種類を知る						
	4	文章例の間違い探し②						
	5	要約のしくみを知る						
	6	要約文を書く①						
	7	論理的な表現を知る						
	8	要約文を書く②						
	9	レポートに必要な考え方を知る						
	10	テーマ探しとディスカッション						
	11	アウトラインの作成と資料収集の方法を知る						
	12	初稿の執筆とピアラーニング						
	13	レポート評価のチェックポイントを知る						
	14	最終稿の仕上げ						
15	まとめと振り返り授業							
授業外学習	書く(2、3時間)							
教科書	レポート・論文を書くための日本語文法(2016年発行、くろしお出版)							
主要参考書	日本の映画史-10のテーマ(2014年発行、くろしお出版)							
評価方法	授業参加態度(70%)、レポート評価(30%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
英語Ⅱ		大友 りお						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	英検2級程度の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト(10分)を受けて合格点以上であること。							
授業概要	単語の意味を記憶するだけでは文を作ることはできない。この授業では、文の成り立ちをパターン化したテキストを使用して、短い文を暗唱し、それぞれの構成が自然に言葉になって出てくるようにトレーニングを繰り返す。伝わる発音と抑揚に焦点を当てて個別に改善する。ネイティブ話者のように話せることがゴールではなく、相手が聞き取れるように話すことを目標とし、自分の英語を発見させる。今後、自身の持つ目標(短期留学や仕事のための英語力)に近づくための自主トレの習慣が身につくよう指導する。							
到達目標	知っている英単語を会話の中で使いこなせるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	Section 1-5 一般動詞とBe動詞、現在形のバリエーション						
	2	Section 6-10 There, It, Have, の使い方、						
	3	Section 11-15 現在進行形、過去形						
	4	Section 16-20 今決めた未来と既に決めていた未来、助動詞						
	5	Section 21-25 便利な助動詞、丁寧な助動詞、疑問詞、What、Which、Why						
	6	Section 26-30 疑問詞 When、Where、How、提案 Let's、受動態、Getの使い方						
	7	Section 31-36 名詞のいろいろ、代名詞のいろいろ、Many、Much、Some、Any						
	8	Section 37-40 多い、少ない、あまりない、NoとNone、EveryとEach						
	9	Section 41-46 前置詞 時間、空間 On、In、At、For、During、While、By						
	10	Section 47-50 前置詞 手段、動き、締め切り						
	11	Section 51-55 形容詞 ing、ed、比較級、「させる」使役表現						
	12	その他の特殊な時制表現練習						
	13	グループ発表 (ショート・スクリプトを演じる)						
	14	グループ発表 (ショート・スクリプトを演じる)						
15	まとめ、授業内最終テスト							
授業外学習	宿題(毎週1時間)暗唱トレーニング(毎日30分)							
教科書	『毎日の英文法:頭の中に英語のパターンをつくる』James M. Vardaman 朝日新聞出版 (ISBN978-4-02-331099-5)							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(60%) 授業内最終テスト(40%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
韓国語					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくにないが、基本的には完全な初心者対象(韓国人留学生をはじめネイティブスピーカーは履修不可)。							
授業概要	完全な初心者を対象に、ハングル(文字)の読み方から始め、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができるレベルを目指す。また折に触れて朝鮮半島の歴史、社会、文化などについても紹介することで、学生たちの視野を広げることに寄与したい。語学なので毎回の出席に加えて地道な予習復習なしには身につかない。単位のためにと安易に履修しないよう注意してほしい。							
到達目標	ハングルを読めること、自分の名前が書けること、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	1課 基本母音字母と合成母音字母(1)						
	2	2課 基本子音字母						
	3	3課 合成母音字母						
	4	4課 パッチム(終声)						
	5	ここまでのまとめと復習						
	6	5課 私は～です						
	7	6課 時間ありますか？						
	8	7課 それは何ですか？						
	9	8課 日曜日に何をしますか？						
	10	9課 何が好きですか？						
	11	10課 週末に何をしましたか？						
	12	11課 明日は何をするつもりですか？						
	13	12課 スープが冷たくて美味しいです。						
	14	13課 一度遊びに来てください						
15	最終試験							
授業外学習	原則として毎回課す予定の小テストのためにも授業後の復習を欠かさないように。教科書付属のCDも活用を。日常的に韓国語への関心を持ち意識を高めることも重要。							
教科書	『最新 チャレンジ！韓国語』金順玉・阪東千津子(白水社、2014年、2,300円+税) *今年度より変更。必ず初回までに購入し、持参して出席すること。							
主要参考書	—							
評価方法	最終試験70%+基本的に毎回課す予定の小テストと意欲・参加度などの平常点30%。筆記で行う最終試験を受けない場合は評価の対象外。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
キャリア・サポートⅡ					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3	後期	C3(2×7+1)	白山
～2017	教養(E群)	選択	講義	2	3	後期	C3(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	専門コースに進んだ学生自身のキャリアサポートを具体的にを行う講義。映像業界のみならず社会人として働くことの意義をゲスト講師のトークを中心に見出させる。現在の就職事情等も講義。(2018年度以降入学生は科目名が「キャリア・サポート」となる。)							
到達目標	自らの進路を具体的に決定する							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	Ⅱ-1 授業オリエン 映像業界の現状と展望。フリーランスと就職について						
	2	Ⅱ-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	3	Ⅱ-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	4	Ⅱ-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	5	Ⅱ-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	6	Ⅱ-4 ゲスト講師 映画技術パート(録音・編集)の先輩。映画制作現場からの声						
	7	Ⅱ-4 ゲスト講師 映画技術パート(録音・編集)の先輩。映画制作現場からの声						
	8	Ⅱ-5 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	9	Ⅱ-5 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	10	Ⅱ-6 映画の出口に関わる。 ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	11	Ⅱ-6 映画の出口に関わる。 ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	12	Ⅱ-7 ドキュメンタリーを仕事にする。 ゲスト講師 ドキュメンタリーディレクター(ジャーナリストを含め映像で現実と向かい合うということ)						
	13	Ⅱ-7 ドキュメンタリーを仕事にする。 ゲスト講師 ドキュメンタリーディレクター(ジャーナリストを含め映像で現実と向かい合うということ)						
	14	Ⅱ-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
15	Ⅱ-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義							
授業外学習	映画およびマスコミ等のスタッフ編成を、就職本等を読んで理解しておく。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席状況(80%)とレポート(20%)							
教員への連絡方法	授業内もしくはキャリアサポートセンターを通じて連絡							

科目名					担当者名			
こども映画教育演習					熊澤 誓人、中山 周治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画)	選択	演習(コラボ)	4	3・4	後期	E(夏期集中)	白山・外部
～2017	専門	選択	演習(コラボ)	4	3・4	後期	E(夏期集中)	白山・外部
履修条件	映像教育の理論と実践を学ぶものです。コース問わず履修できます。							
授業概要	<p>麻生区役所地域まもり支援センターと共催の小学生対象映画制作ワークショップ『こども映画大学』とのコラボレーション。この授業を履修した大学生がワークショップに参加した小学生たちに映画作り(シナリオ作りから撮影・編集・発表会進行まで)を指導しながらともに作品を作り上げ上映する。</p> <p>&lt;はじめの4日間&gt; 学校、地域、その他のコミュニティで実践された、映画の力を活かした国内外の事例を紹介し、映画と教育についてより深く考えることができるように、作品視聴、ディスカッション、発表などの活動を行う。</p> <p>&lt;その後の7日間&gt;ワークショップの実践。『こども映画大学』を円滑・安全に行えるよう準備し、実行する。映画としての表現方法、発想の過程、その面白さ、チームワーク、課題を体験し、学び合う。</p>							
到達目標	<p>映画のもつ力を教育現場で活かす発想、方法論を身に付けること。また映画を通じた活動によって社会をより豊かにするための方法論を身に付けること。小学生に映画を教えることで今まで得た知識・技術を確認することができる。自分と違う価値観とは何かを考える機会になる。川崎市麻生区の取り組みに参加することで自分の故郷や住んでいる町に置き換え、町と人の関係、町と教育の関係を見つめなおすことができる。</p>							
授業計画	日数	内容						
	1	<p>映画体験とは何か (1)『シネレテラシー～映画をつくる子供たち』視聴 オーストラリアの事例研究 (2)『子どもたちの100の言葉』視聴 イタリア、レジオエミリアの幼児教育            映画を観るとはどんなことか (1)初めての映画体験(アマゾン川流域、明治時代の日本など) (2)無文字社会、口承の文化の人々の思考様式 (3)幼児の映像体験 (4)グループ演習</p>						
	2	<p>映画を作るとはどんなことか (1)子どもたちの作品研究(小学中学高等学校、就学支援施設、盲学校など) (2)社会教育の現場から(デジタルストーリーテリング、難民キャンプなど) (3)グループづくりを考える演習</p>						
	3	<p>市民教育としての映画について考える (1)『100人の子供たちが列車の到着を待っている』視聴 チリの事例研究 (2)スペインの読書教育『読書へのアニメーション75の作戦』研究 「映画へのアニメーション」ワークショップデザイン            映画の読み解きとは何か (1)『岸辺のふたり』視聴 模擬授業体験 (2)『岸辺のふたり』の授業案発表</p>						
	4	<p>地域運動としての映画とは何か (1)『こころの山脈』視聴 福島県本宮市の事例研究 (2)川崎市の事例研究            表現教育とは何か (1)『山びこ学校』生活綴り方(作文教育)の研究 (2)「ちいさなひとのえいががっこう」こども映画プラスのNPO活動研究 (3)表現活動演習            昨年の『こども映画大学』作品鑑賞・メイキング映像を含めた報告            『こども映画大学』の進め方(主題・役割・安全管理・運営方法などの話)・スタッフ及び担当編成</p>						
	5	<p>麻生区地域まもり支援センターの取り組み            『こども映画大学』ワークショップ準備①(スタッフ打ち合わせ・会場づくり)            ワークショップの為に機材取扱い講座(カメラ・録音・編集)            ワークショップリハーサル①</p>						
	6	<p>『こども映画大学』ワークショップ準備②(スタッフ打ち合わせ・会場飾りつけなど)            ワークショップリハーサル②            ワークショップの為に機材取扱い講座(カメラ・録音・編集)</p>						
	7	<p>『こども映画大学』ワークショップ①            映画の仕組み説明(映画とは? スタッフの仕事) シナリオ作り            機材の取扱説明(小学生にカメラや録音機材の使い方を教える) シナリオを基にした班決め・配役やスタッフ決め            ワークショップ終了後大学生はシナリオをもとに打ち合わせ・小道具など買い出し・撮影準備</p>						
	8	<p>『こども映画大学』ワークショップ②            ロケハン・本読み・リハーサル・撮影            ワークショップ終了後、大学生は撮った素材を編集機に取り込み、編集準備。</p>						
	9	<p>『こども映画大学』ワークショップ③            編集・発表会進行表作り・役割決め            ワークショップ終了後、大学生は上映会準備</p>						
	10	<p>『こども映画大学』ワークショップ④            発表会@イオンシネマ新百合ヶ丘(予定)            ワークショップ終了後、大学生はあとかたづけ</p>						
11	<p>ワークショップを振り返って(スタッフ報告会・意見交換・来年度へ向けて)</p>							
授業外学習	映画制作実習及び講義での体験・知識・理解を深めておく							
教科書	教科書・参考書は使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	『映像教育の実践的研究～シネレテラシー教育の可能性を探る』(千葉茂樹・中山周治編、日本映画大学、2014年)							
評価方法	出席と受講態度を総合的に評価する。ただし『こども映画大学』ワークショップ(5日目以降)のみの参加は不可とする。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
インターンシップ					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	実習	2	3・4	通年	F(その他)	白山・外部
～2017	教養(E群)	選択	実習	2	3・4	通年	F(その他)	白山・外部
履修条件	<p>インターンシップへの参加を希望する学生は全員履修登録すること。履修登録した学生のうち、原則として以下の要件を満たした者がインターンシップ参加資格者となる。①通算GPA が2.0 以上。②必修・選択必修科目が再履修対象となっていない。③コース担当教員の推薦を受けている。 履修登録しても実習先が決まらない場合は履修が取り消されるので、特に4年生は注意すること。</p>							
授業概要	<p>「インターンシップ」は、実働10日間～20日間程度に相当する実習である。 映画制作の現場や映画祭はもちろんのこと、映像をコミュニケーションのインフラの中心に置いた教育や地域行政、地域コミュニティ、商業施設などさまざまな現場で、これまで学んだ理論や知識、技術を応用することで総合的な映画実践能力を養う。また、社会の一員としてのマナーや責任感を身につけ、自己啓発の機会を得ることを目的とする。 ①学内でのガイダンスへの参加、②キャリアサポートセンターへの「エントリーシート」の提出、③実習先でのインターンシップ、④インターンシップ終了後の「インターンシップ実施報告書」の提出が必須となる。</p>							
到達目標	<p>これまで学んだ理論や知識、技術を実践の中で深め、卒業後の進路についての具体的な知識を得ることができる。社会人としてのマナーと態度を身につけることができる。</p>							
授業計画	内 容							
	<p>以下のような流れで各自が進める。 詳しい手続きや提出書類については、ガイダンスで配布する「日本映画大学インターンシップの手引き」を参照すること。</p> <p>【1】 6/6(木)4限のガイダンスに参加する(必須)。「インターンシップの手引き」配布。</p> <p>【2】 実習先を探す(大学が実習先を紹介するケースと、自ら実習先を探し、大学に公認してもらうケースがある。)</p> <p>【3】 希望する実習先が決まったら、「エントリーシート」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。</p> <p>【4】 学内での面談や選考、実習先とのマッチングを経て実習先が決定する。</p> <p>【5】 インターンシップ実習。</p> <p>【6】 実習終了後、「インターンシップ実施報告書」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。</p>							
授業外学習	—							
教科書	使用しない							
主要参考書	使用しない							
評価方法	<p>①意欲と参加態度(ガイダンスへの出席と「エントリーシート」・「インターンシップ実施報告書」の内容) ②実習先からの評価(「インターンシップ評価表」の内容) ①と②から総合的に評価する。</p>							
教員への連絡方法	インターンシップの手続きについての詳細は、キャリアサポートセンターに問い合わせること。							

科目名					担当者名			
日本文化論Ⅱ〈言霊(ことだま)の思想と信仰〉					高橋 世織			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	前期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	生涯、東北岩手の花巻を生活拠点とした宮沢賢治(1896-1933)の一切の身体表現(言語表現はこのなかの一部でしかない)には、言霊信仰や思想が顕著にうかがわれる。言霊とは何か、あまり読まれていない遺された作品群(詩、童話)を手掛かりに考えていく。併せて、詩歌という韻文特有の魅力や真髓・真価は、散文では表わせないものがあるのです。どこにあるのかを具体的に口述していく(賢治は詩歌とは言わず「心象スケッチ」行為と命名)。賢治の後続の寺山修司も扱いたい。もののあわれ、無常観、侘び寂び、かろみ、等の古典文学の基礎教養、キーコンセプトに関しても毎回教授していきます。1500年間の我が国の言葉の歴史旅に出よう。							
到達目標	文学史の枠組みや記述に到底収まらない、異物としての賢治を中心化してみることで、日本の辿った近代化の歪みや、日本近代史の歴史記述の偏頗な異常性が逆照されるだろう。縄文土器を美術史枠でもって初めて捉えた戦後間もない岡本太郎の再再評価、天明年間の東北飢饉の実態調査をし、三内丸山遺跡の存在も見事に予言していた江戸時代の民俗学者・菅江真澄の東北観の再検証にもなる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	東北って何処から見て、東北(木戸孝允が云い始め)なのか? 西行も芭蕉も「白河の関越えて」東北に歌枕を取りに出かけたのは、何故? 岩手は四国の面積。厳しいが豊かな自然。 言霊①＝言葉は土地に根差している。						
	2	江戸っ子である夏目漱石の蔵書・遺品一切が、国宝級の和漢の大コレクションを誇る東北帝大の附属図書館に今なお保管されているのは何故? 北海道に戸籍があるのは、何故?						
	3	明治の三陸大津波と陸羽大地震の年(1896)に産声を上げ、昭和の三陸大津波の年(1933)に37歳で逝った賢治と「大津波37年周期学説」(本学にも夏の集中講義に毎年登壇されている東北大学附属 国際災害科学研究所所長・今村文彦教授)の古文書史料の解説。 言霊②＝言葉は死者も呼び覚まし呼び起こす。						
	4	地質学者でサイエンス・リテラシー備えた宮澤賢治の造山運動の知見と、ユニークな風景観						
	5	『春と修羅』(1924)の「序」と詩「高原」の読解の試み						
	6	「ざしき童子にはなし」と柳田國男『遠野物語』(1910) —— 死者と不在の民俗学						
	7	「河童」のイメージ —— 石田英一郎『河童駒引き考』を読む						
	8	柳田國男(やなきた・くにお)の民俗学と折口信夫(おりぐち・しのぶ)の民俗学 —— 主人公の定義「流され王」と「貴種流離譚」はどのように異なるのか?						
	9	ユーリー・ロトマンの主人公の定義、坪内逍遙『小説神髓』における主人公の定義(男本尊、女本尊)						
	10	諸家の主人公の定義から、『どんぐりと山猫』の主人公を探ってみるエクササイズ。						
	11	動物が出て来ない童話や物語は一つもない賢治テキスト。今村昌平映画『うなぎ』と吉村昭の動物小説集『海馬(トド)』(新潮文庫)から考える。						
	12	空腹文学としての賢治童話——「注文の多い料理店」「蜘蛛となめくじと狸」(1918)再読						
	13	ケガチ(飢饉)の風土思想——食う/食われるの、食物連鎖(フードチェーン)の生態系思想 言霊③＝言語の呪術性、声の力。オノマトペ、脱意味化。「サガレンと八月」と賢治の特異な言語観						
	14	『万葉集』巻頭の天皇の和歌に詠まれた言霊思想と、最初の勅撰集である『古今和歌集』(905)の序文(仮名序、紀貫之か?)に明記された言霊思想は、100年後の『源氏物語』等に深く影響を及ぼしていく。						
15	言霊思想(信仰)と現代社会を考える一元号と諡(おくりな)。寺山修司の脱領域性、『田園に死す』を観る。							
授業外学習	賢治の作品を何でも構いません、読んでおいてください。黙読でなく、なるべく声に出して。							
教科書	教場で適宜、コピーを配布します。							
主要参考書	高橋世織『感覚のモダン』(せりか書房)、黒田四郎『東北見聞録』(八潮社)、天沢退二郎編『宮沢賢治万華鏡』(新潮文庫)、菅江真澄『遊覧記』第三卷(平凡社東洋文庫)、イサベラ・バード『日本奥地紀行』(平凡社東洋文庫)、ドナルド・キーン他『日本人と日本文化』(中公文庫)、岡本太郎+深沢七郎+宮本常一鼎談「残酷ということ」(『現代思想』臨増号、青土社2011・11。初出は『民話』18号、未來社1960・3)、伊藤比呂美『日本ノ霊異(フシギ)ナ話』(朝日文庫)その他は無数に及び切りがないので、その都度、書籍は紹介し、必須の参考資料だけはコピー配布します。							
評価方法	出席状況とリアクションペーパーの充実度(感想・意見・質問などがしっかり書けているか)を最優先にして成績評価を判定します。出席が芳しくない者には、課題レポート(2400字程度)を課します。							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
物語WS (ワークショップ)					大澤 信亮			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養 (A群)	選択	演習	2	3・4	前期	C3 (2×6+3)	白山
履修条件	特になし。 ※2020年度以降は開講しない。							
授業概要	この講義の目的は「物語を論理的に作れるようになること」である。物語を作るために必要なものは天性の才能ではない。むしろ反復的なトレーニングである。受講者はダイスやグレマス的行為者モデルを簡易化したモデルを使い、まずは破綻のない物語を、次いで魅力的なプロットを、さらには固有のモチーフを展開するための方法を講義と実習によって学ぶ。最終的な目標は自力でプロットを量産できるようになることである。講義のベースはグループワークになるので、受講者は欠席や遅刻のないよう気をつけて欲しい。							
到達目標	物語とキャラクターを論理的に構築する力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——ストーリーとは何か						
	2	主人公の造形——ダイス＝偶然の力によって生まれた者に責任を取る						
	3	グループ・ディスカッション——各班の創った主人公について意見交換を行う						
	4	敵対者の造形——主人公から論理的に逆算して創り出す						
	5	援助者の造形——主人公よりも成熟している、読者の視線を代行する者						
	6	グループ・ディスカッション——各班の創った敵対者と援助者について意見交換を行う						
	7	ストーリー創作——創出した主人公・敵対者・援助者を使って一問一答式で物語を作る						
	8	ログラインの設定——主人公は×××の状態△△△を求めているが最終的に□□□になる						
	9	主人公の内的欲求と外的欲求——基本構造としての欠損の回復						
	10	敵対者と援助者——邪魔する理由と援助する理由						
	11	世界観の設定——主人公の日常空間とそこからもっとも離れた場所の設定						
	12	物語の結末——主人公は最終的に何を失うのか						
	13	シノプシスを書く——企画書を書くための練習						
	14	ノベライズ——脚本を小説化するための練習						
15	総評——魅力的な物語のために							
授業外学習	グループに分かれての毎回の課題作成。							
教科書	特になし。							
主要参考書	大塚英志『ストーリーメーカー』(講談社)。							
評価方法	各回の課題 (20%×5回)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
批評論					大澤 信亮			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。 ※2020年度以降は開講しない。							
授業概要	本講義の目的は、創作にとって批評が不可欠であることを理解し、それを現実において実践するための批評理論の基礎を学ぶことである。創作とは意識的な行為である。その意識を自己吟味することは、一方で同時代の受け手の希求を読むことであり、他方で創作行為の普遍性のなかに自らを位置付けることでもある。この授業では、現代を代表する批評家の本を、毎回、グループで読む。受講者は班毎に、論旨の要約、語彙の確認、論点の提出などの役割を分担し、講義内で発表し、ディスカッションを行うことになる。							
到達目標	論旨の要約、語彙の確認、論点の提出などを通して、批評文を読む基礎的な力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——批評とは何か						
	2	日本の批評——小林秀雄、江藤淳、吉本隆明、柄谷行人						
	3	山城むつみ「小林批評のクリティカル・ポイント」の解説						
	4	小林秀雄のドストエフスキー論——主にその「禁止」と「反復」について						
	5	山城むつみ「戦争について」の解説						
	6	坂口安吾——「崇高と美」および戦争批判						
	7	山城むつみ「万葉集の「精神」について」の解説						
	8	保田與重郎——『万葉集の精神』における「詩」の問題						
	9	山城むつみ「文学のプログラム」の解説						
	10	ラカンの精神分析と日本語の言語分析						
	11	近本洋一「意味の在処——丹下健三と日本近代」						
	12	最近の文学賞受賞作から批評文の主題・構造・表現を考える						
	13	批評を書いてみるⅠ——文学・映画・サブカルチャーなどから対象を選ぶ						
	14	批評を書いてみるⅡ——受講者同士の対話によって問題意識を深める						
15	課題作品の発表と講評							
授業外学習	毎回の発表のための資料作成。							
教科書	山城むつみ『文学のプログラム』(講談社文芸文庫)							
主要参考書	特になし。							
評価方法	各回の課題の平均。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本伝統音楽概論〈日本伝統楽器の歴史と特徴〉					野川 美穂子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	特になし。強いていえば、音に対する興味を持っていること、偏見を持っていないことが条件。							
授業概要	<p>この授業では、さまざまな音色を奏でる日本の伝統楽器を軸に、日本の音楽を紹介する。映画の中で、どのように日本の楽器の音が使われているかについても取り上げる。</p> <p>「日本伝統音楽」というと、古臭くて面白くないもの、というイメージがあるかもしれない。雅楽、声明、平家、能楽、地歌、箏曲、尺八楽、長唄、義太夫節など、多くの種目に分かれていてわかりにくいこと、現代社会では身近に楽しむ機会が減っていることが、そうしたイメージの背景にある。しかし、日本伝統音楽は過去の遺物ではない。古典のみでなく新作も盛んに行われ、現代に生きる日本の文化の一つとして、その魅力を日々深めている。この授業では、新作も積極的にとりあげる。また、能、歌舞伎、文楽などを例に、演劇や舞踊などの視覚芸術と結びついた日本音楽の特徴についても考える。</p>							
到達目標	この授業の究極の到達目標は、日本人が育んできた音に対する繊細な感覚を見つめ直すことによって、日本の文化全般に対する興味を広げることである。まずは、その入り口として、音へのこだわりの産物と言える日本の伝統的な楽器の特徴と歴史を理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス、日本伝統音楽の特徴と種類						
	2	弦鳴楽器のいろいろ ①琵琶						
	3	弦鳴楽器のいろいろ ②箏と琴						
	4	弦鳴楽器のいろいろ ③三味線						
	5	弦鳴楽器のいろいろ ④胡弓						
	6	気鳴楽器のいろいろ ①雅楽の「吹き物」						
	7	気鳴楽器のいろいろ ②能管と篠笛						
	8	気鳴楽器のいろいろ ③尺八						
	9	膜鳴楽器のいろいろ ①能楽に使われる鼓類						
	10	膜鳴楽器のいろいろ ②歌舞伎に使われる鼓類 ③創作和太鼓						
	11	体鳴楽器のいろいろ ①仏教儀礼に使われる楽器						
	12	体鳴楽器のいろいろ ②民俗芸能に使われる楽器						
	13	楽器の製作方法						
	14	越境する伝統楽器						
15	日本の楽器や芸能に関連する映画から							
授業外学習	日本の楽器の豊かな表現や、そうした音を用いた作品(映画を含む)に対する関心を広げられるよう、授業時に紹介する視聴覚資料や演奏会情報を参考にしながら、授業外にも自らの耳を研ぎ澄ますことを期待します。							
教科書	毎時、プリントを配布して授業を進めます。参考書については、適宜、授業内で紹介します。							
主要参考書	—							
評価方法	受講態度40%、授業時のリアクションペーパー20%、期末課題レポート40%の割合で評価します。							
教員への連絡方法	必要に応じて、授業時に連絡先を伝えます。							

科目名					担当者名			
民俗学〈ビジュアル・フォークロア〉					姫田 蘭			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	—							
授業概要	講義は、映像を手段とした映像民俗学(海外からは「映像人類学」とも評される)である。アイヌの儀礼「イヨマンテ(熊送り)」や、「越後奥三面」など貴重な記録映像作品を上映・解説しながら、未来を担う学生と大いに対話が可能なかたちでレクチャーする。使用される映像資料は、1976年に創設された民族文化映像研究所が製作した映画フィルム作品を中心に昭和30年から日本各地を取材した映像である。なお、講義は本学開学時の特任教授であった故・姫田忠義(記録映像作家・民族文化映像研究所所長)の構想・理念に基づき、本講義の重要なキーワードである「基層文化」とは何かということを探求・解説していく。							
到達目標	日本各地に伝わる年中行事・習俗・儀礼・生活文化などを映像を通し、現在・未来のかたちを考える。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映像と民俗学 基層文化の探求(1)	映像民俗学へのいざない					
	2	映像と民俗学 基層文化の探求(2)	映像手段を用いて民俗を記録する					
	3	映像と民俗学 基層文化の探求(3)	基層文化とは					
	4	生命の糧を得るいとなみの基層(1)	アイヌ文化					
	5	生命の糧を得るいとなみの基層(2)	狩猟・採集行動1					
	6	生命の糧を得るいとなみの基層(3)	狩猟・採集行動2					
	7	生命の糧を得るいとなみの基層(4)	焼畑行動1					
	8	生命の糧を得るいとなみの基層(5)	焼畑行動2					
	9	生命の糧を得るいとなみの基層(6)	稲作行動					
	10	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(1)	東北地方の信仰儀礼					
	11	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(2)	奄美諸島の信仰儀礼					
	12	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(3)						
	13	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(1)	「越後奥三面 ～山に生かされた日々」					
	14	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(2)	「越後奥三面 ～山に生かされた日々」					
15	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(3)	基層文化の探求総括						
授業外学習	本講座は、映像を通して民俗学とは何か、そして基層文化とは何かを考えていく。一般的にドキュメンタリー作品と言われるものであるが、主にNHKなどで放送される番組などを事前に観て、本講座で使用される作品との違いを考えておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	「忘れられた日本の文化 ～撮り続けて30年」 姫田忠義 著 岩波ブックレット193 岩波書店 JAN 9784000031332							
評価方法	毎回提出するリアクションペーパーを40%、全講義終了時に発表するレポートを60%として評価。							
教員への連絡方法	個別の質問などは、初回授業で連絡先を伝えます。							

科目名					担当者名			
現代思想					大澤 信亮			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。 ※2020年度以降は開講しない。							
授業概要	本講義の目的は、芸術と社会の結びつきを広範かつ批評的に考えることで、鋭い問題意識を持った創作者を育てることである。創作者に必要なことは、現代社会において何が問うに値する問題であるのかを理解し、その問題意識をもって「現在」から脱出する知性である。この講義では各界の一線で活躍する思想家・活動家をゲストに招く(シラバスは昨年为例)。受講者は、ゲストの著作ならびにその前提となる思想を理解し、かつ実際の人柄や思考に触れることで、同時代に生きている人のなかで、考えることや動くことで人間や社会に影響を与えることの意味を考えることができる。また、宿題として課題映画を事前に観ておくことを求める場合がある。(以下の授業計画は変更する場合がある。その場合は後期履修登録までに確定シラバスを掲示する。)							
到達目標	現代における様々な問題を、思想・哲学的に理解し、議論できる力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	濱口竜介『PASSION』から現代劇映画について考える						
	2	劇映画における「演出」の問題						
	3	チョウ・ウクフィ『赦し——その遥かなる道』						
	4	殺人と死刑から「赦すこと」について考える						
	5	ゲスト講義(小説家・滝口悠生氏)						
	6	山田洋次『男はつらいよ』における役名と役者と本名と小説の語り手の問題						
	7	新房昭之『魔法少女まどか☆マギカ』から現在のアニメーションについて考える						
	8	現代日本アニメーションにおける「神」の位置						
	9	卒業制作作品の検討1 演出・脚本コース						
	10	各作品の構造、主題、方法などを議論し、「劇映画」とは何かを考える						
	11	卒業制作作品の検討2 ドキュメンタリーコース						
	12	各作品の構造、主題、方法などを議論し、「ドキュメンタリー」とは何かを考える						
	13	西洋現代思想——実存主義、構造主義、ポスト構造主義、カルチュラル・スタディーズ						
	14	日本現代思想——批評、サブカルチャー、戦後						
15	総評——現代思想をいかに使うか							
授業外学習	テキストとなる本の読解と整理。							
教科書	ゲストの著書(第一回の講義ないし講義前に掲示板で指示する)。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	各回のリアクションペーパーの平均。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画文化特殊講義(環境・災害・技術)					高橋 世織、今村 文彦、澁澤 壽一、桜井進			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(D群)	選択	講義(オムニバス)	2	3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	映画人たんとする者にとって必須の教養科目であり、これまでの理科や数学を苦手と敬遠していた人にこそ、お奨め、受講してもらいたい。食わず嫌いだったことが分かります。 【読替科目】映画文化特殊講義Ⅱ(2017年度)							
授業概要	環境問題や災害のメカニズムを、測る事の技術(知的本質)を、その分野の第一人者の講師陣によってわかりやすく、興味深いレクチャーをして頂きます。 映画は、背景の風景や景観(これらが主役になる作品もあります)はもとより、生活空間の環境を丸ごと刻々と映し撮っています。地球や宇宙、景色も街並みも気象・天象、暮らしぶり、食風景、小道具、衣裳のディテールも、つまり人間社会と自然とが交差し接点を持つ《環境》圏を丸ごと収録し、映し込んでしまうメディアなのです。地球史では、とうとう「人新世」のステージに達しました。 サステイナブル(持続可能)な社会とは一体どういうことなのかを学び考えます。ヒントは、先人たちの自然と共生してきた叡智を紐解くことで見えてきます。諸君が今まで抱えてきた常識や認識が一変する授業メニューです。3.11以降、文系/理系といった20世紀的な二項対立的な枠組みでは、もはやこれからの難問には、立ち行かないことが受講後に納得されると思います。授業担当の日程・ローテーション決定は7月末に揭示します。							
到達目標	19世紀末に誕生した映画術は当時、最先端の科学テクノロジー、ハイブリッドな魔法の玉手箱でした(電気・光学物理学+化学(フィルム)+生物・地学=博物学)。自然科学・社会科学・人文科学の3領域が一丸となって総力を結集し智慧を絞り合わないで21世紀の諸問題は解決出来ません。その意味からも、映画・映像が担い果たしていく社会的な役割は計り知れないでしょう。都市生活に潜むリスクや新たな環境問題に対して、環境意識、リスク感覚を研ぎ澄まし、AIなどと共に生活するという経験したことのない自然(地球システム)と向き合ってゆくときに、「安全」「便利」「資源」といった映画の主題でもあるテーマへの関心や知見を更に深めていきたい。【記憶と記録】。映画メディアには、この双方の特性と能力が初発時から備わっています。このことも深く自覚するはずで。							
授業計画	回数	内 容						
	1	イントロ今村講師(津波学への道) 自然=地球システム 国際語となったBOUSAI(防災)						
	2	我が国の災害の特徴と対策(防災・減災・免災)と防潮林など自然力を活かした防災・減災 ——岩手県田老町防潮堤のケース他から考える						
	3	災害発生のしくみとメカニズム(スマトラ沖地震、東日本大震災)						
	4	可視化の方法——災害を観る、絵図、写真、動画、シナリオ・スクリプトの作成						
	5	リスク認知の方法——ハザードマップ作成、街歩き、防災アプリ活用、「黒い津波」の真相						
	6	過去の災害記録とハザード・災害情報の収集(記憶と記録)、防災文化(神社仏閣や祭り、年中行事)						
	7	イントロ桜井講師(数と数字の違い、算数と数学の違いを知っている人はほとんどいない) 雪月花の美学と数学——黄金比と白銀比からみる西洋と東洋の比較、日本が数学大国になった江戸時代						
	8	数学の進歩と航海術の歴史 —— 星と共にある在る数学、星を測る⇒三角比⇒対数の発見⇒微積分⇒関数概念						
	9	円周率「 $\pi$ 」から読む —— 数学の持つ神秘と永遠、究極の芸術としての数学の美しさと完璧さ						
	10	イントロ澁澤講師(私の環境問題事業の来歴——ハウステンボス、エビ天井、「森の聞き書き」から考える地球経済の思想と実践)						
	11	地球レベルでの環境問題(50年で何がどう変わったのか?)						
	12	日本の森にみる持続可能な社会(①暮らしの変遷 ②仕事と稼ぎの違い)						
	13	各地の祭りにみる伝えて来たもの、伝えゆくもの—映像記録から考える						
	14	祈り、祭りの精神性と民俗学—映像から考える						
15	終講に—— ①未来のための江戸時代再発見 ②宮大工の棟梁の話が暗示するもの ③宮本常一再読							
授業外学習	3.11後、自然災害や未曾有の産業事故などから派生した、防災・減災への取り組み、家族離散や故郷喪失、原発難民、汚染問題、水やエネルギーの資源問題、21世紀は今後ますます地球規模で幅轉する環境問題の 이슈やテーマが山積していきます。ドキュメンタリー分野のみならずドラマ映画もまた、こうした問題意識や模索抜きには映画製作は覚束ない。普段から現場で考え、感受する関心力を涵養していることが前提となろう。							
教科書	詳細な講義ノートを配布予定(今村)。桜井進著『世界の見方が変わる「数学」入門』(河出書房新社)							
主要参考書	http://www.foxfire-japan.com (澁澤) 『感動する! 数学』『面白くて眠れなくなる数学』(共に桜井、PHP)							
評価方法	毎時間、出席参加状況、及び毎時間ごとに配るリアクションペーパーの充実度(感想・意見・質問等)を最優先して、毎回講義に加わるコーディネーターの高橋が判定評価します。							
教員への連絡方法	開講時にアナウンスします。							

科目名					担当者名			
生涯学習概論 I					栗原 保			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(E群)、資格(博物館/社会教育)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	教養科目として、日ごろから教育問題・社会問題に興味をもつことが重要である。事前に履修しておく科目は特にない。							
授業概要	<p>学校での「いじめ事件」や家庭での「児童虐待」、地域社会の「安心安全なまちづくり」など、大人や社会が教育・学習によって解決すべき課題が山積している。こうした課題に「教育・生涯学習」という視点から切り込んでいく。「生涯学習の理念」は急激な社会構造の変化に個人がどう対応するかから構想した「第3の教育改革」と言われ、1980年代に確立した。「いつでも・どこでも・だれでも・何でも学ぶことができる社会の実現」を目標にして90年代から広く市民に広がっている。特に、メディア等に関わる人材は市民の学習活動のサポート役になることが大いに期待される。授業では、生涯学習に関する基本的な知識を習得し、青少年や成人が学ぶことの意味について考える。生涯教育との関連性、生涯学習の本質と意義を理解し、制度・行政・諸施策、学校教育・家庭教育・社会教育等との関連、学習活動への支援等の基礎的資質・能力を身につける。さらに本学の特性を踏まえて、映画文化の普及・啓発・振興などと生涯学習との関連を考察し、多様なキャリアの可能性を拓くことを目指していく。講義を進める際に、日常の具体的なことに目を向けイメージをひろげ、知識理解の定着に結びつけていく。</p> <p>連続授業の特性を生かし、1限では予習課題を題材にワークを中心に進め、2限に知識の定着やまとめで教科書を使用する講義を取り入れる。予習課題によって興味関心が持てる授業として工夫していく。</p>							
到達目標	(1)教育・学習に関する諸課題がわかる、(2)教育基本法を理解する、(3)生涯教育と生涯学習の意義がわかる、(4)生涯学習社会構築の意味を理解する、(5)生涯学習のこれまでの発展過程を理解する、(6)生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育との関連性が具体的にわかる、(7)市民の学びと映像文化活動との関連がわかる							
授業計画	回数	内容						
	1	授業ガイダンス(試験・レポート・予習課題・学習プログラム)、DVD視聴:「第21回全国生涯学習フェスティバル(レポート課題)」「地域の施設を拠点にした市民の生涯学習を考える」→提出日:第14回授業						
	2	生涯学習と地域教育(1) 予習課題①「放課後子供教室」 ②「コミュニティ・スクール」 から学ぶ						
	3	生涯学習と地域教育(2) 講義:「青少年の地域活動・地域の教育力の特質」						
	4	生涯学習と学校教育(1) 予習課題③「童謡 すずめの学校・めだかの学校」 ④「大津市中2いじめ自殺事件」 から学ぶ						
	5	生涯学習と学校教育(2) 講義:「学校教育の特質」						
	6	生涯学習と家庭教育(1) 予習課題⑤「児童虐待事件の摘発過去最多」 ⑥「毒親とは」 から学ぶ						
	7	生涯学習と家庭教育(2) 講義:「家庭教育の特質」						
	8	生涯学習と社会教育(1) 予習課題⑦「さいたま公民館9条俳句訴訟」 ⑧「公立図書館の指定管理者制度」 から学ぶ						
	9	生涯学習と社会教育(2) 講義:「社会教育の特質」						
	10	生涯学習と市民活動(1) 予習課題⑨「市民のボランティア活動への参加傾向」 ⑩「NPO活動とは?その実態は?」 から学ぶ						
	11	生涯学習と市民活動(2) 講義:「ボランティア活動・NPO活動のもつ特質」						
	12	生涯教育と生涯学習(1) 予習課題⑪「学歴社会とは」 ⑫「学歴社会の実態?(我が国・諸外国)」 から学ぶ						
	13	生涯教育と生涯学習(2) 講義:「生涯教育・生涯学習の成立と発展経緯」						
	14	生涯学習と社会教育(3) レポート発表会:テーマ「地域の施設を拠点にした市民の生涯学習を考える」 *レポート締め切り・提出日						
15	総括とまとめ(試験) ～生涯学習施策の展望							
授業外学習	予習課題(12回)・レポート(1回)を課す。内容はインタビュー調査や事前学習を指示する。							
教科書	遠藤克弥 編著『地域教育論～生涯学習から社会教育へ～』川島書店 2011年 1,800円							
主要参考書	講義時間中に随時指示する。							
評価方法	試験45%、レポート提出(発表会も実施) 20%、予習課題(12回予定) 35%							
教員への連絡方法	質問がある場合は大学の事務所を通じて連絡を取ってください。							

科目名					担当者名			
体育					岩田 道子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2017	教養(E群)	選択	演習	2	3・4	前期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	体力維持、増進 ストレス解消を望む学生							
授業概要	運動不足が生活習慣病を発症することはよく知られている。本科目では今までに修得した技能を活用して各種目のゲームを楽しく行い運動不足・ストレスの解消をし、体力の維持・向上と健康をめざす。参加して身体活動を実践してどれだけ汗をかいたかが重要である。したがって出席を重視する。							
到達目標	積極的に参加する事							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション 出席カード記入 写真を用意する:学生証コピー可						
	2	ストレッチ体操 ラジオ体操第一 バレーボール①						
	3	ラジオ体操第一 自体重による筋トレ バasketボール①						
	4	ラジオ体操第一 自体重による筋トレ バasketボール②						
	5	縄跳び(単縄) バレーボール②						
	6	縄跳び(単縄) バドミントン①						
	7	縄跳び(大縄) ソフトボール①						
	8	ダンベル健康体操 バドミントン②						
	9	縄跳び(大縄) ソフトボール②						
	10	ダンベル健康体操 バレーボール③						
	11	ラジオ体操第一(指導者) バasketボール③						
	12	ラジオ体操第一(指導者) バドミントン③						
	13	ラジオ体操第一 バasketボール④						
	14	ラジオ体操第一 バレーボール④						
15	ラジオ体操第一実技テスト							
授業外学習	参考図書を参照し日常の中でできるだけ体を動かすように心がける。							
教科書	使用しない。							
主要参考書	「日常ながら運動のすすめ -フィットネスクラブ不要論-」 長野茂 講談社α新書							
評価方法	受講態度 熱意 積極性 で評価する							
教員への連絡方法	初日のオリエンテーションで連絡先を伝えます。							



科目名					担当者名			
デジタル技術WS(ワークショップ)					さの てつろう ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次に履修した「映画制作基礎演習」での動画撮影・編集仕上げについて復習しておく。撮影照明コース、演出系は必ず履修すること。録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	スマートフォンなどに付属している動画撮影や録音機能を使い、付属または無料ダウンロードした動画編集アプリを使い、1) モバイル内だけで簡単な映像制作をおこなう。2) 撮影・録音した素材をPCに取り込み、更にハイスペックな編集仕上げの実践をおこなう。卒業後映像制作において必要な用語やキーワードが多数でる。それらがどのように機能しているかも含め立体的に学習していく。少人数グループのワークショップ形式で進行する。							
到達目標	映像の時代である現在において手軽に映像制作をして発信出来る技術と発想を習得する。							
授業計画	日数	内 容						
	1	映像時代に社会マネジメントなどにも必要不可欠な映像の重要性などの解説、簡単に作れる動画の作り方の解説						
	2	実践NO1とし、モバイル動画を使って簡単な課題を撮影・編集し、技術と内容について指導する						
	3	NO1の授業で創られた動画に対し、総合的評価及び指導する						
	4	実践NO2とし、NO1の復習授業で出した課題を撮影・編集し技術と内容について指導する モバイル上だけでなくPCに取り込み、ハイスペックな編集ソフトでの編集を実践						
	5	NO3授業とし、NO2の復習授業で出した課題を撮影・編集し、技術と内容について指導する モバイル上だけでなく、PCに取り込みハイスペックな編集ソフトでの編集を実践し、習得度を向上させる						
	6							
7	それぞれの作品の評価・合評・総括							
授業外学習	デジタル映像機器ワークショップ等への参加							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社MOOK、映像制作のためのサウンド収録・編集テクニック							
評価方法	授業への参加・機材運用などの習熟度により総合的に評価							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリーWS (ワークショップ)					安岡 卓治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	演出系は必ず履修すること。撮影照明コース、録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？ 映画そのものの歴史の原初に「ドキュメンタリー」の特質があった。様々な技術的な発展とともに進化し、現在形にまで到達した「ドキュメンタリー」の変遷を授業を通して学習しながら、身近な映像ツールを使って、その進化の過程を体感する。学生それぞれの価値観や映画観、そして創り手としてのまなざしの片鱗を感じ取り、それぞれにとって、これから臨むであろう映画のビジョンを探る発端となることを目指す。「ドキュメンタリーとは事実」という現在の誤解はどこから始まったのか。映画そのものが持つ虚構性を前提にしながら、劇映画とドキュメンタリーの境界領域を探り、現実の様々な創り手がそれぞれのまなざしを通して、どのように切り取られ、それが作品へと紡ぎ上げられるかをワークショップを通して学習する。							
到達目標	ドキュメンタリーの映画としての特質を理解すること。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講義:ドキュメンタリーは企画から</li> <li>■ワークショップ①演出系による企画案の検討</li> <li>■課題:企画書更新・新規企画書(第3回に提出)</li> </ul>						
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講義:カメラを持って街に出よう/寺山修司の「ドキュメンタリー」/作品抜粋紹介「あなたに」</li> <li>■ワークショップ①インタビューで描く/街頭インタビュー諸準備(3名1班編成:質問項目作成+検証指導)</li> <li>■課題「10人に聞きました」</li> </ul>						
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課題検証:企画書の検証</li> <li>■ワークショップ③「取材調査のおもしろさ」リサーチが人間を描く/各企画案にもとづいて取材調査を構想する</li> <li>■課題「取材調査①」</li> </ul>						
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課題検証:「10人に聞きました」</li> <li>■講義:ドキュメンタリーとは何か? /ドラマを超えるドラマティックドキュメンタリー: 作品抜粋紹介「Hoop Dreams」</li> <li>■課題「取材調査②」</li> </ul>						
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講義:虚構としてのドキュメンタリー(作品抜粋紹介「ドキュメンタリーは嘘をつく」、「北区赤羽」)</li> <li>■企画指導</li> <li>■課題「取材調査④」</li> </ul>						
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■企画個別指導</li> <li>■課題「企画書①」</li> </ul>						
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■企画個別指導</li> <li>■課題「企画書①」</li> </ul>						
授業外学習	取材調査、企画書立案							
教科書	—							
主要参考書	「日本のドキュメンタリー2 政治・社会編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー3 生活・文化編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー4 産業・科学編」岩波書店、松本俊夫著「映像の発見」、「311を撮る」岩波書店、佐藤真著「ドキュメンタリーの修辞学」みすず書房、中村高寛著「ヨコハマメリー かつて白化粧の老娼婦がいた」							
評価方法	ワークショップ課題への取り組み。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画プロデューズWS(ワークショップ)					富山 省吾			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指すものは必ず履修すること。							
授業概要	映画とは何か。映画作りに絞っても答えは多様だ。この多岐に及ぶ道を辿って映画を作り上げるのがプロデューサーの仕事。授業はまずプロデューサーは何をする人間かを明確に提示する。続いて製作準備、撮影、仕上げなど実際の各分野での臍(ポイント)を指し示し、プロデューサーの多様な業務と、その結果専門化、多様化するプロデューサーの職種についても触れ、将来の進路として検討できるようにする。／ 加えて映画の要諦である脚本作りについて決め手となるメソッドを提供し、プロデューサーとしてのスキルを装着してもらう。／ 授業の後半では4週間を掛けてプロデューサーとしての実務能力を獲得するために、授業参加者全員がグループに分かれて「企画開発」「企画書作成」をおこなう。							
到達目標	「プロデューサーは何をする人か。その仕事はどのようなものか」を現実感を伴って理解出来るようにする。4週間のワークショップでグループで企画書を作成し、プロデュース能力を発揮する前提としての企画書作成能力と、グループで一つの目標にたどり着く力を身に着ける。プロデューサーにとって必須の能力である、脚本を読み解いて評価する力、弱点を見つけ改訂する技能も取得する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講座の目的と目標の提示。今日の世界にあって「映画プロデューサーは何をする人か」を改めて見つめたい。						
	2	日本映画のエポックの探求をく日本映画50年史(1969～2018)を俯瞰しながら行う。東宝、ほか各社、アニメなど。世界の映画のエポックも併せて概観する。						
	3	プロデューサーの仕事映画製作の流れに沿って分野ごとに解説する。製作費・スケジュールや、ポイントとなる課題を取り上げる。スタッフ・キャストなどとプロデューサーの関わり方、トラブルの処理の実例などにも触れる。						
	4	製作現場で専門化するプロデューサー職種について。音楽P・キャストイングP・美術Pなど。さらに配給・宣伝・興行・法務・マーケティングなど、製作現場以外の映画の各パートでもプロデューサー的存在が求められている事を知る。						
	5	映画に欠かす事の出来ない存在である脚本について、プロデューサーの視点から考察する。						
	6	優れた脚本に求められる要素の解明と、実際の脚本作りに欠かせない必須条件を列挙し、解説する。						
	7	企画書作成①週目。企画開発と企画書の作成改訂の作業概要を説明し、そのためのグループ分けをおこなう。						
	8	企画書の書き方解説。企画書に必須の要素を1つずつ上げて説明する。各自が次回までに自分の企画書を作成する。						
	9	企画書作成②週目。						
	10	5人一組のグループで企画書の開発と作成をおこなう。企画書はデータで作成し、提出の締切りは翌週5月20日(月曜)。						
	11	企画書作成③週目。						
	12	グループごとに企画発表をおこなう。講師から改良点の指摘を受けて、企画書を改訂する。提出締切りは翌週5月27日(月曜)						
	13	企画書作成④週目。						
	14	各グループが二度目の企画発表をおこなう。発表後、受講生全員での質疑応答をして内容を吟味する。						
15	劇的に変容する映画の世界に対するプロデューサーの係わり方、役割りについて考える。観客の存在の変化から始まって、大ヒット映画の生まれ方の新しい動きについても考察し、映画の将来展望を予測する。							
授業外学習	企画書作成とその改訂作業。2回のプレゼンテーションの準備。							
教科書	なし							
主要参考書	「ゴジラのマネジメント」 アスキー・メディアワークス							
評価方法	4週間を掛けて企画書作成と改訂、発表を共同作業としてすべて実践して企画書を仕上げる<60%>。リアクションペーパーの内容<20%>。授業に積極的に参加する姿勢<20%>。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画美術演習 I					中原 俊、稲垣 尚夫 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	E(夏期集中)	白山
履修条件	3年次より演出コースを志望する者は必ず履修すること。							
授業概要	映画美術の基礎知識を学ぶ講義を受けた後、学内スタジオを使って、セット美術の基本となる「パネル」「平台」の製作をしながら道具の使い方を習得する。最終日に自分達の作った材料をつかって、1週目の講義をふりかえりつつ、空間概念を理解する。							
到達目標	映画美術の基礎概念を理解し、セット作りのための道具の使い方と部品(パーツ)の作り方を習得する。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	演出と美術(中原・木下) 『櫻の園』(‘90)をつかって、演出と美術の不可分の関係について対談で検証する 虚実のはざま(木下) 見世物としての映画に美術がいかに関与しているか考察する						
	2	美術の仕事(稲垣) 映画における美術の在り方とそれにまつわる様々な困難及びその対処方法を講義する 映画美術発達史(中原・稲垣) スタジオの成立の過程と小道具という仕事の変化について解説する						
	3	スタジオの構造と使用方法・工具の使い方①(中原・稲垣・相田・大道具2名)						
	4	スタジオの構造と使用方法・工具の使い方②(同上)						
	5	パネルの製作・片付け①(同上) ※班に分かれて各自作業						
	6	パネルの製作・片付け②(同上) ※班に分かれて各自作業						
	7	平台の製作・片付け①(同上) ※班に分かれて各自作業						
	8	平台の製作・片付け②(同上) ※班に分かれて各自作業						
	9	平台を使って舞台を作り、パネルを立てて空間構成の概念を学ぶ①(同上)						
10	平台を使って舞台を作り、パネルを立てて空間構成の概念を学ぶ②(同上)							
授業外学習	自由創作物のプランと作製							
教科書	図面(授業内で配布)							
主要参考書	「櫻の園」吉田秋生 白泉社文庫(1994) 「美術という見世物」木下直之 講談社美術文庫(2010)							
評価方法	出席(熱意)60%、指導講師による個別評価40%(理解力+積極性)。技能を習得した者には美術ライセンスA(工具使用免許)を与える。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画美術演習Ⅱ					中原 俊、稲垣 尚夫 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	E(春期集中)	白山
履修条件	「映画美術演習Ⅰ」を履修していること							
授業概要	美術デザイナーの指導のもと、スタジオ内に図面に沿ってセットを組みながら、大道具・塗装・装飾等のセット造りに必要な技術を学ぶ							
到達目標	撮影で使用するセットへの発想と自分達の力で建てるための技量を身につける							
授業計画	日数	内容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イメージが出来上がるまで」 スケッチ画と図面の読み方・場所を作り、出来上がりをイメージしてみる</li> <li>・場所作り(セットをバラしながら建て方を把握する)</li> </ul> (中原・稲垣・相田)						
	2	平台設置・材料調べ・不足部品作り (中原・稲垣・相田・大道具)						
	3	床板張り・建て込み・窓、扉枠取り付け (同上)						
	4	窓外・廊下建て込み・建具取り付け・下地張り (同上)						
	5	塗装・装飾構想(在り物搬入)・看板、家具等造り物製作① (中原・稲垣・相田・塗装)						
	6	塗装・装飾構想(在り物搬入)・看板、家具等造り物製作② (同上)						
	7	エイジング(汚し)・小道具調達(借り物・買い物) (同上)						
	8	飾り込み・ライティング・最終仕上げ・撮影・ディスカッション・総括 (中原・稲垣・相田)						
授業外学習	撮影のためのシナリオ執筆・狙いの装飾品の調達・撮影した素材をつかっの編集・音仕上げ							
教科書	図面(授業内で配布)							
主要参考書	「映画美術に賭けた男」中村公彦 草思社							
評価方法	出席(熱意)60%、指導講師による個別評価(技能+積極性)40% 作業工程を修得し、リーダーシップを発揮した者には美術ライセンスB(スタジオ使用許可書)を与える。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出論 I					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出系は必ず履修すること。撮影照明コース、録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	演出家、映画監督は映画をどのように観るのか。他者が撮った映画から何を受け取るのか。毎回、各講師(演出家)がテーマを決めて映画を選び、一緒に観賞。その後、各シーンの演出を検証する。(授業内容は変更することがあるので、必ず掲示で確認すること)							
到達目標	映画鑑賞力の向上。演出内容の成長、演技、カット割の把握。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	I-I 緒方明監督と観る 映画と〇〇						
	2	テーマ:映画の中の『追跡』という表現						
	3							
	4	I-II 天願大介監督と観る 映画と〇〇						
	5	テーマ:映画における『省略』とは						
	6							
	7	I-III 中原俊監督と観る 映画と〇〇						
	8	テーマ:青春映画における人物の登場、紹介の仕方						
	9							
	10	I-IV 細野辰興監督と観る 映画と〇〇						
	11	テーマ:台詞に頼らない映像表現とは—『シャレード』の重要性						
	12							
	13	I-V 佐々木浩久監督と観る 映画と〇〇						
	14	テーマ:出会いと距離の演出～人間の関係性の移り変わりを距離で表現する						
15								
授業外学習	授業内で観た映画の他、言及された映画を観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	毎回のレポートと出席を総合的に評価。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音WS(ワークショップ)					弦巻 裕、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	新百合
～2017	教養(D群)	選択	演習	2	4	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コースは必ず履修すること。演出系、撮影照明、編集コース、文章系は履修することが望ましい。 【読替科目】音響論(～2017年度)							
授業概要	音は映像と並んで、映画の大事な構成要素である。この講座は映画に携わる者であれば必ず知っておくべき、映画の音の基礎知識を、技術に偏らずに解説していく講座である。 映画の音の3要素である台詞・音楽・効果音それぞれのスペシャリストを招聘しそれぞれ専門的な観点から講義を行う。 映画の音の歴史、映画音楽や効果音の歴史を学ぶと共に、実際の現場ではそれがどのように作られているかを解説する。 技術と共に発展してきた映画音響システムが、現在ではどのような形になっているか。またこれからどのように変化していくか。それを知るために、最先端の映像表現技術の現状を紹介、解説する。 また、様々なメディアでどのような音響設計がなされているかを学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像、音響の構成要素である音楽、セリフ、効果音について学び、理解を深める。</li> <li>・映画および様々な映像メディアの音響フォーマットの理解を深める。</li> </ul>							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映像と音楽(和田) 現役の映画音楽作曲家を招聘  映画音楽基礎 映画における音楽の役割を考える。 映画音楽にも地域や国による様々なスタイルの違いがある。その歴史と技法の紹介。 映画音楽の三要素と音楽演出の種類 日本映画音楽の現状。実際の映画音楽どのように作られているかを、実例と共に解説する。 映画、TVドラマ、アニメなど、ジャンルによって異なる映画音楽制作過程について解説する。 音楽著作権についての理解を深める。						
	2	映像と効果音(北田) 現役のフォーリーアーティストを招聘。効果音の作り方とその仕事を語ってもらう。  映画音響における効果音の役割。 効果音にも様々な要素がある。その種類と役割を解説する。 効果音の歴史 国よっての効果・サウンドデザインの作り方の違い 日本における効果音制作の現状とその特徴						
	3	録音技師の仕事I(紅谷 弦巻) 映画録音の歴史と技術の移り変わりを2週にわたって行う。 映画録音界の大ベテランに映画最盛期の録音の数々を語ってもらう。  大監督達との逸話やエピソードなどを語ってもらい、その技術背景を考える。 映画の音響表現が、技術の進歩と共に拡大してきた歴史を考える。						
	4	録音技師の仕事I(弦巻) 弦巻教授の作品を元に近年の5.1サラウンド音声の作品についてその仕事を語ってもらう。  35mmフィルム作品の上映。 録音技術・音響処理についての具体的な工夫と体験を存分に語る。 「音響から観る映画体験について」討議と受講生からの質疑応答。						
	5	音響基礎(若林)  映画音響フォーマットの推移。 TV音響&ネットムービーの音響について。 映画音響施設の技術的仕様。 様々なメディアにおける音のミキシングの違い。 最新の音響施設および音響機材の傾向を解説。						
授業外学習	録音協会セミナーへの参加を推奨する(授業内にて案内)							
教科書	授業時に適宜、関連資料を配布する。							
主要参考書	—							
評価方法	毎回のリアクションペーパーの提出・内容(50%)と、期末レポート(50%)で総合評価(出席率50%未満は、原則不可扱いとなる)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演劇WS (ワークショップ)					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	1	後期	E(春期集中)	新百合
～2017	教養(A群)	選択	演習	2	3	後期	E(春期集中)	新百合
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。しかし、特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。							
授業概要	ワークショップとは体験を通じて学ぶ講座のこと。この講座では演技の基本であるいくつかの要素を体験することで、映画制作における俳優の役割をより深く理解する。しかし俳優を訓練するのが目的ではない。あらゆる表現は筋肉の運動である。その発見を各自の創作活動にフィードバック出来るようにするため、最後に身体を使った短いドラマを創作する(講師の都合によりスケジュールは入れ替わることがある)。							
到達目標	全員が俳優を体験することで身体がすべての基本であることと、その重要性を意識する。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	身体を使った表現とは何か 身体表現概論						
	2	舞踏家によるワークショップ(肉体の発見)						
	3	俳優によるワークショップ(感覚の記憶 感情の記憶)。						
	4	身体表現でのドラマ作り1						
	5	身体表現でのドラマ作り2 舞台の設営						
6	身体表現でのドラマ作り3 舞台稽古・上演 (講師のスケジュール次第では2コマ連続で行う)							
授業外学習	生活の中で身体感覚を意識する。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	出席および受講態度を総合的に評価し(全回出席することが条件)、最後にレポートを提出。							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
編集WS (ワークショップ)					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
～2017	専門	選択	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コースは必ず履修すること。演出、撮影照明、録音、ドキュメンタリーコースは履修することが望ましい。							
授業概要	様々なジャンル・媒体の映像編集と編集者あるいは編集周辺に関わる人々を招いて話を聴いたりしながら編集の大切さや面白さを学ぶ。							
到達目標	様々な編集及び編集関連技術を講義や体験で知り、映像の成り立ちや組み立てる思考を得る。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	注目される映画編集者と編集助手を招いて作品と編集についての講義を行う						
	2	映画以外の編集者(ドキュメンタリー・アニメーション・CM・予告編など)を招き、作品と編集についての講義を行う						
	3	映画編集とタイトル・デザインについて①(タイトル・デザイナーの赤松陽構造氏の講義)						
	4	映画編集とタイトル・デザインについて②(タイトルをデザインし、作成してみる)						
	5	映画編集とは・・・編集者たちのさまざまな技法について学ぶ (例:浦岡敬一氏など:あるいは映画・映像編集者の作品をとりあげて編集について学ぶ)						
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席状況、受講姿勢・態度、提出されたレポート等で総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
特殊撮影・VFX 基礎					緒方 明、尾上 克郎 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
～2017	専門	選択	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	定員を超えた場合は選考を行う。							
授業概要	特殊撮影とVFXの基礎。 映画製作において、特殊撮影やVFX(ヴィジュアルエフェクト)の重要度は日々増加し、現在の映像制作に携わる人間にとって、その基礎的概念や基礎技術を習得することはもはや必要不可欠である。このコースでは特殊撮影とVFX(ヴィジュアルエフェクト)の歴史と概念を学び、VFXや特殊撮影を取り込んだ映像制作の実際を学び経験する。							
到達目標	特殊撮影とVFXの基礎的概念を学び、グループWSによりサンプルシーケンス(動画)制作により、特殊撮影とVFXシーケンス完成までの制作プロセスを理解する							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	【講義1】 特殊撮影の歴史～特撮からVFXへ。特殊撮影の誕生からインカメラエフェクト、オプティカルエフェクト、そしてデジタルエフェクトへ。いかんにして技術や概念が発達してきたか						
	2	【講義2】 ビハインド・ザ・シーンから学ぶ、最新技術の応用ならびに様々なVFXの手法。						
	3	【講義3】～実写映画におけるVFXの基礎①2D合成基礎 ①画面合成基礎(面割り合成)②黒バック撮影などによるダブルエクスポージャー(ダブル合成)の概念③クロマ・キー合成の概念と撮影方法(グリーン・バック/ブルー・バック) 【WS1】～静止画を使った画面合成の基礎						
	4	【講義4】～実写映画におけるVFXの基礎②3D合成基礎 ①実写撮影と3DCG ②3Dオブジェクトの作成とレンダリング ③オブジェクト・アニメーション ④3Dオブジェクトのライティング ⑤ 2D画面と3Dオブジェクトの合成						
	5	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践1 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の概念習得 ①動画合成ソフトの概要と基本操作 【使用ソフト:After Effects or Digital Fusion】						
	6	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践2 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～レイアウトと仮合成 ②個別に撮影された素材の管理方法と合成 ③3DCG素材の合成						
	7	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践3 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～完成度を上げる ④色や明るさを調整してなじませる ⑤2Dエフェクトを加える *サンプルシーケンスの完成と講評						
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	成果物(WSで制作したシーケンス)、並びに課題レポートを総合的に評価。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出論Ⅱ					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
～2017	専門	選択	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出、身体表現・俳優コースは原則履修すること。その他コースは履修することが望ましい。							
授業概要	卒業制作に向けて、もう一度「演出とは何か」を体得するWS。同時にスタッフワークについて見つめなおす。既存の脚本を元に講師が芝居の演出をして、カット割をみんなで考え、実際に撮影・編集してみる。							
到達目標	卒業制作に向けて、演技指導・ショットの意味や役割の理解・演出の精度を向上させる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●脚本の検証。読み込み、分析</li> <li>●演出家は何を大事にしているのか？ 共通認識のためのコミュニケーション</li> <li>●シナリオを具体化することとは？ 美術・装飾・衣裳などビジュアルデザイン</li> </ul>						
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術準備、リハーサル</li> <li>●各班に分かれてカット割</li> <li>●カット割の発表、検証。各ショットで狙っているものは？</li> </ul>						
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●撮影</li> </ul>						
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●編集</li> <li>●発表・検証・分析</li> </ul>						
授業外学習	各ゼミの実習で作った作品を再度見て自分の理解を検証しておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出欠と授業態度を総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
特殊撮影・VFX WS (ワークショップ)					緒方 明、尾上 克郎 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
～2017	専門	選択	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	定員を超えた場合は選考を行う。							
授業概要	特殊撮影・VFXの実践と実写作品への応用。 特殊撮影の技法やVFXは、映画の発想を豊かにする。このコースでは、サンプルストーリーを元にVFXと特殊撮影を適用した短編作品のプランニングから仕上げまでを実践し、特殊撮影とVFXの応用法を学び経験する。							
到達目標	実写映画での特殊撮影/VFXの使用法と発想を習得する。 グループWSによる特殊撮影特殊撮影とVFXシーンのプランニングと完成までの実践。短編作品の完成。							
授業計画	日数	内容						
	1	<b>【講義】</b> 講義～特殊撮影・VFX技法の復習と応用  <b>【WS1】</b> ～チーム分けを行い、サンプルストーリーに基づくカット割りと絵コンテの作成。 撮影プランニング(ロケハン、機材選定など)						
	2	<b>【WS2】</b> 撮影準備&撮影(特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む)						
	3	<b>【WS3】</b> 撮影(特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む)						
	4	<b>【WS4】</b> 編集と合成作業 短編完成と上映ならびに講評						
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	リアクションペーパーの提出、短編作品の提出を総合的に評価。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本基礎演習					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	脚本の書き方の基礎を習得させつつ、映画は脚本から始まることを体験させる。ドラマという概念を教え、それがどのように脚本として成立しているかをプロの作品から学ばせたうえで、自分たちも脚本を実際に書いてみる。あらすじを書く、プロットを組み立てる(箱書きを作る)、柱と、だんだんと構成を細かく割って行き、脚本執筆をする。ト書き、セリフ、箱書き(場面ごとの区別)、ハシラ(slug line、物語の出来事が起こる場所、撮影場所の指示書き)などの基本ルール、さらに人物の作り方、シーンの作り方、ストーリーの展開方法、省略の技法、回想形式、など脚本作成の基本作法をしっかりと身につける。							
到達目標	後期必修である「映画制作基礎演習」の為に短編シナリオが書けるようになる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	2	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	3	課題を与え、ワンシーンを書いてみる。出来上がったワンシーンを個別に講評し、書式の不備等を学ぶ。						
	4	ペラ(200字詰め原稿用紙)30枚の脚本に向けてプロットを作る。それぞれの作品は、どういう話なのか、何を描きたいのか、要約して発表する。						
	5	プロットを元に脚本執筆に向けて、箱書き(構成)を学ぶ。						
	6	箱書きを元にシーンに割ってみる。シーケンスとはなにか、シーンとは何かを学ぶ。その上で脚本執筆にとりかかる。						
	7	出来上がった脚本を個別に講評する。その講評を受けて脚本を直す。直した脚本を全員で読み、合評する。						
授業外学習	プロットの執筆。それを元にペラ30枚の脚本の執筆。							
教科書	—							
主要参考書	授業内で配布されるプロの脚本等のプリント。							
評価方法	出席(60%)、提出課題(40%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
映画制作基礎演習					細野 辰興 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	8	1	後期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次必修。前期「脚本基礎演習」「スタートアップ演習」「人間総合研究」に合格していること。 この科目が不合格になると2年に進めず留年となる。							
授業概要	講義(7日間)で映画の基礎知識(役割・工程・用語・技法・シナリオの作り方)を学ぶ。その後、専門家の指導のもと準備、撮影、仕上げの方法を学びつつ、上映・総括講評を経て、映画制作の全工程を体験する。							
到達目標	映画制作に必要な知識と技術と精神を修得し、今後自分が映画とどう関わっていくかの指針を得る							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	シナリオ決定稿のつくり方 講義(制作・演出・撮影・録音・美術・デジタル等)						
	2	シナリオ決定稿提出 合流式・技術特講・ロケハン 等						
	3	諸準備・美打ち・メイク・美術特講						
	4	カメラテスト・衣小合わせ・リハーサル						
	5	撮影						
	6	撮影 仕上げ講義・取り込み・ラフカット						
	7	編集ラッシュ・音ロケ・アフレコ・オールラッシュ						
	8	フォーリー・音楽・整音・ダビング						
	9	発表会						
授業外学習	ロケーションハンティング・衣装・小道具の収集等							
教科書	—							
主要参考書	集英社新書・『映画芸術への招待』 杉山平一、講談社現代新書							
評価方法	指導講師の話し合いによる個別評価(80%)に講義・シナリオの受講態度(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習 I					荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	1	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	劇場用映画の長さのシナリオを書く事を目的に、教員自身の経験を生かしたシナリオ執筆方法を講義し、学生にシナリオ執筆に必要な技術を教える。10人前後の学生に対して一人以上の教職員というほぼマンツーマンの体勢で個別に丁寧に指導していく。個々人にその題材が適しているかを問い、それぞれの人生を丸ごとシナリオにぶつけさせる。人への興味が映画なのだということを知る。そのうえで映画作りの難しさと面白さの基本を叩き込み、脚本を知ることが、映画のどのパートにとっても最も大事だということを学習する。							
到達目標	学生個々人がそれぞれの題材を発見し、それを物語(プロット)に落とし込む。							
授業計画	日数	内 容						
	1	既成の映画を観て、プロットに要約する。その映画のテーマは何かをみつけ、「脚本基礎演習」で学んだ箱書きにしてみる。そのうえで、起承転結に分けて、どうプロットが展開しているか、解析してみる。						
	2	プロの書いた脚本を読み、シーンの中で人物がどう動いているか、シーンの連なりであるシーケンスではどういう展開をしているかを読み解く。						
	3	それぞれが書こうとするシナリオのテーマ等を発表し、それを物語に落とし込む為のアドバイスをする。200枚(1時間40分)という長さで、描こうとする物語の質を検討する。						
	4	それぞれが、プロットを作り、講評を受ける。						
	5	直したプロットを合評し、シナリオ執筆にあたり取材すべき対象や、学ぶべき本等のアドバイスを受ける。						
授業外学習	プロットの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導講師の過去に執筆したシナリオ(あるいは指導講師が選択した既成の映画のシナリオ等)のプリント、完成した映画のDVD等。							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習Ⅱ					荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出。							
授業概要	<p>「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。春休み中の作業になるので、個別に担当教員が、面談による執筆指導を行う。おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描き足りない箇所はどこなのかを個別指導で学び、脚本を直していく。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。</li> <li>・個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。</li> </ul>							
授業計画	日数	内 容						
	春	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマの確認。</li> <li>○ プロットを大バコ(構成)に分ける。</li> <li>○ 大バコをシーケンスに分ける。</li> <li>○ シーケンスをさらにシーンに分ける。</li> <li>○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。</li> </ul>						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしていないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。							
授業外学習	<p>【200枚シナリオの書式について】</p> <p>以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。          作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号          ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらずしも添付すること。</p> <p>PC提出のレイアウト。          用紙サイズ:A4          段数:2段組み          余白:標準(上・下・左:30mm、右:35mm)          文字数:1行20文字          文字サイズ:10.5</p>							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							



科目名					担当者名			
長編シナリオ演習 I (編入生)					斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	基礎	必修	演習	2	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	—							
授業概要	劇場用映画の長さのシナリオを書く事を目的に、教員自身の経験を生かしたシナリオ執筆方法を講義し、学生にシナリオ執筆に必要な技術を教える。マンツーマンの体勢で個別に丁寧に指導していく。個人にその題材が適しているかを問い、それぞれの人生を丸ごとシナリオにぶつけさせる。人への興味が映画なのだということを知る。そのうえで映画作りの難しさと面白さの基本を叩き込み、脚本を知ることが、映画のどのパートにとっても最も大事だということを学習する。							
到達目標	学生個々人がそれぞれの題材を発見し、それを物語(プロット)に落とし込む。							
授業計画	日数	内容						
	1	既成の映画を観て、プロットに要約する。その映画のテーマは何かをみつけ、「脚本基礎演習」で学んだ箱書きにしてみる。そのうえで、起承転結に分けて、どうプロットが展開しているか、解析してみる。						
	2	プロの書いた脚本を読み、シーンの中で人物がどう動いているか、シーンの連なりであるシーケンスではどういう展開をしているかを読み解く。						
	3	それぞれが書こうとするシナリオのテーマ等を発表し、それを物語に落とし込む為のアドバイスを。200枚(1時間40分)という長さ、描こうとする物語の質を検討する。						
	4	それぞれが、プロットを作り、講評を受ける。						
	5	直したプロットを合評し、シナリオ執筆にあたり取材すべき対象や、学ぶべき本等のアドバイスを受ける。						
授業外学習	プロットの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導講師の過去に執筆したシナリオ(あるいは指導講師が選択した既成の映画のシナリオ等)のプリント、完成した映画のDVD等。							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習Ⅱ(編入生)					斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	基礎	必修	演習	2	2	後期	F(その他)	白山
履修条件	ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出。							
授業概要	<p>「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。夏休み中の作業になるので、個別に担当教員が、面談による執筆指導を行う。おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描きたりない箇所はどこなのかを個別指導で学び、脚本を直していく。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。</li> <li>・個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。</li> </ul>							
授業計画	日数	内 容						
	夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマの確認。</li> <li>○ プロットを大バコ(構成)に分ける。</li> <li>○ 大バコをシーケンスに分ける。</li> <li>○ シーケンスをさらにシーンに分ける。</li> <li>○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。</li> </ul>						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしていないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。							
授業外学習	<p>【200枚シナリオの書式について】</p> <p>以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。          作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号          ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらずしも添付すること。</p> <p>PC提出のレイアウト。          用紙サイズ:A4          段数:2段組み          余白:標準(上・下:30mm、右:35mm)          文字数:1行20文字          文字サイズ:10.5</p>							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
長編シナリオ制作(再履修)					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	基礎	必修	演習	4	3・4	前期	F(その他)	白山
履修条件	「長編シナリオ制作」不合格者。							
授業概要	「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。春休み中の作業になるので、個別に担当教員が、面談による執筆指導を行う。							
到達目標	ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。							
授業計画	内 容							
	<p>○ テーマの確認。</p> <p>○ プロットを大バコ(構成)に分ける。</p> <p>○ 大バコをシーケンスに分ける。</p> <p>○ シーケンスをさらにシーンに分ける。</p> <p>○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。</p> <p>【200枚シナリオの提出について】</p> <p>提出期日: 2019年4月1日(月)17時まで</p> <p>提出場所: 白山校舎事務室</p> <p>提出方法: 各自2部提出すること(持参)。2部とも必ずレポート用表紙をつけ、ホッチキスで綴ること。</p> <p>【200枚シナリオの書式について】</p> <p>以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。          作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号          ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらかじめ添付すること。</p> <p>PC提出のレイアウト。          用紙サイズ:A4          段数:2段組み          余白:標準(上・下:30mm、右:35mm)          文字数:1行20文字          文字サイズ:10.5</p>							
授業外学習	シナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	執筆物(オリジナルシナリオ)の成果。							
教員への連絡方法	「長編シナリオ演習Ⅰ」の授業内で周知。							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習Ⅱ(再履修)					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	基礎	必修	演習	2	3・4	前期	F(その他)	白山
履修条件	「長編シナリオ演習Ⅱ」不合格者。ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出。							
授業概要	おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描きたりない箇所はどこなのかを個別指導で学び、脚本を直していく。							
到達目標	個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。							
授業計画	日数	内容						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしてないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
	5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。						
授業外学習	シナリオの直し。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知。							

科目名				担当者名				
演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉				安岡 卓治 ほか				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	演出系。人間総合研究及びデジタル技術ワークショップを修了。ドキュメンタリーワークショップを履修していることが望ましい。短編ドキュメンタリー企画書を提出すること。							
授業概要	<p>本学創設者・今村昌平は、劇映画のみならずドキュメンタリーの名匠として知られている。その精神の根底に徹底した人間観察への取り組みにある。映画の歴史が100年を超え、デジタル技術の革命的進化にともない、映画の表現方法の選択肢はすでにジャンルを超え多様なものとなっているが、骨太な人間観察の精神が優れた映画の基底にあることを忘れてはならない。本演習は、短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学び、取材対象者の交流を深めながら、学生自らの人間観を拡げ、さらには現実を生きる人間を活写することの困難さ、人間に相対することの面白さを体得し、学生自らの映画ビジョンを深めるものとする。</p>							
到達目標	<p>■ドキュメンタリー映画制作に必要な基礎的な技術の習得 ■ドキュメンタリー映画の多様性を知る          ■短編制作の作業の流れを体験する</p>							
授業計画	週数	内容						
	1	<p>■「企画会議」課題企画書の提出と検討            受講する全学生、指導担当の全講師が集い、提出されたすべての企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評し、企画の可能性や課題を明らかにし、追加取材調査の作業の指針を探る。            ※課題:企画書更新</p>						
	2	<p>■「企画会議」+班編成(7人編成)            更新した企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評しながら、個人企画の共通性を勘案して制作班を編成する。編成された班毎に協議し、企画を一本化するとともに作業分担を図る。取材対象者の許諾書を得た段階で企画書を仕上げ、指導講師の承認を得た上で撮影を開始する。撮影に際しては、技術指導(撮影シミュレーション)を受講する。</p>						
	3	<p>■撮影①            撮影課題毎に技術指導(撮影シミュレーション)を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし課題を明らかにしながら、撮影日程を調整する。インタビュー撮影を先行させることが望ましい。インタビューは撮った後編集システムの特講を受講し、速やかに素材タイムライン作成・カット表作成・文字起こし。</p>						
	4	<p>■撮影②            撮影課題毎に技術指導(撮影シミュレーション)を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし、作品の主題を吟味し構成を組み立てる。構成に基づき追加撮影課題を明らかにして日程内に撮る。撮った後速やかに素材タイムライン化し、カット表作成、文字起こし。</p>						
	5	<p>■編集①            素材タイムラインからのOK出し・シーン仮組み・仮構成・仮編集・編集試写を繰り返しながら作品を錬成する。</p>						
	6	<p>■編集②            同上</p>						
	7	<p>■編集③+整音+カラーグレーディング            本編集を完了させ、音声レベルの調整、音質の調整等を行い、カラーグレーディングを行う。</p>						
	8	<p>■合評会            大教室に全学生、全講師が集い作品上映。上映後、担当学生が所感を述べ合評する。            ■総括            指導講師と学生が会し各々の作品の成果や課題を討議する。※課題レポート「制作をふりかえって」</p>						
授業外学習	<p>■制作課題:ドキュメンタリー映画企画書作成 ■取材調査</p>							
教科書	—							
主要参考書	<p>「日本のドキュメンタリー2 政治・社会編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー3 生活・文化編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー4 産業・科学編」岩波書店、「311を撮る」岩波書店、「ドキュメンタリー・ストーリーテリング—『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「映像の発見」清流出版、「ドキュメンタリーの修辞学」みすず書房、「ヨコハマメリー:かつて白化粧の老娼婦がいた」河出書房新社</p>							
評価方法	出席、個人課題(企画書)への取り組み、分担した役割への取り組み、合評会での主張を総合的に評価。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
撮影照明基礎演習					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。							
授業概要	撮影・照明についての基礎知識を実際の機材を使って学習する。 少人数グループのワークショップ形式で進行する。							
到達目標	露出・照明比・色温度の特性を理解する。 フレーム感覚の習得。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の作品上映会への参加</li> <li>・技術系共通講義(撮影照明・編集)</li> </ul>						
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術系共通講義(録音)</li> <li>・撮影・照明機材と特機類の取扱い、実践①</li> </ul>						
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影・照明機材と特機類の取扱い、実践②</li> <li>・「撮影照明・録音合同演習」～準備 (既成脚本による短編の制作)</li> </ul>						
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「撮影照明・録音合同演習」～準備・撮影</li> </ul>						
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「撮影照明・録音合同演習」～撮影</li> </ul>						
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「撮影照明・録音合同演習」の仕上げ作業への参加</li> <li>・写真でのストーリー構成</li> </ul>						
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「撮影照明・録音合同演習」の仕上げ作業への参加とカラコレ</li> <li>・ビデオポートレート～撮影から編集</li> </ul>						
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「撮影照明・録音合同演習」の仕上げ作業への参加～上映</li> </ul>						
授業外学習	フィルムスチールカメラで様々な自然光線での風景などを撮影、プリントして検証してみる							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画TV技術手帳」映画テレビ技術協会 「35 / 16mm FILM CAMERAS MANUAL」映画テレビ技術協会 「映画撮影術」フィルムアート社 「カメラ アシスタント マニュアル」 翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」 古賀信明著 スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	授業への積極参加・機材運用などの習熟度により総合的に評価							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音基礎演習					弦巻 裕、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、録音を学ぶことを志した学生のための専門基礎科目である。映画における音の役割と、現場からポストプロダクションまで関わる録音技術者の仕事の流れ、つまり、映画における音の役割、録音とは何か、ミキシングとレコーディング、アフレコの技術等を一通り解説しなぞる。DAW (Protools) やスタジオの使い方を学んでいく。今後の演習・実習においては、この授業を修了したもののみが録音機材を操作することができる。							
到達目標	音とは何か？その物理的性質を理解する。 録音技術の基本を理解すると共に、マイクロフォンと録音機の基本的な仕組みを理解し、映画録音に最低限必要な機材の使い方を身につける。 スタジオの仕組みを理解し、簡単なアフレコ・フォーリー・ダビング作業を行えるようにする。							
授業計画	週数	内 容						
	1	技術部(撮影、録音、編集)共通授業 映像作りの技術セクションに携わる人間にとって最低限知っておいた方がよい項目を、撮影・録音・編集それぞれの分野について2日間程度学ぶ。 録音については、映画における音の役割、録音のワークフローと現場録音の解説、映画の音の遍歴、映画の音の三要素など。						
	2	録音コース専門授業 録音を担当する人間にとって 音とは何か？録音とは何か？ マイクの仕組み&レコーダーとは？&ケーブルの仕組み						
	3	録音コース専門授業／撮影・録音合同現場演習①-準備 技術部にとっての脚本の読み方 現場機材講義 機材準備 撮影準備						
	4	撮影・録音合同現場演習②-準備～撮影 機材セッティングとブームオペレート／現場でのミキシングとレコーディング						
	5	撮影・録音合同現場演習③-撮影 機材セッティングとブームオペレート／現場でのミキシングとレコーディング 現場でのマイクアレンジを学ぶ。						
	6	撮影・録音合同現場演習④-仕上げ～スタジオ特講 音声素材の管理 編集ゼミとの素材受け渡し スタジオでの音声の基準のとりかた DAW[デジタルオーディオワークステーション]の基本 いい音とは何か？						
	7	撮影・録音合同現場演習⑤-仕上げ アフレコスタジオでの録音／効果音&フォーリーの録音 編集部からの素材の受け取り／台詞の整音						
	8	撮影・録音合同現場演習⑤-仕上げ～ダビング 素材のミックス(ミックスダウン) 総括						
授業外学習	最近10年ほどの米国アカデミー録音賞、日本アカデミー録音賞、毎日映画録音賞の作品の中から数本を選んで鑑賞し、作品の中で音がどのような役割を果たしているかを考える。							
教科書	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行							
主要参考書	書籍 はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本 (発行 秀和システム 1200円＋税)							
評価方法	専門授業でのミニテスト 20% 撮影・録音合同現場演習での技能の到達度の評価 40% 仕上げにおけるスタジオ作業での技能到達度による評価 40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集基礎演習					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、編集を専攻することを志向した学生のための基礎講座である。映画における編集の重要性を認識するために編集の発生や成り立ちを把握し、基礎知識を身に付けつつ、技術的作業に要する道具・機材の取り扱い方を身に付け、さらに実験的にモンタージュしてみる。							
到達目標	編集の発生や成り立ち、様々な編集技術の基礎を知り、初めて「編集」を意識して映像を組み立てる思考を得、体験をする。							
授業計画	週数	内容						
	1	編集・撮影・録音(技術3コースでの共通授業である) 1)1年次の映画制作基礎演習の復習をする。その経験と、編集に関するさまざまな資料をもとに「映画編集」について考える。 2)編集の歴史についての講義と作品分析 3)モンタージュとは何か、様々な編集技法についての講義						
	2	デジタル編集の基礎授業①(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィールを作成してみる						
	3	デジタル編集の基礎授業②(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィールを作成してみる						
	4	デジタル編集の基礎授業③(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *ドラマ素材を用いて編集を行う						
	5	デジタル編集の基礎授業④(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *ドラマ素材を用いて編集を行う						
	6	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする① ……編集						
	7	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする② ……編集						
	8	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする③ ……ダビング・上映・検証						
授業外学習	授業で紹介された作品・引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度・編集をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							



科目名					担当者名			
雑誌制作					大澤 信亮、藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	文章系。							
授業概要	文章系に進んだ学生が、脚本コースと文芸コースに分かれる前に、合同で活字出版の基本を身につけることを目的としている。文章を活字として世に問うためには、思ったことを自由に発表できるネットとは違い、様々な手続きおよび、それに伴う責任が要求される。この講義では、本学機関紙「映画大学だ！」の制作を体験することで、将来文章を書いている受講生に不可欠の、出版の基本的なルールを実践的に学ぶ。また、このプロセスを学ぶことは、4年次の卒業制作の文集制作にも関係してくる。原則として企画ごとにチームで動くため、個人の怠慢や勝手は許されない。また、授業時間外での宿題(持ち帰りの作業)が多くなることが想定される。							
到達目標	雑誌刊行の基本的な進行を身につける(企画立案、収録、テープ起こし、まとめ、原稿依頼、校正、執筆、など)。							
授業計画	週数	内容						
	1	オリエンテーション:スケジュール確認、合宿前準備課題						
	2	合宿:企画会議、企画決定、表紙案決定、役割分担						
	3	編集会議:台割決定、進行確認 制作:対談の収録・起こし・まとめ、学生企画の進行と完成						
	4	編集会議:進行の確認 制作:教員アンケート回収、対談の収録・起こし・まとめ、学生企画の進行と完成						
	5	編集会議:進行の確認 制作:卒制シナリオ・コメント入手、対談の収録・起こし・まとめ、学生企画の進行と完成						
	6	編集会議:進行の確認、ページ数確定 制作:表紙完成、対談原稿の完成、学生企画の完成、						
	7	編集会議:進行の確認 制作:校正作業						
	8	入稿(最終的な入稿とゲラの刷り出し・校正は9月、発行は10月の予定)						
授業外学習	2018年1月から2019年3月にかけて観た映画から3本を選び(新作・旧作、劇場・DVDは問わない)、それぞれ400字程度の感想を書いて提出すること(書式はワード、3月末まで)。 これは2年前期の「雑誌制作」の授業で創る「日本映画大学だ！」の掲載原稿となるので、そのつもりで書くこと(あらかじめバックナンバーで過去の「映画大生が観た1000本の映画」を参考に読んでおくこと)。							
教科書	とくになし。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	参加態度(60%)および制作物貢献度(40%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出専門演習Ⅱ〈ワンシーン〉					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出系。ガイダンスに参加し、教員の撮った作品を出来る限り観賞しておくこと。							
授業概要	映画の基本である「物語を映像で語る」とはどうか。人間の行為、出来事、感情を簡単なテキストや脚本を基に映像化していく実習。合わせて、ロケハン、美術準備、演技指導、カット割りも演習を通して体得する。							
到達目標	シナリオの読解力を含め、演出の基本要素である演技、カット割りの能力を身につける。							
授業計画	週数	内容						
	1	●ゼミ内オリエンテーション…数本の作品を観せ、脚本(構成)、演技(動線)、撮影技術(カット割り)で映画作りの基本を学ぶ。						
	2	●サイレント短編演習…テキストを基にサイレントで作品をくり返し撮る。芝居とカット割りの検証。機材特講でカメラの使い方も覚える。						
	3	●同録短編演習…②のテキストを膨らませ、人物像や台詞をより吟味して短編を撮り検証する。						
	4	●学生によるワンシーン作品の撮影・編集(1回目)						
	5	●学生によるワンシーン作品の撮影・編集(2回目)						
	6	●シュミレーション作品準備開始(講師が監督、ゼミ生がスタッフ・キャスト)…脚本検証・ロケハン・班分け						
	7	●シュミレーション作品準備開始…衣裳合わせ・美術準備・リハーサル						
	8	●シュミレーション作品の撮影・編集・整音・発表会						
授業外学習	講師に指定された作品、脚本を精読しておく							
教科書	『映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術』							
主要参考書	—							
評価方法	演習への出欠・授業態度・姿勢などを見て判断する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
撮影照明専門演習					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。							
授業概要	デジタルシネマ技術の特性を解説し、短編映画を制作する							
到達目標	*撮影照明技術を理解し作品に反映できる *卒業制作に向けて演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる							
授業計画	週数	内容						
	1	・デジタルシネマ基礎知識① ～技術解説						
	2	・デジタルシネマ基礎知識② ～実践 ・3～5週目に行われる、デジタルシネマカメラを使用するのモノクロ映像作品の為に、撮影スタジオで照明を学ぶ ・モノクロ映像作品の趣旨等の説明						
	3	・「モノクロ映像作品」の制作 ～企画・準備（完成尺10分程度） 与えられたテーマに基づいて企画を考え、ロケハン等の準備を始める						
	4	・「モノクロ映像作品」の制作 ～準備						
	5	・「モノクロ映像作品」の制作 ～撮影（～録音コースの参加）						
	6	・「モノクロ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・技術レベルのスキルアップを図る為、テーマを決めて16mmフィルムとデジタルで短編映画の制作をする（フィルムはネガテレシネ） ・16mmフィルム撮影機材の取扱い						
	7	・「モノクロ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・スキルアップ短編映画の制作 ～撮影						
	8	・「モノクロ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・スキルアップ短編映画の編集から上映						
授業外学習	*デジタル一眼レフや動画撮影のできるデジタルカメラを使って様々な光線下で撮影・検証してみる *メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 *ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映像撮影ワークショップ」 板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」 桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」 玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」 玄光社							
評価方法	授業・映像制作への積極的参加、技術への関心と習得度、探究心の度合いなどから総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音専門演習					弦巻 裕、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	効果音やフォーリーの造詣を深める。スタジオワークを学び、仕上げ作業の流れをしっかりと学ぶ。 プレイバック撮影(音に合わせた撮影)のやり方を学ぶ。 撮影部主体のCM作成の現場へ参加。CMの現場から音声の仕上げまでを担当する。 サラウンドでの作品制作をするための基礎を学ぶ。 音声のみでの作品(音声ドラマ)を作成、シナリオの準備から収録、仕上げを学ぶ。							
到達目標	スタジオワークを学ぶ。フォーリーで狙った音が収録できるように技術習得を目指す。 効果音ライブラリーを積極的に使えるようにする。 CM撮影(セット撮影)での録音を行う。 音声のみで他者へ物語を伝える事の難しさを学ぶ。							
授業計画	週数	内 容						
	1	効果音、フォーリー／アニメーションの音声制作① フォーリーアーティストによる特別講義を経て、既存のアニメーションに1から音を付けていく演習。						
	2	効果音、フォーリー／アニメーションの音声制作② アニメーションのアフレコ、フォーリー作業						
	3	効果音、フォーリー／アニメーションの音声制作③ アニメーションのフォーリー作業及び仕込み、ミックス作業						
	4	プレイバック実習／撮影・編集・ミックス プレイバック撮影(音に合わせた撮影)の方法を学ぶ。自分たちで編集することで、現場でどのような処理が必要なのかを学ぶ。						
	5	ショートドラマ撮影への参加 撮影部主体で行われるショートドラマ制作実習へ録音部として参加する。 仕上げを他者が行う場合の音声の収録方法を考える。						
	6	音声ドラマ制作① 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 企画に基づいてアフレコや効果音収録を行う。						
	7	音声ドラマ制作② 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。						
	8	音声ドラマ制作③ 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 仕込み、ミキシングを行い各班発表を行う。						
授業外学習	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行の技術書を熟読する。							
教科書	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行							
主要参考書	-							
評価方法	各週、定期的にミニテストを行う。またアニメ音付け、音声ドラマ制作においてはその作品内容を評価する。 CM撮影やプレイバック実習などは実習への参加姿勢を評価する。 各評価項目の最終成績に占める割合は、ミニテスト 10%、アニメ音付け 30%、ショートドラマ・プレイバック実習 20%、音声ドラマ制作 40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集専門演習					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。デジタル基礎の応用、それぞれの役割を体験し、課題を整理しておくこと。							
授業概要	「技術合同制作」での課題を検証し、さらに高度な技術課題について演習する。							
到達目標	デジタル編集基礎を踏まえて短編作品を作ったり映像作成ソフトの使い方を学ぶ。 他の技術パートとの関連性の深さを知る事で、創作のありかたや編集の重要性を学ぶ。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	01)ノンリニア実習の復習・確認 2年前期でのAVID編集を振り返り、反省点・作業工程を確認する 02) FILM編集・オプティカルおよびスクリプトの書き方・読み方、スクリプターの役割を学ぶ 03) 編集・ダビングスタジオ・現像所などの施設を見学する						
	2	04) 完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。						
	3	05) 完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。						
	4	06) 完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。 07) Photoshop/Illustratorの使い方を学ぶ。						
	5	【編集・撮影・録音/合同演習】 ― ショート・ドラマの演習						
	6	【編集・撮影・録音/合同演習】 ― ショート・ドラマの演習						
	7	【編集・撮影・録音/合同演習】 ― ショート・ドラマの演習						
	8	【編集・撮影・録音/合同演習】 ― ショート・ドラマの演習						
授業外学習	多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	各段階で技能試験を課し、修了を認められなかった場合は補講と追試を課す。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
インプロビゼーション演習					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	文章系。ガイダンスに参加して、課題のプロットを執筆しておくこと。							
授業概要	この授業は脚本に重きをおいて行う。あらすじを元にインプロビゼーション(即興)で学生自ら演じることによって、ドラマの発生、台詞の発生を主観で体験する。頭で書いた物語が実際に生身で動いてみると感情に無理があったり、展開に無理があったりすることを、その都度直しながら撮影し、完成させる。その完成作品を今度は文字に起こし、それを元に脚本直しをすることで、客観的に展開を文字で考え直す。そのうえで主観と客観の差を知り、脚本を書く上での考え方の基本を学ぶ。さらに出来上がった脚本をプロの俳優に演じてもらい作品を作ることで、自分の書いた物を他者に伝えること。主観で感じた感情を外(観客)に見せるにはどうすればいいのかと、という演出面で方法論を学ぶ。							
到達目標	頭だけではなく、心と身体を使って脚本を書くことで、映画における表現方法を学ぶ。「脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)」に向けての現場的役割を習得する。							
授業計画	週数	内容						
	1	提出したプロットを全体及び個人面談で直しを繰り返し、撮影するプロット選び、撮影での役割を決める。						
	2	選ばれたプロットを元にロケハン、衣装決め等を監督に選ばれた者を中心に行う。						
	3	一日ワンシーン、計4日間をかけて撮影をおこなう。						
	4	撮った素材を編集でつなぎ、一度編集ラッシュの講評を受けてさらに編集を直していく。						
	5	出来上がった作品の合評を聞き、それを元に各自採録シナリオに起こし、撮り上がった作品において何がたりなかったか、等を考えてシナリオを作る。						
	6	書き上げたシナリオの講評をマンツーマンでおこない。シナリオを直す。それを計3回おこなう。						
	7	書き上げたシナリオの全体合評を行い、次に撮影する脚本を選び、役割を決める。選ばれた脚本を元にロケハン、美術、衣装などの準備をする。キャストに関しては、プロの俳優事務所をお願いして、キャストティングをしてもらう。						
	8	衣装合わせ、リハーサルの後4日間の撮影を行う。編集・MAの後、発表会をおこない、作品解析をする。						
授業外学習	撮影のための準備、シナリオの執筆等。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	執筆物の成果と、演習における姿勢、熱意を重視し担当教員が総合的に判断する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本専門演習Ⅱ〈短編映画制作〉					齋藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	脚本コース。脚本WS(ワークショップ)Ⅰ、Ⅱを履修していること。							
授業概要	脚本WS(ワークショップ)Ⅰ、Ⅱで書いた脚本を元に30分の短編映画を作る。撮影、録音、編集も含めて、全て自分たちでこなし、ロケ場所、美術、小道具に至るまでの細部を作り上げることで映画制作はあらゆることを具体的に置き換えていかねばならないことを学ぶ。その上で脚本に必要なものは何か、字で伝わることと、画で伝えられることの差異を知り、役者の動き、芝居、編集でのモニタージュを複合的に考えてみる。							
到達目標	色々なパートから脚本を読み一本の映画を作りあげることによって脚本が持つ意味を知り、独り善がりではない、他者に伝わる脚本とは何かを学ぶ。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	脚本選定。						
	2	脚本分析及び脚本直し。 制作準備						
	3	キャスティング、ロケハン。 衣装合わせ、リハーサル。						
	4	撮影。						
	5	撮影。						
	6	撮影。						
	7	編集。						
	8	仕上げ。						
9	完成作品の合評。 完成脚本の分析。							
授業外学習	撮影のための準備。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	演習における姿勢、熱意を重視し担当教員が総合的に判断する。							
教員への連絡方法	授業内でMail、電話番号等を直接、学生に教えます。							

科目名					担当者名			
脚本WS(ワークショップ)Ⅱ (脚本コース)					斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	脚本コース。「脚本WS I」を履修し、60枚の脚本を書き上げていること。							
授業概要	「脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)」の実習の物理条件に照らし合わせたうえで、脚本の直しをおこなう。							
到達目標	「脚本WS I」で書いた脚本をよりブラッシュアップさせる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	テーマに添って物語が通っているかを検証をする。						
	2	ハコ(構成)に戻して、シークエンス、シーンの検証をする。						
	3	登場人物の行動に無理はないか、登場人物の関係性は動いているかを検証をする。						
	4	シーンの数、ロケ場所の問題等、物理条件を検証をする。						
	5	合評して、「脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)」で作る脚本を選出する。						
授業外学習	脚本の執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	「脚本WS I」の授業内で周知							



科目名					担当者名			
演出専門演習Ⅱ〈3分エチュード〉					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	2年前期の「撮影照明専門基礎演習」、「録音専門基礎演習」、「編集専門基礎演習」のうちのいずれか1科目を履修していることが望ましい。その上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モニタージュ論、コンテニューティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モニタージュ論、コンテニューティを考慮した3分間ほどのワンシーン演習用シナリオ(200字詰め原稿用紙8枚以内見当)を執筆、提出すること。(登場人物は3人とすること。)							
授業概要	履修学生が、一人1本、3分間の作品を企画開発・脚本執筆・監督することにより、映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈(テーマの掴み・関係性の確保)・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。また、履修学生がA・B2班に分かれ、一人一人が10本の作品を準備、撮影、ポストプロダクションまで色々な役割でスタッフワークすることにより、映画制作のノウハウを復習し、合同制作および卒業制作に備える。							
到達目標	映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈(テーマの掴み・関係性の確保)・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。							
授業計画	週数	内容						
	1	脚本推敲並びに完成、技術特講:デジタル撮影基礎のワークショップ 準備1:スタッフ編成、キャスティング打ち合わせ、衣裳・小道具打ち合わせ、ロケハンなど						
	2	準備2:ロケハン・撮影スケジュール作成、キャスティング、美術打ち合わせなど						
	3	準備3:衣小合わせ、本読み立ち稽古、総合スケジュール完成、オールスタッフ打ち合わせなど						
	4	「撮影A班」「撮影B班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューティ)の微調整、及び撮影						
	5	「撮影A班」「撮影B班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューティ)の微調整、及び撮影						
	6	「撮影A班」「撮影B班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューティ)の微調整、及び撮影						
	7	仕上げ(ポスト・プロダクション)の開始 編集及び編集ラッシュ・セミ・オールラッシュ、効果アフレコ						
	8	仕上げ(ポスト・プロダクション) 編集及びオールラッシュ、作品完成						
	9	合評会(作品上映と講評)とレポート提出、作品解析						
授業外学習	1年生から行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の3分間エチュード実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分がかかわった実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化するということを反芻しておく。							
教科書	過去の3分エチュードシナリオ及び作品							
主要参考書	『複眼の映像』(橋本忍著)、『「感情」から書く脚本術』(カール・イグレシアス著)、『ドラマ脚本の書き方』(森治美著)、『ストーリー工学「物語」を「創る」』(川邊一外著)など							
評価方法	演習における姿勢、熱意を重視(出席を含む)。また、レポートを提出し担当講師が総合的に判断する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
身体表現専門演習					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。							
授業概要	俳優としての基本態度を学びながら、演劇作品を作り上演する。							
到達目標	俳優としての基本態度、技能の発見。							
授業計画	週数	内容						
	1	舞台の基本学習						
	2	戯曲を読む						
	3	立ち稽古① スケジュールの確定						
	4	立ち稽古②						
	5	立ち稽古③ 小道具集め						
	6	諸準備と稽古① 美術制作 衣装集め 小道具制作						
	7	諸準備と稽古② 美術制作 舞台作り						
	8	通し稽古 照明プラン 音響プラン 上演						
授業外学習	舞台を見ておくこと 肉体訓練を続けること							
教科書	特になし							
主要参考書	講義内で配布							
評価方法	出席・受講態度・レポートで総合的に判断							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
撮影照明専門演習					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。							
授業概要	技術三科合同して作品制作を行う。 撮影コースのみでフィルムを使用して、サイレントの短編映画を制作する							
到達目標	*映画の撮影を理解し作品に反映できる *卒業制作に向けて演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる							
授業計画	週数	内容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術三科」「サイレント短編映画」の趣旨説明</li> <li>・デジタル技術の基本</li> <li>・モニタージュ等の撮影技法についての解説と実践</li> </ul>						
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタージュ等の撮影技法についての解説と実践</li> <li>・移動車や他の特機類の使用方、取扱い</li> <li>・録音・編集と合流して「技術三科」作品の準備開始</li> </ul>						
	3	・「技術三科作品」～準備						
	4	・「技術三科作品」～準備・撮影						
	5	・「技術三科作品」～撮影						
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術三科作品」の仕上げへの参加</li> <li>・16mmフィルムによる「サイレント短編映画」の制作(ラッシュ取り～ポジ編集)～準備</li> </ul>						
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術三科」作品の仕上げへの参加</li> <li>・「サイレント短編映画」の制作～準備・撮影</li> </ul>						
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術三科」作品の仕上げへの参加</li> <li>・「サイレント短編映画」の制作～編集</li> </ul>						
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術三科」作品の仕上げへの参加</li> <li>・「サイレント短編映画」の制作～編集</li> </ul>						
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>*デジタル一眼レフや動画撮影のできるデジタルカメラを使って様々な光線下で撮影・検証してみる</li> <li>*メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加</li> <li>*ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析</li> </ul>							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映像撮影ワークショップ」板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」玄光社							
評価方法	授業・映像制作への積極的参加、技術への関心と習得度、探究心の度合いなどから総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音専門演習					弦巻 裕、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	録音ゼミ、撮影ゼミ、編集ゼミ合同による15分程度の作品制作。 監督はプロの演出家に依頼、技術部としてプロの演出家にどう対峙し作品と向き合うかを学ぶ。 また、映画音楽について理解を深め、5.1サラウンドでの映画の音作りを学ぶ。							
到達目標	プロの監督とどう対峙するのか、その姿勢や制作態度を学ぶ。 ガンマイクでの収録に於いて、マイクの特性を理解し、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 サラウンドの基礎を理解し、作品に応用する。 電気音響の基礎を理解し、デジベルなどの単位を実践的に使えるようにする。 デジタル録音の概念を理解する。セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画音楽 映画音楽の作曲家による授業。 一本の映画がどのような音楽で構成されているかを分析。 プレイバック撮影1 プレイバック撮影とは？音楽プレイバックと音楽以外のプレイバック撮影。プレイバックの様々な方法。 PA機材とそのセッティング						
	2	プレイバック撮影2 音楽のプレスコ・プレイバックの編集 編集ソフト(Final Cut Pro)の使い方。曲に合わせて編集する。 3科合同演習 制作準備 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、						
	3	3科合同演習 制作準備 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、 撮影スケジュールの決定 録音機およびマイクの取り扱い方 マイクアレンジの基本、映像に即したマイクアレンジの仕方						
	4	3科合同演習 制作準備&撮影&ラッシュ リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	3科合同演習 撮影&ラッシュ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め						
	6	3科合同演習 仕上げ 編集期間 ラッシュ&アフレコ&音ロケ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め						
	7	3科合同演習 仕上げ 編集のFIX&オールラッシュ ダビング打合せ&音楽打合せ&フォーリー&音楽&音の仕込み 映像に合わせた効果の収録 音楽の収録や選曲 ならびに収集した音の貼り付けなど						
	8	3科合同演習 仕上げ:音作業 フォーリー&ダビング仕込み 音の完成作業(ダビング)に向けた最終調整						
	9	3科合同演習 仕上げ:音作業 ダビング仕込み&ダビング 音の完成作業(ダビング)に向けた最終調整 発表(上映)と合評&作品総括、技術総括						
授業外学習	課題作品の音楽分析を行う。音楽の曲数、バリエーションの数を調べ、また音楽がそのシーンでどのような意味や目的を持って使われているかを考える。 前期実習で使う録音機 ZOOM F4のマニュアルを読み、録音機の機能と使用方法を理解すると共にマニュアルを読む力を身につける。 プロツールズのマニュアルを読む。完全に理解する必要は無く、どの部分にどのような内容が書かれているかを大雑把に把握する。							
教科書	「映画録音技術」(発行(協)日本映画・テレビ録音協会。金額3240円)							
主要参考書	書籍 はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本 (発行 秀和システム 1200円+税)							
評価方法	1週目にミニテストを行う プレイバック撮影の理解度 10% 2週目以降は準備段階、撮影段階、仕上げ段階ごとに映画制作への積極的な参加の姿勢。作品と撮影行為の理解力。授業項目の理解度。技術への関心度。共同作業でのコミュニケーション能力などを指導教師が話し合い評価する。 準備段階 30%、撮影段階 30%、仕上げ段階 30%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集専門演習					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	撮影照明・録音・編集の技術3コースの学生が、プロの監督の下で短編作品の制作を行う。							
到達目標	2年時に学んだ知識と技術を、現場での制作で具現化することにより、3年後期の「合同制作」に向けた実践的な技術を身につける。編集と、演出・撮影・照明や録音との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図る。							
授業計画	週数	内容						
	1	デジタル編集の基礎授業①(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィールを作成してみる						
	2	デジタル編集の基礎授業②(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィールを作成してみる						
	3	デジタル編集の基礎授業③(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *ドラマ素材を用いて編集を行う						
	4	デジタル編集の基礎授業④(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *ドラマ素材を用いて編集を行う						
	5	撮影～仕上げ 【編集準備】画・音ばらし～組み～【編集】～編集ラッシュ						
	6	仕上げ:ラッシュ 【編集】～編集ラッシュ						
	7	仕上げラッシュ 【編集】～編集ラッシュ～ファイナル・カット(オール・ラッシュ)まで 音楽・効果音打ち合わせ						
	8	仕上げ ～編集データの吐き出し/カット・リスト作成/(タイミング打ち合わせ)/ コンフォーム/グレーディング						
	9	ダビング 0号試写/チェック/反省/発表(上映会)と合評						
授業外学習	多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と撮影行為の理解力、授業項目の理解度、技術への関心度、共同作業でのコミュニケーション能力などを指導教員が話し合い、総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ					安岡 卓治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山
履修条件	ドキュメンタリーコース。							
授業概要	<p>ここでは、インタビュー・ワークを作品制作を通して習得することを目的としている。インタビューは、単なるQ&amp;Aではない。話し手が積極的に語る状況を作り出すことがスタッフに求められる。時としてそれは何らかの信頼関係を築くことであり、場合によっては真剣勝負のような緊迫した駆け引きを求められることもある。地方合宿で未知の場所、未知の人々を取材対象とすることによって、実践的にインタビュー撮影を学習する。</p> <p>さらに、その映像を編集仕上げすることで、自らの課題を洗い出し、合評を通して、何が伝わり、何が伝わらなかったかを厳しく問い返す。</p>							
到達目標	<p>■ドキュメンタリー撮影のワークフローの習得 ■インタビューワークの習得 ■取材・構成・編集ワークの体得</p>							
授業計画	週数	内容						
	1	<p>【合宿プレゼンテーション】取材先地域の基礎情報の提示。取材対象候補者についての概説、参考作品の試写</p> <p>■技術ワークショップ</p>						
	2	<p>【合宿撮影】</p> <p>①取材対象者との打合せ(予備取材日程、撮影日程などの策定) ②インタビュー撮影演習 ③予備取材(構成要素の検証と新たな企画立案の基盤をつくる)</p>						
	3	<p>【合宿撮影】</p> <p>④インタビュー撮影①(ロケ後に撮影内容の検証、文字起し、インタビュープランの再構築) ⑤インタビュー撮影②(前項で確認した課題に基づき、再度インタビュー撮影を行う) ⑥実景・生活・ワーキングシーンの撮影</p>						
	4	<p>【編集Ⅰ】</p> <p>①撮影内容の解析①:全カット表作成。インタビュー文字起し ②撮影内容の解析②:主要な構成要素を検証 ③OK出し:主要な構成要素を支えるカット、手応えのあるカットなどを抽出 ④構成案の策定:OKカットを有効に生かす構成を模索する</p>						
	5	<p>【編集Ⅱ】①構成案の検証:「仮構成案」をもとに主要なカットを実際に確認しながら検証する</p> <p>②編集演習①:ノンリニア編集システムの基本操作の復習 ③編集演習②:ドキュメンタリー編集におけるノンリニアシステムの使用法 ④編集演習③:ノンリニアシステムにおける音声編集操作とテロップ作成操作</p>						
	6	【編集講評】						
	7	<p>【編集Ⅲ】</p> <p>①構成の検証:編集講評で洗い出された構成の問題点について検証する ②再構成:シーンの移動や変更、OK外のカットの洗い出しなど抜本的な再構成を模索する</p>						
	8	<p>【編集Ⅳ】</p> <p>①構成の検証:編集講評で洗い出された問題点を検証する ②ディティールの追求:細部の点検と補正 ③本MA:デジタル音響システムによる音の最終仕上げ</p>						
	9	<p>【合評会】</p> <p>レポート作成</p>						
授業外学習	<p>■文献・ネットによる予備取材 ■企画案策定 ■構成案・編集プランの策定</p>							
教科書	—							
主要参考書	<p>「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か—土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き—映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である—ウォルター・マーチとの対話」みすず書房</p>							
評価方法	実習への参加と取り組み、制作された作品を通じた習熟度、課題レポートへの取り組み							
教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
映画・映像文化専門演習Ⅱ		大澤 信亮、田辺 秋守、伊津野 知多						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山・外部
履修条件	映画・映像文化コース。							
授業概要	<p>映画・映像文化コースに進んだ学生が、4年次の卒業論文の執筆までに必要な知識と技術、思考力を段階的に身につけることを目的とした科目である。授業内容ごとに4つのユニットに分け、3人の教員が担当する。「雑誌制作WS」(演習形式)では、雑誌の企画・編集・コンテンツの作成を行う。「映画祭合宿」(演習形式)では、地方の映画祭に参加して映画祭の運営やプログラミングのあり方について理解を深める。作品分析(演習形式)では、映画を分析するための知識と手法を修得する。「文献購読」(演習形式)では、知識の幅を広げるとともに、文献を読み解く技術を修得する。受講者には、主体的に授業に参加し、ユニットごとに課される課題を確実にこなしていくことが求められる。<u>この授業を不合格になると4年次に進級できなくなるので注意すること。</u></p>							
到達目標	<p>①卒業論文の執筆に必要な書く力と読む力、分析力、論理的な思考力を身につけることができる。 ②雑誌制作の実践を通して、これまで学んできたことを応用できるようになる。</p>							
授業計画	<b>内 容</b>							
	<p>【雑誌制作WS】 担当教員:大澤信亮/講義型:C4(2コマ×8週)/前半・水曜日</p> <p>全8週の授業を通して、今年度の「映画大学だ！」を制作する。規定のコンテンツとしては、長編シナリオ該当作、卒業制作脚本、オープンキャンパスで行われる対談、教員アンケートなどがあるが、それらに加えて新たな企画の提出を義務づける。授業の性質上、授業日は変動する可能性が高い。その日程も含めて初回では話すので、必ず出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュール、学生企画、台割りの決定(4月中)</li> <li>・対談の収録・起こし・まとめ、学生企画の進行と完成(5月中)</li> <li>・長編シナリオ、卒業制作脚本、両者関連原稿、教員アンケート(期間未定)</li> </ul>							
	<p>【映画祭合宿】 担当教員:伊津野知多/講義型:F(その他)</p> <p>福島県須賀川市で開催される「第31回すがわ国際短編映画祭」に参加する2泊3日の合宿。後期の「上映企画WS」に向けて、地域に根付いた映画祭のあり方や、短編映画のマーケットなどについて考察を深めることを目的とする。合宿への参加のほかに、プレ授業、アフター授業を行う。スケジュール等の詳細は後日連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/6(月)3-4限: プレ授業。映画祭についての調査。</li> <li>・映画祭合宿: 5/10(金)夜移動、5/11(土)～5/12(日)映画祭参加、5/12(日)夜に帰宅。</li> <li>・5/20(月)3-4限: アフター授業。各自執筆したレポートの発表と提出。</li> </ul>							
	<p>【作品分析】 担当教員:田辺秋守/講義型:C4(2コマ×8週)/前半・火曜日</p> <p>この授業では、映画を分析することと解釈することを有機的に結びつけるために、どのような理論があり、方法があるのかを考える。その際、映画のシーンやショットを分析するのはもちろんだが、節目節目で長編(フィーチャー映画)を一本とりあげ、各分析方法に従って、分析/解釈を行う。 <u>本年度は教科書を使用する。講義前に、各自購入しておくこと。</u> ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ』見洋書房</p>							
<p>【文献購読②】 担当教員:伊津野知多/講義型:C4(2コマ×8週)/後半・月曜日</p> <p>映画・映像、メディア関連の文献を読む訓練を通して、卒業論文に向けて自らのテーマと方法論を発見する力を身につけることを目的とする。授業では8本程度の課題テキストを精読する。発表では、論旨の要約、関連資料の調査、テキストについての発表者の意見を明確に述べるのが求められる。発表担当者以外も全員が課題テキストを事前に読み込んでおくことが必須である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/10～6/24(3週):準備学習。テキストの読み方やレジュメの作り方、発表の仕方を学ぶ。</li> <li>・7/1～7/15(3週):1人1回ずつ課題テキストについての個別発表、全員でのディスカッションと補足講義。</li> <li>・7/22～7/29(2週):自分のテーマの発見。各自興味を持った論文・テキストを探してきて1人1回ずつ発表。</li> </ul>								
授業外学習	<p>「文献購読」では、発表担当回以外の全テキストを全員が読み込んで授業に臨むこと。また、授業で紹介されたものを中心に、批評や評論、学術的な文献を多読する習慣をつけてほしい。映像作品についても、授業外の時間に多く見ておくこと。読書や映画鑑賞でインプットしたものを、自分の中で消化し、読書メモや鑑賞メモのような形でアウトプットする訓練をしておくことを勧める。</p>							
教科書	<p>【作品分析】ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ』見洋書房(講義前に、各自購入しておくこと。)上記以外の授業では教科書は使用しない。必要な資料はプリント配布する。</p>							
主要参考書	各授業内で紹介する。							
評価方法	<p>ユニットごとの成績をあわせて総合評価する。ユニットごとの評価方法は以下の通り。 【雑誌制作WS】 出席50%+貢献度50%(企画、編集、執筆、司会、テーブル起こしなど) 【映画祭合宿】 プレ授業、アフター授業及び映画祭への参加態度(70%)+映画祭報告レポートの評価点(30%) 【作品分析】 授業参加発言(60%)+授業内レポート(40%) 【文献購読②】 出席とディスカッションへの参加態度(40%)+2回の発表の評価点(60%)</p>							
教員への連絡方法	各教員の大学メールアドレスに連絡すること。							

科目名					担当者名			
脚本WS(ワークショップ) I					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	演出コース、身体表現・俳優コース。「演出専門演習 I (ワンシーン)」を履修していること。							
授業概要	「演出専門演習 I (ワンシーン)」で脚本と演出の関係を学んできたうえで「合同制作」で自分たちが監督をする作品の為に脚本作りなので、より実践的な脚本の作り方を学ぶ。							
到達目標	ペラ30枚のシナリオの完成。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	基礎・長編と学んで来たことを使って、30分での構成、脚本と演出の関係等を学び、「合同制作」で実際撮影するにあたって、可能なこと不可能なことを検討のうえ、プロット執筆に向かう。						
	2	プロットの講評を受け、箱書きにしてみる。						
	3	箱書きの講評を受ける。展開に無理がないか、登場人物が生きて動いているかを検証し、脚本執筆に向かう。書く上では30枚にこだわらずお話の展開を意識させる。						
	4	書いた脚本の個別指導を受ける。その上でここまで学んだ事を具体的に検証する。長い脚本は無駄がないか、短い脚本は何が足りないかを指導する。						
	5	直した脚本の合評をし、「脚本WS II」に向けて直しの方向性を指導する。						
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							



科目名					担当者名			
脚本WS(ワークショップ)Ⅱ					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演習コース、身体表現・俳優コース。「脚本WSⅠ」を履修し、60枚の脚本を書き上げていること。							
授業概要	「合同制作」の実習の物理条件に照らし合わせたくうえで、脚本の直しをおこなう。							
到達目標	「脚本WSⅠ」で書いた脚本をよりブラッシュアップさせる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	テーマに添って物語が通っているかを検証をする。						
	2	ハコ(構成)に戻して、シークエンス、シーンの検証をする。						
	3	登場人物の行動に無理はないか、登場人物の関係性は動いているかを検証をする。						
	4	シーンの数、ロケ場所の問題等、物理条件を検証をする。						
	5	合評して、「合同制作」で作る脚本を選出する。						
授業外学習	脚本の執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	「脚本WSⅠ」の授業内で周知							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (演出コース)					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出コース。2年前期の「撮影照明専門基礎演習」、「録音専門基礎演習」、「編集専門基礎演習」のうちのいずれか1科目を履修していることが望ましい。その上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニュティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニュティを考慮した15分間ほどの短編映画シナリオ(200字詰め原稿用紙30枚以内見当)を執筆、提出すること。							
授業概要	卒業制作に向けた短編映画制作。各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影はデジタル。仕上げはノンリニア編集、完成は5.1サラウンドDCP(デジタルシネマパッケージ)。							
到達目標	演出コースの学生は、映画制作の要として企画、脚本執筆、準備、撮影、演出、制作、仕上げに至るまで作品のテーマ、意図を理解し、それに沿って作品が完成するまで各パートを主導出来るようになること。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	脚本選定および脚本直し・制作準備・キャスティング・ロケハンなど						
	2	制作準備 キャスティング、ロケハンなど						
	3	制作準備 スタッフ編成・合流、キャスティング、ロケハンなど						
	4	メインロケハン・美術打ち合わせ・衣小合わせ						
	5	リハーサル、撮影スケジュールの決定、この週の後半より撮影開始						
	6	撮影&ニュー・ラッシュ						
	7	この週半ばで撮影終了&ニュー・ラッシュ。仕上げ準備:仕上げスケジュール作成、基本的に編集部・録音部と共に作品制作にあたる。編集構成打ち合わせ、						
	8	編集・編集部や録音部と打ち合わせを重ね、作品を作り上げる。セミオール						
	9	オールラッシュ、音構成及び音楽打ち合わせ、効果音打ち合わせ、音楽打ち合わせ						
	10	フォーリー・アフレコ						
	11	ダビング(MA)準備						
	12	ダビング(MA)準備						
	13	ダビング(MA)準備						
	14	ダビング(MA)・デジタル出力・0号試写						
15	作品発表会・合評・振り返り							
授業外学習	1年生から行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の1500ft実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分がかかわった実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化するということを反芻しておく。							
教科書	過去に自分が携わった実習作品の脚本と完成作品							
主要参考書	—							
評価方法	映画制作への積極的な参加の姿勢(熱意や出席など)、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作〈身体表現Ⅱ〉(身体表現・俳優コース)					中原 俊 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。							
授業概要	①身体基礎訓練 ②「合同制作」への参加 ③テキスト購読 ④日本芸能研究							
到達目標	映像の中で俳優がどのように貢献できるかを知る							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	講義・導入授業(自分を知る)／身体基礎訓練①						
	2	身体基礎訓練②						
	3	合同制作①(シナリオ解析・セット作り)						
	4	合同制作②(シナリオ解析・セット作り)						
	5	合同制作③(キャラクター作り)						
	6	合同制作④(出演とスタッフワーク)						
	7	合同制作⑤(出演とスタッフワーク)						
	8	テキスト購読『映画の演技』内容を伝える朗読方法を学ぶ						
	9							
	10	日本芸能① <能>						
	11	日本芸能② <講談Ⅰ>						
	12	日本芸能② <講談Ⅱ>						
	13	日本芸能③ <操り人形>						
	14	講義(映像の中の演技)						
15	作品発表会・合評会・振り返り授業							
授業外学習	①課題の練習 ②衣小集め・メイク ③テキストのレジユメ作り・表現方法を考える							
教科書	映像資料・授業内の配布テキスト							
主要参考書	『映画の演技』マイケル・ケイン著 劇書房							
評価方法	熱意(50%) 俳優としての自覚度(50%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (撮影照明コース)					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。2年後期「技術合同専門演習」を履修していること。							
授業概要	脚本があり演出があり演技があり、映画を創作する行程で「背景の選択」「画面構成」「光のコントロール」を計画想像しどう作品に反映させるか！映画制作を通じて学んでいく。 多くのスタッフ・パートと関わり作品制作をおこなうことによりコミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。							
到達目標	*映画制作の多様性を深く理解すること *技術の前に思考と創造あること *撮影・照明技術が作品にとっていかに重要であるかを深く理解すること							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	・脚本に基づき撮影の考え方 解説と実践① ・実習ワークフロー講義						
	2	・合同制作の趣旨説明と脚本の配布 ・脚本に基づき撮影の考え方 解説と実践② ・セット美術打合せへの参加						
	3	・演出、録音、編集と合流して、合同制作の準備						
	4	～準備						
	5	～準備・撮影						
	6	～撮影						
	7	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・16mmフィルムによるCM制作、企画決定 (ネガテレシネ)						
	8	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	9	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	10	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	11	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
	12	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
	13	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
	14	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
15	作品発表会・合評・振り返り							
授業外学習	*関わるシナリオと同系統の小説の解読 *映画作品鑑賞・演劇鑑賞 *様々な光線下でフィルム写真撮影・プリントして検証する							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画の文法」ダニエル・アリホン著 / 紀伊国屋書店 「映画の文法/日本映画のショット分析」今泉容子著 / 彩流社 「カメラ アシスタント マニュアル」 翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」 古賀信明著 / スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	映画制作の積極的参加、技術への関心と探究心、作品に関わる各パート・スタッフの役割についての理解、共同作業でのコミュニケーション能力、などから総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
合同制作(ドラマ)(録音コース)		弦巻 裕、若林 大介 ほか						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	卒業制作に向けた短編映像制作。 各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影はデジタル。仕上げはノンリニア編集、完成は5.1サラウンドDCP(デジタルシネマパッケージ)。 1年半専門課程で学んだことを主体的に発揮し、作品作りに臨む。 録音コースはガンマイクに加え仕込み用のワイヤレスマイクを使用。多チャンネルでの録音と仕上げでのその処理方法を学ぶ。							
到達目標	マイクの特性を理解した上で、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 適切な信号レベルで録音する必要性を理解し、実践面でも適切なレベルで歪みのない録音を出来るようにする。 ワイヤレスマイクを使用したマルチトラック録音を行い、仕上げでの選択肢を増やす事を学ぶ。 セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。 学生の力主体で1本の作品を完成させる。 録音部として映画作りに関わり、各パートと協同して自分たちの作品を完成させる。							
授業計画	週数	内容						
	1	マルチトラック録音/ワイヤレスマイク/ENG録音 ワイヤレスマイクの基礎。電磁波と電波の基礎と電波法の理解。 多チャンネルでの録音方法とその注意点など。 ドキュメンタリーやテレビ収録などで見られる撮影隊が行う録音方法であるENG収録について学ぶ。						
	2	効果音特講 アニメーションに合わせ、実際の音付け作業やフォーリーを実際行う。						
	3	効果音特講 アニメーションに合わせ、実際の音付け作業やフォーリーを実際行う。 収録から整音、ダビングまでをおこなう。						
	4	合同制作 制作準備 スタッフ編成および演出部に合流、準備スケジュールの作成、キャストティング、ロケハン(ロケーションハンティング)、衣装合わせ、美術・小道具、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	合同制作 制作準備&撮影&ラッシュ 合同実習に向け、機材のセッティングの確認および未学習の機材を学ぶ。 マイクオペレーションの基礎の確認						
	6	合同制作 現場:撮影&ラッシュ						
	7	合同制作 仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	8	合同制作 仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	9	合同制作 仕上げ:編集のFIX オールラッシュ、ダビング打合せ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ、フォーリー、音の仕込み						
	10	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	11	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	12	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	13	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	14	合同制作 仕上げ:ダビング仕込み、ダビング						
15	合同制作 デジタル出力・0号試写 作品発表会・合評							
授業外学習	JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』を使い、自身の音響技術の理解度を確認する。 後期実習で用いるRoland R88とSONY WRR-861,WRT-822のマニュアルを熟読し、機材の使い方を身につけると共にマニュアルを読む力を身につける							
教科書	—							
主要参考書	書籍 サウンドとオーディオ技術の基礎知識 (リットーミュージック 1600円+税) JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』							
評価方法	1週目ワイヤレス・マルチトラック 10%、2～3週効果音特講 15%、4週の準備期間 15%、5週～6週の撮影期間 30%、7週～13週までの仕上げ期間 30%。以上4つの段階毎に映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (編集コース)					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	各専門コースに分かれて学んできた3年生(演出/撮影照明/録音/編集コース)による合同実習。脚本をもとに各班に別れて撮影し、編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。							
到達目標	(各専門コースが合同演習にすることによって)コミュニケーション能力と、編集思考・技術を習得することを目指す。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	01)ノンリニア実習の復習・確認 3年前期でのAVID編集を振り返り、反省点・作業工程を確認する 02)映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)						
	2	03)映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)						
	3	04)映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用) 05)予告編ディレクターの予告編制作事前講義						
	4	06)さまざまな予告編の参考試写 07)予告編作成の講義と構成 08)予告編の作成(過去の実習作品を素材に予告編を作成することにより限られた素材の中から選び出す能力・構成する能力を引き出す)						
	5	09) 予告編の作成						
	6	10) 作成した予告編の発表会(作成した予告作品の校内発表会・批評・総括) 11) プレスコアリング撮影素材を編集する						
	7							
	8	12) 随時、編集準備を開始する 13) 音付け及び編集作業～オールラッシュへ 編集が固まるまで編集ラッシュという試写を繰り返し、精査する。 オールラッシュ						
	9	音楽および音響効果打ち合わせ、後最終直し。 14) 音声・映像データの吐き出し						
	10							
	11	15) 撮影照明・編集コース合同でグレーディングの実際を学ぶ カット表の作成(助監督あるいはスタッフとデータを見て作成する) 16) 仕上げ準備(コンフォーム)						
	12	17) グレーディング 18) 仕上げ準備						
	13	19) ダビング						
	14	20) 作品のオーサリング						
15	21) 作品発表会・合評							
授業外学習	デジタル編集習得のため、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー専門演習Ⅲ					安岡 卓治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	ドキュメンタリーコース。							
授業概要	ドキュメンタリーのみならず、企画は、作品の概要を伝えるものとして映画制作を準備する上で大きな役割を担っている。台湾の映画監督ホウ・シャオシェンは、「映画は映画以外のものによって作られる」という。この授業では、様々な企画の在り方を講義し、学生自身が立案した企画書を検証しながら、その独自性、先見性、実現性などを探ってゆく。企画書に表れた様々な取材対象者や出来事へのアプローチ方法、主題の広がりについて論議を深めながら、作品の可能性を追求する。それぞれの企画のディテールから逆照射される作り手自身の在り処を見出すことも大きなねらいである。卒業制作を前提として、ドキュメンタリー制作の過程とスタッフの在り方や役割、主題と手法の在り方を知る。							
到達目標	■卒業制作作品の企画立案							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証①」 ■技術ワークショップ ■作品研究/ゲスト講師講義						
	2	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証②」 ■作品研究/ゲスト講師講義						
	3	■講義「ドキュメンタリーの多様性」①個人に内在する主題とデジタルの新たな手法 ②社会を見つめる視点 ③現実から描き出されるもの ④心象描写 ■作品研究/ゲスト講師講義						
	4	■講義「企画論」①主題と構成要素 ②登場人物とアクション ③作品のフォルム ④作品規模と制作規模 ■作品研究/研究発表						
	5	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②意図をつむぐ ■作品研究/研究発表						
	6	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②実証の情報収集 現実を凝視せよ、すべてを疑え ■作品研究/研究発表						
	7	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②登場人物の検証 ■作品研究/研究発表						
	8	■技術ワークショップ ①基礎技術の復習 ②各作品企画に合わせた撮影編集課題への取り組み						
	9	■4年卒業制作合評会						
	10	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究/研究発表						
	11	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究/研究発表						
	12	■企画ワークショップ 卒制企画班編成						
13	■企画ワークショップ 卒制企画班別指導							
授業外学習	■取材・調査・企画練成 ■作品づくりを前提にした技術研修							
教科書	—							
主要参考書	「ドキュメンタリー・ストーリーテリング—『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か—土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き—映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である—ウォルター・マーチとの対話」みすず書房							
評価方法	取材調査レポート課題企画書への取り組み、編成班での担当領域への取り組み							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本専門演習Ⅲ〈脚色〉					荒井 晴彦 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース。							
授業概要	原作(小説など)を元に長編シナリオを執筆する。小説とシナリオは同じ物語でもいかに違うかを知り、映画表現とは何かを学ぶ。自分の外に物語を置く事によって、知らない世界を調査等によって知り、他者(世界)を認識させる。コンストラクション(構成)ダイアログ(台詞)ト書き等、さらに専門的技術を習得させると同時に長編を書く持続力と体力をやしなう。							
到達目標	脚色を書き上げることによって、シナリオの構造、ト書き等の技術を習得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	書いて来た箱書きを元に各自、その原作を選んだ理由を発表させ、原作のテーマを見つけさせる。(場合によっては、原作の変更も示唆する)						
	2	原作をそのまま脚本形式に起こさせ(ベタ起こし)、小説とシナリオの表現の違いを認識させる。						
	3	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。①長編小説の場合。						
	4	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。②短編小説の場合。						
	5	ベタ起こしを元に箱書きを書き、映画としての構成を考える。						
	6	それぞれが、どういう映画にするかを考えて、プロットにする。						
	7	プロットを元に調べなければならないことや、取材すべきことを指導する。						
	8	本や、取材で得たことを元にさらにプロットを練る。						
	9	プロットを元に箱書きを作る。						
	10	脚本執筆に入る。						
	11	既存の原作物の映画を観て、脚本～原作と逆にたどって、解析する。						
	12	書き上げた初稿を箱書きに戻し、検証する。検証を元に脚本を直す。						
13	マンツーマンで脚本の直しを指導する。 合評。							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導教員がその都度指示をします。							
評価方法	出席及び執筆物の成果を総合的に評価。							
教員への連絡方法	授業内で周知							



科目名		担当者名						
映画・映像文化専門演習Ⅲ		石坂 健治、田辺 秋守、伊津野 知多						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	映画・映像文化コース。							
授業概要	<p>映画・映像文化コースに進んだ学生が、4年次の卒業論文の執筆までに必要な知識と技術、思考力を段階的に身につけることを目的とした科目である。授業内容ごとに3つのユニットに分け、3人の教員が担当する。「上映企画WS」(演習形式)では、学外で行う映画祭の企画から実施までを行い、実践的な力を養う。「作品批評研究」(演習形式)では、「上映企画WS」と連動して、映画作品を見る力を高め、映画批評を書く技術を修得する。「卒論準備演習」(演習形式)では、4年次の卒業論文のテーマを絞り込み、研究計画を立てるまでの準備を行う。</p> <p>受講者には、主体的に授業に参加し、ユニットごとに課される課題を確実にこなしていくことが求められる。この授業を不合格になると4年次に進級できなくなるので注意すること。</p>							
到達目標	<p>①卒業論文の執筆に必要な書く力と読む力、分析力、論理的な思考力、プレゼンテーションの技術を身につけることができる。</p> <p>②上映企画の実践を通して、これまで学んできたことを応用できるようになる。</p>							
授業計画	内 容							
	<p>【上映企画WS】 担当教員:石坂健治/講義型:A2(2コマ×15週)/前半後半・月曜日</p> <p>・創作コースが映画を制作するのに対し、映画・映像文化コースは「映画祭を制作する」。それがこの授業である。</p> <p>・授業の順序としては、①映画上映の意義と作法を学び、②受講生それぞれが特集上映会の企画書を作成、③コンペにより最優秀企画書を選出、④上映交渉、ゲスト交渉、チラシ・HP作り、観客動員などを全員で手分けしておこない、⑤フィナーレとして企画を実際に映画館で開催する。</p> <p>・2015年度は「ペランダから見る世界 映画の中の団地」、2016年度は「めをと映画祭 愛と霧りの風景」、2017年度は「おやこ映画祭 絆と狂気のカルテ」、2018年度は「ディストピアを撃て！映画祭」を川崎市アートセンターで開催し、学内外の観客から好評を博した。受講生の諸君には更なる飛躍を期待したい。</p>							
	<p>【作品批評研究】 担当教員:田辺秋守/講義型:C4(2コマ×8週)/前半・木曜日</p> <p>作品の分析、解釈、批評は緊密に関係しあっている。この授業では、作品を分析し、解釈した上で、いかに自分なりの映画批評を書くかを学ぶ。先行する「批評」に関する歴史を振り返り、どのようなタイプの批評があるのかを理解する。その後、実際に批評を「書く」という訓練をしていく。</p> <p>前期同様、ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ』見洋書房、を教科書として使っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 批評とは何か:映画批評小史</li> <li>2 映画評論の四つの機能</li> <li>3 映画を価値評価すること</li> <li>4 映画批評を書く1</li> <li>5 作品上映:その批評の実践的な分析1</li> <li>6 映画批評を書く2</li> <li>7 作品上映:その批評の実践的な分析2</li> <li>8 映画批評を書く3</li> </ol>							
	<p>【卒論準備演習】 担当教員:伊津野知多/講義型:F(その他)</p> <p>卒業論文に向けて自らのテーマと方法論を発見すること、それを発表や研究計画書という形で具体化し、他者に説得的に示す上で必要な技術を修得することを目的とする。具体的な内容とスケジュールは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/30(月)3-4限: 3年研究発表会(卒論のためのプレ発表)①</li> <li>・10/9(水)3-4限: 発表会後の事後授業。各自の発表の問題を洗い出し、今後の課題を設定する。</li> <li>・10/30(水)3-4限: WordスキルアップWS。</li> <li>・11/6(水)3-4限: パワーポイントWS。</li> <li>・12/16(月)3-4限: 3年研究発表会(卒論のためのプレ発表)②</li> <li>・2月下旬: 「卒業論文研究計画書(仮)」提出。</li> </ul>							
授業外学習	「上映企画WS」では東京国際映画祭などに参加することがある。これ以外にも意識的に多くの映画作品を見ておくこと。また、卒業論文に備え、テーマの絞り込み、必要な文献の調査を各自で行っておくこと。批評や評論、学術的な文献を多読する習慣をつけてほしい。							
教科書	【作品批評研究】ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ』見洋書房 上記以外の授業では教科書は使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	各授業内で紹介する。							
評価方法	<p>ユニットごとの成績をあわせて総合評価する。ユニットごとの評価方法は以下の通り。</p> <p>【上映企画WS】 企画書80%、平常点(出席、イベントでの働きぶり、など)20%</p> <p>【作品批評研究】 授業参加発言(60%) + 授業内レポート(40%)</p> <p>【卒論準備演習】 各回授業への出席(50%) + 2回の研究発表の内容(50%)。</p> <p>「卒業論文研究計画書(仮)」の提出は必須だが、成績評価の対象にはしない。</p>							
教員への連絡方法	各教員の大学メールアドレスに連絡すること。							

科目名					担当者名			
卒業制作<ドラマ> (演出コース)					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	演出コース。卒制候補脚本を期限までに提出すること。							
授業概要	<p>【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>【後期】 映画は、観客と出会う初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。</li> <li>・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。</li> </ul>							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考</li> <li>(2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票</li> <li>(3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始</li> <li>(4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど</li> <li>(5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出</li> <li>(6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認</li> <li>(7) 7月9日…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック</li> <li>(8) 7月末日…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ</li> <li>(9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ</li> <li>(10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始</li> <li>(11) 9月下旬…グレーディング、ダビング(MA)</li> <li>(12) 10月上旬…0号試写、完成</li> <li>(13) 11月下旬…合評会</li> <li>(14) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成</li> <li>(15) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ</li> <li>(16) 1月下旬…劇場公開準備</li> <li>(17) 卒制作品劇場公開</li> </ol>							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プレスリリース作成</li> <li>■SNS展開</li> <li>■チラシ・ポスター・チケットの配布</li> <li>■予告編制作</li> </ul> ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
卒業制作<ドラマ> (撮影照明コース)					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。							
授業概要	<p>【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>【後期】 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。</li> <li>・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。</li> </ul>							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考</li> <li>(2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票</li> <li>(3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始</li> <li>(4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなど</li> <li>(5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出</li> <li>(6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認</li> <li>(7) 7月9日…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック</li> <li>(8) 7月末日…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ</li> <li>(9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ</li> <li>(10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始</li> <li>(11) 9月下旬…グレーディング、ダビング(MA)</li> <li>(12) 10月上旬…0号試写、完成</li> <li>(13) 11月下旬…合評会</li> <li>(14) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成</li> <li>(15) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ</li> <li>(16) 1月下旬…劇場公開準備</li> <li>(17) 卒制作品劇場公開</li> </ol>							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	—							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネムムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネマ旬報							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
卒業制作<ドラマ> (録音コース)					弦巻 裕、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	<p>【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>【後期】 映画は、観客と出会う初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。</li> <li>・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。</li> </ul>							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考</li> <li>(2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票</li> <li>(3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始</li> <li>(4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど</li> <li>(5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出</li> <li>(6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認</li> <li>(7) 7月9日…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック</li> <li>(8) 7月末日…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ</li> <li>(9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ</li> <li>(10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始</li> <li>(11) 9月下旬…グレーディング</li> <li>(12) 10月上旬…ダビング(MA)</li> <li>(13) 10月下旬…0号試写、完成</li> <li>(14) 11月下旬…合評会</li> <li>(15) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成</li> <li>(16) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ</li> <li>(17) 1月下旬…劇場公開準備</li> <li>(18) 卒制作品劇場公開</li> </ol>							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
卒業制作〈ドラマ〉（編集コース）					阿部 互英 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	<p>【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>【後期】 映画は、観客と出会う初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。</li> <li>・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。</li> </ul>							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考</li> <li>(2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票</li> <li>(3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始</li> <li>(4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなど</li> <li>(5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出</li> <li>(6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認</li> <li>(7) 7月9日…撮影クランク・イン(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック</li> <li>(8) 7月末日…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ</li> <li>(9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ</li> <li>(10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始</li> <li>(11) 9月下旬…グレーディング、ダビング(MA)</li> <li>(12) 10月上旬…0号試写、完成</li> <li>(13) 11月下旬…合評会</li> <li>(14) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成</li> <li>(15) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ</li> <li>(16) 1月下旬…劇場公開準備</li> <li>(17) 卒制作品劇場公開</li> </ol>							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
卒業制作(ドキュメンタリー)					安岡 卓治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	ドキュメンタリーコース。「ドキュメンタリー専門演習Ⅰ」、「ドキュメンタリー専門演習Ⅲ」を修了していること。							
授業概要	<p>【前期】ドキュメンタリーに限らず、映画、ひいては表現活動すべてに底通する源泉は、一個一個の個人の中にある問題意識や美意識である。伝えたいという心、見せたいという心、それが源にある。学生ひとりひとりに固有の作品があるべきだ。これまでのドキュメンタリー制作を軸とした専門演習で、各学生はそれぞれの企画を練り上げてきた。これらを映画作品として作り上げることが本講座のプロセスである。学生各々の企画提案を学生講師で協議しながら、企画主旨を共有できるスタッフによって制作班を編成し、それぞれの企画の実現に取り組む。本講座の履修期間内に完成することが困難な企画や、具体的な取材対象者、団体等の協力を得ることが困難な企画は制作対象から外れる場合がある。取材、撮影、編集・・・制作の過程で数々の困難や失敗を経験しながら、映画を知り、人間を知る。</p> <p>【後期】映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒制としてドキュメンタリー映画の制作を体験しながら、それぞれの役割を全うすること。</li> <li>・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。</li> </ul>							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ～3月上旬…企画書協議＋班編成</li> <li>(2) ～4月上旬…班別協議＋班別指導</li> <li>(3) ～4月上旬…撮影設計・スケジュール策定・取材調査</li> <li>(4) 4月上旬～7月上旬…撮影</li> <li>(5) 4月上旬～7月上旬…撮影後随時ラッシュチェック</li> <li>(6) 4月上旬～7月上旬…映像デジタル化・編集データ整理・文字起こし</li> <li>(7) 7月上旬…構成案策定</li> <li>(8) 7月下旬…第一次編集・音声調整</li> <li>(9) 8月上旬…編集チェック・再構成</li> <li>(10) 9月中旬…第二次編集</li> <li>(11) 9月下旬…編集チェック・再構成・追加撮影・資料撮影 他</li> <li>(12) 9月中旬…最終編集</li> <li>(13) 9月下旬…ゼミ内講評</li> <li>(14) 10月上旬…編集直し・MA</li> <li>(15) 11月下旬…合評会</li> <li>(16) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成</li> <li>(17) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ</li> <li>(18) 1月下旬…劇場公開準備</li> <li>(19) 卒制作品劇場公開</li> </ol>							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>■取材・調査・企画練成</li> <li>■撮影・録音・編集等の技術練成</li> <li>■プレスリリース作成</li> <li>■SNS展開</li> <li>■チラシ・ポスター・チケットの配布</li> <li>■予告編制作 ほか</li> </ul>							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	<p>「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き―映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である―ウォルター・マーチとの対話」みすず書房、「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報</p>							
評価方法	①卒制作品への取り組み、②出席と各課題の提出 ①と②を総合的に評価							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業制作〈公演〉					天願 大介、中原 俊 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。「身体表現専門演習」「合同制作」を履修していること。							
授業概要	<p>【前期】映像演技の向上を目指して、3年演出専門演習Ⅰ(3分エチュード)と3年脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)へ参加し、それを経て演出家のWSでさらなる向上をめざす</p> <p>【後期】演目の選定、台本制作、稽古、演出、宣伝など舞台制作を総合的に行い、卒業公演を上演する。</p>							
到達目標	演出の助けになる俳優の完遂 / 一般公開できる卒業公演							
授業計画	内 容							
	<p>(1) オーディションの受け方</p> <p>(2) 映像演技基礎訓練</p> <p>(3) 3年演出専門演習Ⅰ(3分エチュード)への参加</p> <p>(4) 3年脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)への参加</p> <p>(5) 演技WS①</p> <p>(6) 演技WS②</p> <p>(7) 卒業公演に向けた演目の選定 スタッフの選定</p> <p>(8) 台本づくり①</p> <p>(9) 台本づくり②</p> <p>(10) 稽古①</p> <p>(11) 稽古②</p> <p>(12) 稽古③</p> <p>(13) 稽古④ 諸準備</p> <p>(14) 稽古⑤ 諸準備</p> <p>(15) 卒業公演</p>							
授業外学習	映画、演劇、芸能を中心に素養を深める。							
教科書	作品によって指定する。							
主要参考書	適宜、通達、もしくは配布する。							
評価方法	出席と受講態度。すべて出席すること。							
教員への連絡方法	大学事務を通じて連絡すること。							

科目名					担当者名			
卒業シナリオ I					荒井 晴彦、斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース。							
授業概要	脚本コースに進んだ人は、外に出せる250枚のシナリオを持って卒業することを目指します。ここまで学んできたシナリオ技術と、人としての成長を、劇場用映画の長さにごちこんで、一般映画と肩を並べられるレベルまで到達できるまで個別指導をおこないます。							
到達目標	250枚のオリジナル脚本の完成。							
授業計画	内 容							
	<p>以下のようなスケジュールで進行する。</p> <p>① 4月： 企画開発。</p> <p>② 5月～6月： プロット作り。</p> <p>③ 7月～8月下旬： シナリオ執筆。</p> <p>④ 9月上旬： 合宿によるシナリオ直し。</p> <p>⑤ 9月下旬： シナリオの提出</p> <p>○ 場合によってはワンシーンもしくはワンシーケンス撮影をして、それを観て、シナリオの検証をおこなう。</p> <p>これらの過程を経て、250枚のオリジナルシナリオを完成させ、9月末〆切のシナリオ作家協会主催の「新人シナリオコンクール」への応募を目指す。</p> <p>10月からは、120枚のTVドラマのシナリオ作りにとりかかり、11月末〆切の「テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞」の応募を目指す。</p> <p>参考のTVドラマを観せて、テレビドラマ研究をやった後に、執筆にとりかかる。</p>							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれの書くシナリオの題材にあった映画、シナリオ、書籍などを、教員がその都度提示します。							
評価方法	執筆物の成果。							
教員への連絡方法	授業内で周知							



科目名					担当者名			
卒業シナリオⅡ					荒井 晴彦、斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	4	4	後期	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース。「卒業シナリオⅠ」でシナリオを提出していること。							
授業概要	「卒業シナリオⅠ」で書き上げたシナリオを全体で読み合わせ、校正をし、一冊の文集にまとめる。							
到達目標	①卒業シナリオ集の完成。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力が身につけられる。							
授業計画	内 容							
	卒業シナリオ集の制作 およそのスケジュール ① 12月： 掲載シナリオ決定(前期の長編かTVドラマかを各自選択) ② 1月上旬～中旬： 校正作業(ひと作品につき三人で校正) ③ 1月下旬～2月： 文集完成(授業の一環として学生主体で行う)							
授業外学習	—							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	「卒業シナリオ集」作成の作業への参加態度から評価する。							
教員への連絡方法	「卒業シナリオⅠ」で周知。							

科目名					担当者名			
卒業論文Ⅰ					高橋 世織、石坂 健治、大友りお、田辺 秋守、伊津野 知多、ハン・トンヒョン、大澤 信亮、藤田直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2016～	専門	選択必修	演習	8	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	映画・映像文化コース。							
授業概要	<p>映画・映像文化コースでの学習の集大成として、学生自らが長期間にわたって主体的に行う研究である。それぞれに研究テーマを見つけ、関連する資料を調査してそれを読み解き、まとめた長さの文章に論理的にまとめあげることが求められる。分量は、24,000字以上40,000字程度まで(400字詰原稿用紙換算60枚～100枚程度)。</p> <p>それぞれの研究テーマと学生からの希望に応じて指導教員(主査・副査)がつき、個別指導を繰り返して研究を進めていく。「卒業論文研究計画書」の提出と、2度の「卒論中間発表会」、定期的な草稿の提出、および卒論提出後に「卒業研究発表会」で発表することも必須である。4/4(木)のガイダンス時に卒論ガイダンスもあわせて行うので必ず出席すること。</p>							
到達目標	<p>①論理的な思考法、文章表現やプレゼンテーションの技術など、これまで学んできたことを応用、実践できるようになる。</p> <p>②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力を身につける。</p>							
授業計画	内 容							
	<p>卒業論文提出までの間は、随時主査による個別指導を受けて各自で研究を進める。前期中に、プレゼンテーションワークショップを実施する(全員参加必須)。「卒論中間発表会①②」では、全員が研究経過を報告し、教員からのアドバイスを受ける。②は合宿として実施する。8月以降は、毎月一度草稿の提出を課す。最後の「卒業研究発表会」は、ポスターセッション(自分の卒論の内容をポスターにして掲示し、来場者に解説する)の形式で行う。準備と当日の進行は学生が主体となって担う。</p> <p>全体としては以下のようなスケジュールで進行する。具体的な日程については確定次第連絡する。</p> <p>① 4月: 4/5(木)卒論ガイダンス、個別指導開始</p> <p>② 6月末: 「卒業論文研究計画書」(卒論題目・研究概要・構成案)の提出 (伊津野宛にメール提出)</p> <p>③ 7月上旬: プレゼンテーションワークショップ実施 ⇒夏合宿までに各自のポスターをA4用紙1枚で作成しておくことが課題</p> <p>7月下旬: 卒論中間発表会①</p> <p>④ 8月初旬: 8000字レポート提出 (主査宛にメール提出)</p> <p>⑤ 8月下旬: 卒論中間発表会②【卒論合宿】</p> <p>⑥ 9月末: 草稿①提出 (主査宛にメール提出)</p> <p>⑦ 10月末: 草稿②提出 (主査宛にメール提出)</p> <p>⑧ 11月末: 初稿提出 (主査宛にメール提出)</p> <p>⑨ 12月中旬: 卒業論文の提出</p> <p>⑩ 2020年1月下旬: ポスターデータの提出 (伊津野宛にメール提出)</p> <p>⑪ 2020年2月中旬: 卒業研究発表会(ポスター展示形式)</p>							
授業外学習	教員は随時アドバイスや指導をするが、卒業論文の基本は授業外の自主的な学習である。各自主体的に取り組んでほしい。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれのテーマに応じて参考文献を助言する。							
評価方法	個別指導への参加態度、段階ごとの草稿の提出、「卒業論文研究計画書」の内容、「卒論中間発表会①②」での発表内容という、卒業論文執筆のプロセスにおける取組みを総合的に評価する。「卒業研究発表会」での発表も必須だが、内容を成績評価の対象にはしない。							
教員への連絡方法	主査・副査に直接問い合わせること。 なお、卒業論文に関する連絡事項は大学のメールアドレス宛に一斉送信するので、チェックを怠らないようにしてほしい。							

科目名					担当者名			
卒業論文Ⅱ					高橋 世織、石坂 健治、大友 りお、田辺 秋守、関川 夏央、伊津野 知多、ハン・トンヒョン、大澤 信亮、藤田直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	4	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	映画・映像文化コース							
授業概要	「卒業論文Ⅰ」と連動する科目である。卒業論文を提出した後、主査・副査との三者面談形式による「卒業論文口述試験」を受けること、「卒業論文集」に掲載する最終原稿を提出すること、「卒業論文集」の校正作業に参加することが必須である。							
到達目標	①論理的な思考法、文章表現やプレゼンテーションの技術など、これまで学んできたことを応用、実践できるようになる。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力を身につけることができる。							
授業計画	内 容							
	<p>以下のようなスケジュールで進行する。具体的な日程は確定次第連絡する。</p> <p>① 12月中旬: 卒業論文の提出</p> <p>② 2020年1月上旬: 卒業論文口述試験(主査・副査との三者面談形式)</p> <p>③ 2020年1月下旬: 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出 (大澤宛にメール提出)</p> <p>④ 2020年2月: 「卒業論文集」の校正作業 (授業の一環として学生主体で行う)</p>							
授業外学習	教員は随時アドバイスや指導をするが、卒業論文の基本は授業外の自主的な学習である。各自主体的に取り組んでほしい。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	卒業論文の内容と口述試験の成績によって評価する(学修成果の評価)。 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出と校正作業への参加は必須だが、内容を成績評価の対象にはしない。							
教員への連絡方法	主査・副査に直接問い合わせること。 なお、卒業論文に関する連絡事項は大学のメールアドレス宛に一斉送信するので、チェックを怠らないようにしてほしい。							

科目名					担当者名			
博物館展示論					佐藤 実			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2017～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2016	資格(博物館学芸員)	自由	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>展示の意義、展覧会のコンセプト立案、展覧会を立ち上げるまでの様々な局面など展示に関わる概要と一連の作業について講義する。</p> <p>実際に行なわれた美術展覧会(企画展、コレクション展)の事例について講義する。</p> <p>展覧会の企画立案を経験するため、企画書作成、プレゼンテーションを実施し、講評を反映した最終の企画書を提出してもらう。</p> <p>尚、授業の進行により各回の計画とは異なる進行で授業を進める場合がある。</p>							
到達目標	<p>公立美術館・博物館・文化施設における展示をすることの意義、展覧会の進め方、技法など、展示に関する基礎的な教養を学ぶ。また、展示を作る上で重要な企画の立案については、各自プレゼンテーションを経て習得することを目標とする。</p>							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス・授業内容の確認						
	2	博物館・美術館展示の歴史、展示の意味						
	3	展覧会の進め方-1 立案～段取りの局面						
	4	展覧会の進め方-2 段取りの局面 計画段階						
	5	展覧会の進め方-3 段取りの局面 制作段階1						
	6	展覧会の進め方-4 段取りの局面 制作段階2						
	7	展覧会の進め方-5 機能的局面～事後評価の局面						
	8	来館者の関心、課題レポートのレビュー						
	9	展示の技法-1 展示空間に関するデザイン						
	10	展示の技法-2 人の流れの誘導						
	11	展示の技法-3 ストーリーラインとテキスト						
	12	展覧会案のプレゼンテーションと講評						
	13	展覧会の事例-1 コレクションを活用した展覧会の事例						
	14	展覧会事例-2 新たな技術を用いた展示手法、市民協働、市民参画、カタログの事例						
15	最終レポートのレビュー、授業のまとめ							
授業外学習	日頃から各自博物館美術館の実際の展覧会に足を運び、授業内で学んだ展示の意義と技法の観点から見学すること。							
教科書								
主要参考書	『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』発行年2004年3月 丸善出版							
評価方法	レポート提出→プレゼンテーションの実施→最終レポート提出がひとつの流れであり、この過程を必須とする。最終レポート内容(50%)と受講態度(50%)で評価する。							
教員への連絡方法	授業内で連絡方法を指示							

科目名					担当者名			
博物館経営論					志賀 健二郎			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2017～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2016	資格(博物館学芸員)	自由	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>「経営」は利用者がいて初めて成り立つ。自らがもつ経営資源を最大限に活用して、利用者に満足を提供し、共感の輪を広げていく努力が求められることは、博物館も一般の営利企業と同様である。また、「経営」は単に管理者だけのものではなく、博物館においても、基幹業務を担う学芸員は「経営」の仕組みを知り、それぞれの職分に応じて「経営」を実践していくことが求められる。本講義では、そうした点を基本において、博物館が「経営」を行っていく上での基本的な考え方と、「経営」の効果をより高めていくための展開を、最近の日本の博物館の具体的な事例などもまじえながら考察していく。</p>							
到達目標	<p>博物館における「経営」の必要性、「経営」を成り立たせるための要素と、現在日本の博物館に期待されている社会的な役割や博物館の「経営」課題を理解し、学芸員としてそれを「博物館経営」に活用できるようになることを目指す。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1	・はじめに:博物館経営の特性 —学芸員資格に「博物館経営論」が必須となった理由、博物館の「経営」と営利企業の「経営」との違い—						
	2	・博物館経営の体系—経営理念・使命～評価制度—						
	3	・博物館の経営資源①—財務、施設・設備、人材—						
	4	・博物館の経営資源②—収蔵品—						
	5	・経営資源の活用①—常設展と企画展—						
	6	・経営資源の活用②—教育普及、福祉への取り組み—						
	7	・博物館における連携①—市民参画、地域社会						
	8	・博物館における連携②—他機関、ネットワーク						
	9	・利用者との関係①—マーケティング、広報、ブランディング—						
	10	・利用者との関係②—利用者へのサービス、ミュージアムショップ、レストランなど—						
	11	・国公立博物館の経営形態と経営課題① —独立行政法人制度、指定管理者制度など—						
	12	・国公立博物館の経営形態と経営課題② —独立行政法人制度、指定管理者制度など—						
	13	・私立博物館の経営形態と経営課題 —公益財団法人による経営を中心に—						
	14	・博物館倫理、博物館の危機管理						
15	・まとめ:利用者視点のマネジメント							
授業外学習	<p>時間をつくって博物館で行われている常設展・企画展の見学やワークショップなどの普及活動に参加して、館と学芸員の実際の活動にふれるとともに、他の鑑賞者、参加者の反応もみておく。成果をレポートにまとめ授業の中で発表する。</p>							
教科書	—							
主要参考書	『博物館学Ⅲ—博物館情報・メディア論*博物館経営論』(学文社)、『市民のなかの博物館』(吉川弘文館)							
評価方法	期末レポート70%、授業期間中の課題レポート・発表30%							
教員への連絡方法	初回授業で連絡先を伝えます。							

科目名					担当者名			
博物館実習					佐藤 実			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2017～	—	—	—	—	—	—	—	—
～2016	資格(博物館学芸員)	自由	実習	3	4	通年	F(その他)	白山・外部
履修条件	博物館学芸員養成課程の登録をしており、原則として「生涯学習概論Ⅰ」「博物館概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を履修済みであること。また「博物館情報・メディア論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館経営論」のうち、2科目以上を履修済みであることが望ましい。							
授業概要	<p>[本授業はく博物館学芸員養成課程の必修科目&gt;として開講されることに留意]</p> <p>実際の博物館・美術館の現場では、博物館学芸員課程にて学んできた知識のみならず、実作品についての多様な技術が必要になる。博物館学芸員課程にて学んできた知識を踏まえ、社会的ニーズとして今日求められる現代の学芸員の実践的能力、実際の現場に必要な多様な技術の基礎と知識を習得する。</p> <p>*本授業では、実習という性格上、授業期間以外の拘束もあることを留意の上、履修すること。</p>							
到達目標	博物館学芸員課程にて学んできた知識を踏まえ整理しつつ、実際の現場に必要な多様な技術の基礎と知識を習得し、かつ今日の博物館・美術館の置かれている状況の調査や見学から、博物館・美術館の社会的ニーズについて理解を深め、現代の学芸員が必要とする実践的な能力の基礎を養う。							
授 業 計 画	内 容							
	<p>博物館・美術館への派遣実習が核となるため、地域の博物館・美術館の置かれている状況を、見学、調査し、今日における社会的ニーズについて学ぶ。</p> <p>それと平行して学内でも、各種作品の取り扱い技術、展示技術、広報、普及活動の実際につまむ具体的な技術について、出来る限り効率的に実技実習する。</p> <p>とくに20世紀以降の今日的メディアによる資料の取り扱いについて、収集・保存から権利処理・公開までの一連の流れを学び、実践的な能力を習得する。</p> <p>授業計画とスケジュール</p> <p>(1) 講義 2019年6月： 博物館・美術館のはじまりと意義、そして地域社会との関わりについて学習 2019年6月～7月： 資料の媒体の変化と保存整理の意義について 2019年10月～11月： 展覧会の事例、バリアフリー・市民参画・市民協働に関する美術館・博物館の近年の試み 2019年11月～12月： 資料の公開(デジタルアーカイブ)と著作権</p> <p>(2) 実技実習 2019年6月～7月： 展示技法の実技習得(額装など) 2019年10月～12月： 資料整理実習・学内資料の目録化</p> <p>(3) 見学 4回程度 2019年6月： 社会における博物館・美術館について見学 2019年7月： 施設見学 ガイド付き 整理室、収蔵庫など施設の裏側を見学 2019年10月： 展覧会見学 展覧会のテーマについて見学 2019年11月： 展覧会見学 近年の展示技法について見学</p> <p>(4) 館園実習への準備 (5) 館園実習 (6) 事後指導</p> <p>尚、授業の進行並びに館園実習時期により各回の計画とは異なる進行で授業を進める場合がある。</p>							
授業外学習	美術館・博物館に対する社会的ニーズの変化とその対応など、学芸員を志す者にとって常日頃から関心を向けておく必要がある。積極的にさまざまな美術館・博物館に足を運ぶこと。							
教科書	講義時間中に随時、指示する。							
主要参考書	『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』発行年2004年3月 丸善出版							
評価方法	出席状況、技術の習得程度及びレポート、実習館からの報告により総合的に評価。実習は社会との接点となるため実習館からの報告を重視。また欠席、遅刻が多い者は年度途中においても履修放棄とみなす。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
文芸専門演習 I					藤田 直哉 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山
履修条件	文章系・文芸コースの学生。							
授業概要	映画を作るのではなく、文芸を作る。文芸とは、文章による芸術のことだ。映画では多くの才能が集まり、知恵と技術と時間と体力を使って表現することを、文芸では一人でやらなくてはならない。それは孤独であるが、自由である。本演習では、実際に「書く」ことを通じて、その基本的な技術を身に付け、書くことの難しさと楽しさを知っていく。							
到達目標	小説・物語とはどのようなものなのかを知り、短編を書けるようになる。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	好きな小説を真似ろ！——一番好きな小説を一作選び、真似をして書いてみる						
	2	ジャンル小説と映画——面白い「物語」はどこから来たのか						
	3	ミステリを読む——「読ませる機械」としてのミステリ 江戸川乱歩「D坂の殺人事件」						
	4	ホラーを読む——スティーヴン・キング「霧」						
	5	SFを読む——フィリップ・K・ディック						
	6	恋愛小説を読む——住野よる『君の隣をたべたい』						
	7	エンターテインメント小説を書く——全員で相互に読み、講評をする。						
	8	純文学を読むⅠ——野間宏「暗い絵」						
	9	純文学を読むⅡ——自分のことを書く、私小説						
	10	純文学を読むⅢ——己の主題を書く 太宰治「道化の華」						
	11	純文学を読むⅣ——何をどう書いても自由 高橋源一郎「連続テレビ小説ドラえもん」						
	12	純文学を読むⅤ——方法の冒険						
	13	原稿用紙三〇枚の短編を完成させ、全員で講評しあう。						
授業外学習	書くことは自由だが、同時に孤独であり、最終的には誰も助けてくれない。良いものを書くために、授業外時間で良い小説をたくさん読み、世界や社会に対する興味関心を磨いてほしい。読むべき作品リストは配布する。							
教科書	—							
主要参考書	高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』、クーンツ『ベストセラー小説の書き方』							
評価方法	授業態度(30%)、積極性(30%)、課題の内容(40%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
文芸専門演習Ⅱ〈批評〉					大澤 信亮 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	この講義では、様々なジャンルの批評文を読み、書く。批評とは、自らの思考や感覚それ自体を、言葉によって作品化する試みである。そのため、批評の本質は、その自由さにあると言える。ここでは「映画批評」、「文芸批評」、「サブカルチャー批評」の著名な作品を取りあげ、それらが対象についていかに思考し、その思考を作品化しているかを学ぶ。その上で、受講者自身が問題意識および批評方法を発見・展開するために、任意の対象について批評文を執筆し、発表する(×3回)。その発表について、講師や受講者が意見し、議論するというかたちで講義を進める。この講義は4年次の「卒業制作」で批評を選択する者の準備にもなっている。							
到達目標	様々なジャンルの批評を読む力・書く力を身につける。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画批評:佐藤忠男『小津安二郎の芸術』						
	2	映画批評:蓮實重彦『監督 小津安二郎』						
	3	合宿:「小津安二郎記念 蓼科高原映画祭」						
	4	発表(映画祭で観た小津作品について論じる)						
	5	文芸批評:山城むつみ「小林批評のクリティカル・ポイント」						
	6	文芸批評:柄谷行人「意識と自然」						
	7	文芸批評:小林秀雄「モーツァルト」						
	8	発表(授業で指示する課題作品について論じる)						
	9	サブカルチャー批評:大塚英志『物語消費論』						
	10	サブカルチャー批評:東浩紀『動物化するポストモダン』						
	11	サブカルチャー批評:杉田俊介『宮崎駿論』						
	12	発表(授業で指示する課題作品について論じる)						
13	総評							
授業外学習	9月下旬に合宿を行う(蓼科高原映画祭)。							
教科書	教場で指示する。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	映画、文芸、美術、それぞれの課題レポート(90%)、授業貢献度(10%)							
教員への連絡方法	メール							



# 科目別索引

<b>い</b>	インターンシップ	55	<b>こ</b>	合同制作くドラマ(演出コース)	106
	インプロビゼーション演習	94		合同制作くドラマ(身体表現・俳優コース)	107
<b>え</b>	映画・映像文化専門演習Ⅱ	103		合同制作くドラマ(撮影照明コース)	108
	映画・映像文化専門演習Ⅲ	113		合同制作くドラマ(録音コース)	109
	映画史概論(前期)	12		合同制作くドラマ(編集コース)	110
	映画史概論(後期)	13		国際合同制作く日韓合同映画制作	49
	映画史基礎	15		心の健康	37
	映画制作基礎演習	78		こども映画教育演習	54
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ(戦後日本)	36	<b>さ</b>	撮影照明基礎演習	86
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ(国際情勢)	38		撮影照明専門演習(2年)	91
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ(ジェンダーとセクシュアリティ)	43		撮影照明専門演習(3年)	99
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ(ネイションとエスニシティ)	44		雑誌制作	89
	映画と文学	26		サブ・カルチャー論	19
	映画と演劇	30	<b>し</b>	社会学	40
	映画美術演習Ⅰ	68		写真論	25
	映画美術演習Ⅱ	69		生涯学習概論Ⅰ	63
	映画プロデュースWS	67		身体表現専門演習	98
	映画文化特殊講義(環境・災害・技術)	62	<b>す</b>	スタートアップ演習	8
	映画流通論Ⅰ	39	<b>そ</b>	卒業シナリオⅠ	120
	映画流通論Ⅱ	41		卒業シナリオⅡ	121
	英語Ⅰ	46		卒業制作く公演(身体表現・俳優コース)	119
	英語Ⅱ	51		卒業制作くドキュメンタリー	118
	英米文学	32		卒業制作くドラマ(演出コース)	114
	演劇史Ⅰ(物語の原型を探る)	34		卒業制作くドラマ(撮影照明コース)	115
	演劇史Ⅱ(原型の崩壊から現代まで)	35		卒業制作くドラマ(録音コース)	116
	演劇WS	72		卒業制作くドラマ(編集コース)	117
	演出基礎演習Ⅰ(ドキュメンタリー)	85		卒業論文Ⅰ	122
	演出基礎演習Ⅱ(ワンシーン)	90		卒業論文Ⅱ	123
	演出専門演習Ⅱ(3分エチュード)	97	<b>た</b>	体育	64
	演出論Ⅰ	70	<b>ち</b>	中国語	47
	演出論Ⅱ	75		長編シナリオ演習Ⅰ	79
<b>か</b>	韓国語	52		長編シナリオ演習Ⅱ	80
<b>き</b>	脚本基礎演習	77		長編シナリオ演習Ⅰ(編入生)	81
	脚本専門演習Ⅱ(短編映画制作)	95		長編シナリオ演習Ⅱ(編入生)	82
	脚本専門演習Ⅲ(脚色)	112		長編シナリオ制作(再履修)	83
	脚本WSⅠ(演出、身体表現・俳優コース)	104		長編シナリオ演習Ⅱ(再履修)	84
	脚本WSⅡ(演出、身体表現・俳優コース)	105	<b>て</b>	テーマ研究Ⅰ(アジア映画入門)	18
	脚本WSⅡ(脚本コース)	96		テーマ研究Ⅱ(日本映画と中国語圏映画)	22
	キャリア・サポートⅡ	53		テーマ研究Ⅲ(映画ジャンル論)	23
<b>け</b>	現代思想	61			

デジタル映像技術概論	42	ろ	録音基礎演習	87
デジタル技術WS	65		録音専門演習(2年)	92
哲学	33		録音専門演習(3年)	100
			録音WS	71
<b>と</b>				
特殊撮影・VFX基礎	74			
特殊撮影・VFXWS	76			
ドキュメンタリー映画史	16			
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	102			
ドキュメンタリー専門演習Ⅲ	111			
ドキュメンタリーWS	66			
<b>に</b>				
日本映画史Ⅰ(前期)	10			
日本映画史Ⅰ(後期)	11			
日本映画史Ⅱ	14			
日本語Ⅰ	45			
日本語Ⅱ	50			
日本伝統音楽概論	59			
日本文化論	20			
日本文化論Ⅱ	56			
人間総合研究	9			
<b>は</b>				
博物館経営論	125			
博物館実習	126			
博物館展示論	124			
<b>ひ</b>				
美術史Ⅰ〈日本美術史〉	29			
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉	31			
批評論	58			
表象文化論Ⅰ	17			
表象文化論Ⅱ	21			
<b>ふ</b>				
ファッション文化史	28			
文学	27			
文芸専門演習Ⅰ	127			
文芸専門演習Ⅱ	128			
文章作法	48			
<b>へ</b>				
編集基礎演習	88			
編集専門演習(2年)	93			
編集専門演習(3年)	101			
編集WS	73			
<b>み</b>				
民俗学〈ビジュアル・フォークロア〉	60			
<b>も</b>				
物語論	24			
物語WS	57			

# 授業担当教員

- あ** 阿部互英（教授、映画編集）  
編集WS、編集基礎演習、編集専門演習、合同制作、卒業制作  
荒井晴彦（特任教授、脚本家、映画監督）  
長編シナリオ演習Ⅰ・Ⅱ、脚本専門演習Ⅲ、卒業シナリオⅠ・Ⅱ  
アンニ（特任教授、日中映画研究）  
日本語Ⅰ、テーマ研究Ⅱ
- い** 石坂健治（教授、映画祭ディレクター）  
映画史基礎、ドキュメンタリー映画史、テーマ研究Ⅰ、映画流通論Ⅰ・Ⅱ、演劇史Ⅰ・Ⅱ、映画・映像文化専門演習Ⅲ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ  
磯谷悠子（兼任講師、精神保健福祉士、カウンセラー）  
心の健康  
伊津野知多（准教授、映画理論）  
映画史概論、映画史基礎、表象文化論Ⅰ・Ⅱ、インターシップ、映画・映像文化専門演習Ⅱ・Ⅲ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ  
稲垣尚夫（客員教授、美術監督）  
映画美術演習Ⅰ・Ⅱ  
今村文彦（兼任講師、津波工学）  
映画文化特殊講義  
岩田道子（兼任講師、ラジオ体操1級指導士、健康運動指導士）  
体育
- お** 大澤信亮（准教授、批評家）  
物語WS、批評論、現代思想、雑誌制作、映画・映像文化専門演習Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ、文芸専門演習Ⅱ  
大友りお（教授、文学）  
日本語Ⅰ、英米文学、英語Ⅱ、文章作法、映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ  
緒方明（教授、映画監督）  
キャリア・サポートⅡ、演出論Ⅰ、特殊撮影・VFX基礎、特殊撮影・VFXWS、演出基礎演習Ⅱ、卒業制作  
小川稔（兼任講師、美術批評、公立美術館長）  
美術史Ⅰ〈日本美術史〉  
尾上克郎（特任教授、特撮監督・VFXスーパーバイザー）  
特殊撮影・VFX基礎、特殊撮影・VFXWS
- か** 学谷亮（兼任講師、フランス文学・地域文化研究）  
英語Ⅰ
- く** 熊岡路矢（特任教授、国際協力、NPO法人顧問）
- 映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ、文章作法  
熊澤誓人（准教授、映画監督）  
こども映画教育演習、演出論Ⅱ、演出専門演習Ⅱ、合同制作  
栗原保（兼任講師、生涯学習、家庭教育、NPO法人理事長）  
生涯学習概論Ⅰ
- さ** 斎藤久志（准教授、映画監督、脚本家）  
脚本基礎演習、長編シナリオ演習Ⅰ・Ⅱ、インプロビゼーション演習、脚本WSⅠ・Ⅱ、脚本専門演習Ⅱ、卒業シナリオⅠ・Ⅱ  
佐川美智子（兼任講師、西洋美術史、版画史）  
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉  
桜井進（兼任講師、数学、サイエンスナビゲーター）  
映画文化特殊講義  
佐藤忠男（名誉学長、映画史）  
日本映画史Ⅰ  
佐藤実（兼任講師、アーティスト、キュレーター）  
博物館展示論、博物館実習  
さのてつろう（教授、撮影監督）  
デジタル技術WS、撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、合同制作、卒業制作
- し** 志賀健二郎（兼任講師、博物館経営、専門学校長）  
博物館経営論  
澁澤壽一（兼任講師、農学、NPO法人理事長）  
映画文化特殊講義  
新家子美穂（専任講師、撮影）  
撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、合同制作、卒業制作
- せ** 関川夏央（特任教授、作家）  
文学、映画と文学、映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ、卒業論文Ⅱ
- た** 高橋世織（教授、文芸評論家）  
日本文化論、日本文化論Ⅱ、映画文化特殊講義、写真論、卒業論文Ⅰ・Ⅱ  
高橋登（兼任講師、映像・音響技術）  
デジタル映像技術概論  
田辺秋守（教授、映画批評）  
哲学、テーマ研究Ⅲ、物語論、映画・映像文化専門演習Ⅱ・Ⅲ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
- つ** 弦巻裕（教授、録音）  
録音WS、録音基礎演習、録音専門演習、合同制作、卒業制作

- て** 天願大介（教授、映画監督、脚本家）  
映画と演劇、演劇WS、国際合同制作、身体表現専門演習、卒業制作
- と** 富山省吾（本学園理事長、映画プロデューサー）  
映画流通論Ⅰ、映画プロデュースWS
- な** 中原 俊（教授、映画監督）  
日本映画史Ⅱ、映画美術演習Ⅰ・Ⅱ、合同制作、卒業制作  
中山周治（兼任講師、メディア・リテラシー、映画祭代表）  
こども映画教育演習
- の** 野川美穂子（兼任講師、日本芸能史）  
日本伝統音楽概論
- は** ハン・トンヒョン（准教授、社会学）  
スタートアップ演習、人間総合研究、映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ、社会学、ファッション文化史、韓国語、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
- ひ** 姫田蘭（兼任講師、民俗学、映像制作）  
民俗学
- ふ** 藤田直哉（専任講師、文芸評論家）  
サブ・カルチャー論、雑誌制作、卒業論文Ⅰ・Ⅱ、文芸専門演習Ⅰ
- ほ** 細野辰興（教授、映画監督）  
人間総合研究、日本映画史Ⅱ、映画制作基礎演習
- も** 守内映子（特任准教授、日本語教育）  
日本語Ⅰ・Ⅱ
- や** 安岡卓治（教授、映画プロデューサー）  
ドキュメンタリーWS、演出基礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅱ・Ⅲ、卒業制作  
山口紀子（兼任講師、日本語教育）  
日本語Ⅰ
- り** 劉書明（兼任講師、日本古典文学）  
中国語
- わ** 若林大介（専任講師、録音）  
録音WS、録音基礎演習、録音専門演習、合同制作、卒業制作